

	授業科目	単位数		年間 コマ 数	履修方法 及び 卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		担当者	単位認定者		
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
教養科目群	発達・行動・心理	1	心理学	2		15								榎本 光邦	榎本 光邦		
		2	生命倫理	2		15								磯部 太一	磯部 太一		
		3	教育学		2	15									横井 利男	横井 利男	
		4	医療民俗学		2	15									板橋 春夫	板橋 春夫	
		5	健康スポーツ理論		2	15									鈴木 聡子	鈴木 聡子	
		6	健康スポーツ実技	1		15									鈴木 聡子・衣川 隆	鈴木 聡子	
	言語と文化	7	総合英語Ⅰ	1		15									杉田 雅子	杉田 雅子	
		8	総合英語Ⅱ	1		15									杉田 雅子	杉田 雅子	
		9	英語表現		1	15									柴山森二郎	柴山森二郎	
		10	ステップアップ英語		1	15									柴山森二郎	柴山森二郎	
		11	中国語		1	15									深町 悦子	深町 悦子	
		12	ロシア語		1	15									青木 順	青木 順	
	人と社会・生活	13	個人・家族と生活	2		15									坂本 祐子	坂本 祐子	
		14	個人・家族と社会	2		15									内藤 和美	内藤 和美	
		15	地域社会学	2		15									坂本 祐子	坂本 祐子	
		16	ボランティア活動論		1	15				15					竹澤 泰子	竹澤 泰子	
		17	法学(医療法規含)		2	15									斎藤 周・酒井美絵子	斎藤 周	
		18	経済学		2	15									飯島 正義	飯島 正義	
		19	環境学		2	15									西菌 大実	西菌 大実	
		20	情報処理Ⅰ	1		15									西谷 泉	西谷 泉	
		21	情報処理Ⅱ		1	15									西谷 泉	西谷 泉	
		22	生活の中の数学		1	7.5									栗田 昌裕	栗田 昌裕	
	基礎教育	23	大学の学び入門	1		15									杉田・浅見・榎本	杉田 雅子	
		24	生物学	1		15									佐藤久美子	佐藤久美子	
		25	化学	1		15									日置 英彰	日置 英彰	
		26	物理学	1		15									横井 利男	横井 利男	
計(履修方法・卒業要件)					28												
専門基礎科目群	人体の構造と機能及び心身の発達	27	解剖学Ⅰ	2		30								浅見知市郎	浅見知市郎		
		28	解剖学Ⅱ	1		15									浅見知市郎	浅見知市郎	
		29	解剖学実習	1		22.5									小林 寛	小林 寛	
		30	表面解剖学と触診法	1		15									仲保 徹	仲保 徹	
		31	生理学Ⅰ	1		15									洞口 貴弘	洞口 貴弘	
		32	生理学Ⅱ	1		15									洞口 貴弘	洞口 貴弘	
		33	生理学実習	1		22.5									洞口 貴弘	洞口 貴弘	
		34	運動生理学	1		15									江口 勝彦	江口 勝彦	
		35	生化学	1		15									高橋 克典	高橋 克典	
		36	運動学Ⅰ	2		30									高橋 正明	高橋 正明	
		37	運動学Ⅱ	1		15									高橋 正明・木村 朗	高橋 正明	
		38	運動学実習	1		22.5									江口・目黒・加藤・仲保・黒川	江口 勝彦	
		39	人間発達学	1		15									中 徹	中 徹	
		40	栄養学(含食品学)		1	15									後藤 香織	後藤 香織	
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	41	医療概論	1		15									小林 功	小林 功
			42	病理学	1		15									塩崎 秀一	塩崎 秀一
			43	薬理学	1		15									栗田 昌裕	栗田 昌裕
			44	公衆衛生学	1		7.5									石館 敬三	石館 敬三
	45		臨床検査・画像診断学	1		15					15				小林 功・宗宮 真	小林 功	
	46		臨床医学特殊講義	1		15					15				小林・下村・正田	小林 功	
	47		内科学	1		15					15				栗田 昌裕	栗田 昌裕	
	48		整形外科Ⅰ	1		15					15				宗宮 真	宗宮 真	
	49		整形外科Ⅱ	1		15					15				宗宮 真	宗宮 真	
	50		臨床神経学Ⅰ(神経内科学)	1		15					15				小林・宗宮・川手	小林 功	
	51		臨床神経学Ⅱ(小児神経学・脳神経外科学)	1		15					15				井埜 利博・設楽 信行	井埜 利博	
	52		精神医学	1		15					15				平尾 良雄	平尾 良雄	
	53		小児科学	1		15					15				井埜 利博	井埜 利博	
	54		リハビリテーション医学	1		15					15				栗田 昌裕	栗田 昌裕	
	55		老年医学	1		7.5					7.5				栗田 昌裕	栗田 昌裕	
	56		救急・免疫・感染症学	1		15					15				高橋 克典・北林 司	高橋 克典	
	57		スポーツ医学	1		15					15				奈良 純夫	奈良 純夫	
	58		緩和医療学		1	15					15				江口 勝彦・斎藤 龍生	江口 勝彦	
	59	カウンセリング		1	15					15				森 慶輔	森 慶輔		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	60	リハビリテーション概論	1		15									松澤 正	松澤 正	
		61	リハビリテーション関連領域論	1		15					15				唐澤・真砂・谷	唐澤 一男	
		62	臨床心理学	1		15									森 慶輔	森 慶輔	
63		安全管理	1		15						15			酒井美絵子	酒井美絵子		
64		生体計測工学	1		15						15			目黒 力	目黒 力		
65		医療統計学	1		15					15				木村 朗	木村 朗		
一		社会福祉・地域サービス論		1	15						15			今年度開講せず	今年度開講せず		
一		障害者スポーツ・レクリエーション論		1	15						15			今年度開講せず	今年度開講せず		
66	リハビリテーション工学	1		15					15				目黒 力	目黒 力			
計(履修方法・卒業要件)					39												

専 門 科 目 群	授業科目	単位数		年間 コマ 数	履修方法 及び 卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		担当者	単位認定者		
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
基礎理学療法学	67 理学療法概論	1		15	選択1単位以上	15								木村 朗	木村 朗		
	68 基礎理学療法学	1		15			15								江口 勝彦	江口 勝彦	
	69 理学療法セミナー	1		15							15				鈴木 学	鈴木 学	
	70 理学療法特論	1		15								15			目黒 力	目黒 力	
	71 臨床推論演習	1		15							15				鈴木 学	鈴木 学	
	72 理学療法研究論	1		15							15				木村 朗	木村 朗	
	73 理学療法管理学		1	7.5									7.5		江口 勝彦	江口 勝彦	
	74 卒業研究		2	30								30		木村 朗他	木村 朗		
	理学療法 評価学	75 理学療法評価学	2		15	必修4		15							蛭間・加藤・仲保・黒川	蛭間 基夫	
		76 理学療法評価学演習	1		15				15							蛭間・加藤・仲保・黒川・浅田	蛭間 基夫
		77 臨床動作分析学	1		15						15					高橋 正明・仲保 徹	高橋 正明
	理学療法治療学	78 運動療法総論	1		15	必修2.5単位			15						加藤 仁志	加藤 仁志	
		79 運動器系理学療法評価・治療学	2		15				15							城下 貴司	城下 貴司
		80 運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	1		15					15						城下 貴司	城下 貴司
		81 運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ	1		15						15					城下 貴司	城下 貴司
		82 神経系理学療法評価・治療学	2		15					15						鈴木 学	鈴木 学
		83 神経系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	1		15					15						鈴木 学	鈴木 学
		84 神経系理学療法評価・治療学演習Ⅱ	1		15						15					鈴木 学	鈴木 学
		85 呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学	2		15						15					仲保 徹	仲保 徹
		86 呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学演習	1		15							15				木村 朗・高橋 哲也	木村 朗
		87 小児理学療法学	1		15							15				中 徹	中 徹
		88 理学療法特殊講義	1		7.5							7.5				江口 勝彦・柴田 雅祥	江口 勝彦
		89 物理療法学	2		15						15					松澤 正	松澤 正
		90 物理療法学演習	1		15							15				松澤・目黒・黒川	目黒 力
		91 装具学	2		30							30				江口 勝彦	江口 勝彦
		92 義肢学	1		15								15			平井 正利	平井 正利
		93 徒手系理学療法学	1		15								15			城下 貴司	城下 貴司
94 スポーツ傷害理学療法学		1		15								15			城下・山口・松田	城下 貴司	
95 日常生活活動学	2		15					15					蛭間 基夫	蛭間 基夫			
96 日常生活活動学演習	1		15						15				蛭間 基夫	蛭間 基夫			
地域理学 療法学	97 地域理学療法学	2		15	必修7					15				蛭間・加藤・伊藤	蛭間 基夫		
	98 地域理学療法学演習	1		15							15				蛭間 基夫・加藤 仁志	蛭間 基夫	
	99 生活環境学	2		15							15				目黒 力・佐藤 満	目黒 力	
	100 環境理学療法学	2		15							15				目黒 力・中村 大介	目黒 力	
臨床実習	101 見学実習	1		1w	必修1.8				1w					鈴木 学他	仲保 徹		
	102 評価学実習	3		3w							3w				鈴木 学他	仲保 徹	
	103 総合臨床実習Ⅰ	7		8w								8w			鈴木 学他	蛭間 基夫	
	104 総合臨床実習Ⅱ	7		8w								8w			鈴木 学他	蛭間 基夫	
計（履修方法・卒業要件）					61												
卒業要件（最低）単位数					128												

授 業 科 目 名	心 理 学	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習（講義内にて）・事例検討	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	心理学の各領域に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 心理学の概要を理解し、国家試験対策の基礎を形成する。 2. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。 3. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に生かす。		
関 連 科 目	教養科目：教育学，大学の学び入門 専門基礎科目：人間発達学，発達心理学，臨床心理学，カウンセリング 専門科目：地域理学療法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験（80％）に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点（20％）を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義時に指示をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	心理学の歴史と方法	心理学の領域，心理学史
2	脳と心理学	脳の構造，脳の働き，高次脳機能障害
3	心の発達	発達の諸側面，子どもの発達，生涯発達心理学，発達障害
4	感覚と知覚	感覚，知覚的な体制化，奥行き知覚と知覚の恒常性，錯覚，運動の知覚
5	学習	レスポデント条件づけ，オペラント条件づけ
6	記憶と思考	記憶のしくみ，記憶の二重貯蔵モデル
7	動機づけと情動	動機づけと欲求，感情・情動，表出行動とコミュニケーション
8	性格	類型論，特性論，性格検査の信頼性と妥当性
9	対人関係と集団	対人認知，対人感情，関係の維持
10	臨床心理学Ⅰ	精神分析（フロイト），分析心理学（ユング）
11	臨床心理学Ⅱ 心理療法の技法	コラージュ療法の体験
12	臨床心理学Ⅲ 心理臨床に必要な精神医学の知識	精神障害の分類，精神障害の治療
13	臨床心理学Ⅳ カウンセリング	来談者中心療法（ロジャース）
14	臨床心理学Ⅴ 心理臨床の実践領域	教育領域の実践，福祉領域の実践，医療・保健領域の実践，司法・矯正・警察領域の実践，産業領域の実践
15	まとめ	これまでの広義の総括

教 科 書	「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」山 祐嗣、山口 素子、小林 知博編著（北大路書房）
参 考 書	講義中に随時紹介する

授 業 科 目 名	生 命 倫 理	単 位 認 定 者	磯 部 太 一
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・グループワーク・発表	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	医療に関わる専門家として身につけておかなければならない生命倫理・医療倫理の概要を、講義形式だけではなく、映像資料を適宜参照したり、ワークショップやグループワークなどを実施し能動的に学んでいきます。		
学 習 到 達 目 標	医療に関わる専門家という立場からだけでなく、医療を受ける患者や、患者の近親者の立場にたつて生命倫理的観点から多角的に考えることができるようになることを目指します。		
関 連 科 目	公衆衛生学、チーム医療論など。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中に実施するワークショップの参加レポート (30%)、平常点 (30%)、期末レポート (40%) などによる総合評価。		
準 備 学 習 の 内 容	授業の前後において、可能な範囲で、教科書や参考書の該当箇所を目を通してください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	授業全体のイントロダクション・生命倫理の誕生と展開1	授業全体の予定や授業の進め方などの説明 生命倫理の概要と社会的・歴史の変遷
2	生命倫理の誕生と展開2	生命倫理の概要と社会的・歴史の変遷 (続き)
3	「患者-医療者」関係1	医の倫理、新しい医療のモデル、患者と医療者
4	「患者-医療者」関係2	
5	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントの歴史、インフォームド・コンセントの意義
6	中絶と出生前診断・生殖技術	中絶を巡る立場と問題、様々な生殖技術、生殖技術と倫理問題
7	安楽死と治療停止1	安楽死の歴史と概要、安楽死の問題点、安楽死を巡る日本の状況、安楽死と治療停止の関係
8	安楽死と治療停止2	
9	前半のまとめ	講義前半のまとめと復習 (*授業の進捗度合いにより変更の可能性あり)
10	グループワーク	「安楽死と治療停止」をテーマにしたグループワーク
11	グループプレゼンテーション	「安楽死と治療停止」をテーマにしたグループワーク結果の発表
12	脳死	脳死問題の背景、脳死の歴史と定義、脳死の判定基準
13	臓器移植	臓器移植の歴史、臓器移植を巡る問題、臓器移植と法
14	医療の役割	健康と病気、医療の論理、医学の進歩と医学研究
15	まとめ	授業全体のまとめ、期末レポート相談

教 科 書	『バイオエシックス入門—生命倫理入門』今井道夫、香川知晶 (編)、東信堂 (第三版版; 2001年)、2500円。 *第三版を使用する。
参 考 書	『命は誰のものか』香川知晶著、ディスカヴァー・トゥエンティワン (2009年) 『ケース・スタディ生命倫理と法 第2版』樋口範雄編、有斐閣 (第2版: 2012年)

授 業 科 目 名	教 育 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	意図的な教育は、主として学校や家庭で行われるが、看護や医療の現場においても教育的な配慮が必要である。教員や親として、また医療従事者として必要な「教育者」の素養を身につけることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	人の成長・発達と教育の関係を考察することや、公教育の成立の過程や現状の問題点などについて理解することを通して、教育の本質（概念・思想・理論）に迫り、対象である学習者（生徒、我が子、患者）の実態に即した望ましい教育のあり方を考えることができるようにする。		
関 連 科 目	心理学・教育心理学・教育情報学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験（70%）・随時実施するミニ論文などを通しての授業への参加度（30%）		
準 備 学 習 の 内 容	授業内容について、シラバスや各回終了時の「次時の予告」に基づき、自分の経験などから問題意識をもっておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ヒトとは何か	ヒトの特性
2	発達	発達と学習（個の欲求）
3	教育	学習と教育（社会の要請）
4	教育内容	「覚える」と「わかる」
5		学力とは何か
6	教育方法	「教える」と「育てる」
7		学習意欲・動機付け
8	心の教育	道徳的心情の教育
9		宗教教育・人権尊重の教育
10	教育制度	近代以前
11		学校教育と教育改革
12	学校不適應	いじめ・不登校
13		
14	特別支援教育	心身の障害
15		発達障害

教 科 書	使用しない
参 考 書	講義時に適宜紹介する

授 業 科 目 名	医 療 民 俗 学	単 位 認 定 者	板 橋 春 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	授業終了時
科 目 の 目 的	誕生、病気、医療、死、靈魂をキーワードに、医療文化を民俗学的視点から学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	現代医療の問題点を考えるための思考のレッスンをを行い、日常生活における疑問解決の方法を獲得する。		
関 連 科 目	生命倫理、家族学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験（80点）、課題提出（20点）		
準 備 学 習 の 内 容	教科書を事前に読み、必要に応じて下調べをする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2 3 4 5	(1) 俗信と医療	①授業の概要と学習の進め方（オリエンテーション） ②「元気でね」となぜ言うのか？（「気」の文化） ③入院は選べないが退院は選べる？（医療と六曜） ④50万人も出生数が減ったのはなぜ？（丙午俗信と出産） ⑤なぜ厄除けをするのか？（医療と俗信）
6 7 8 9	(2) 身体と靈魂の民俗	⑥どうして箸を使うのか？（食事の作法） ⑦盲目の旅芸人「瞽女」（映像鑑賞） ⑧読めない名前はなぜ増える？（現代の名付け事情） ⑨名前はどうかけるか？（名前といのち観）
10 11 12 13 14 15	(3) 看取りと死の民俗	⑩たそがれ時はどんな時？（夜の民俗と妖怪） ⑪ポックリ信仰と長寿者（高齢社会の民俗） ⑫昔、病人をカゴで運んだ（救急搬送と医療） ⑬畳の上で死ねないのはやくざだった（看取りと臨終の民俗） ⑭死はどう判定されるのか？（死の判定とタマヨビ習俗） ⑮人はなぜ死ぬのか？（死の儀礼と民俗）

教 科 書	板橋春夫著『叢書いのちの民俗学3生死』社会評論社、2010年
参 考 書	授業でそのつど紹介する予定。

授 業 科 目 名	健 康 ス ポ ー ツ 理 論	単 位 認 定 者	鈴 木 聡 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	参考書の内容を中心に講義を行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	健康と運動、環境、生命科学、老化と寿命などに関する講義内容を学習する中で、現代社会における健康の意味や健康の維持・増進の方法について考えていく。		
学 習 到 達 目 標	健康と運動、環境、生命科学、老化と寿命などに関する講義の内容を理解できる。 理解した内容に関する自分の考えをまとめることができる。		
関 連 科 目	健康スポーツ実技、運動生理学、運動学、スポーツ医学、障害者スポーツ・レクリエーション論等		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	① 平常点 (50%)      ② ミニレポート (20%)      ③ 期末試験もしくは最終レポート (30%)		
準 備 学 習 の 内 容	授業の出席、ミニレポートの提出が重要。また毎回ノートを取り、講義に関する自分の考えをまとめること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス	体育、運動、スポーツについて
2	体力について	体力とは何か
3	生命科学の基礎	生命科学の基礎
4	身体の仕組みと運動①	身体の仕組みと運動①
5	身体の仕組みと運動②	身体の仕組みと運動②
6	運動と生活習慣病	生活習慣病と関連する要因
7	身体の発育・発達と運動	子どもの時期の運動
8	学生生活と健康	健康を維持・増進するための運動
9	老化、寿命と運動①	老化に伴う身体機能の変化
10	老化、寿命と運動②	老化と運動
11	障がい者スポーツ・アダプテッドスポーツ	障がい者スポーツ、アダプテッドスポーツについて
12	食事と健康	運動と栄養、体重コントロール、メンタルコントロールについて
13	精神の健康	運動、栄養と心理の関わり
14	環境と健康	運動と水分補給、熱中症
15	まとめ	まとめ

教 科 書	特に指定はありません。
参 考 書	「スポーツ医学Ⅰ・Ⅱ」池上晴夫著 朝倉書店 「若いときに知っておきたい運動・健康とからだのひみつ」田口貞善、山地啓司著 近代科学社 「健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一 監修 杏林書院 等

授 業 科 目 名	健 康 ス ポ ー ツ 実 技	単 位 認 定 者	鈴 木 聡 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	スポーツ実技を中心に講義を行う	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	各種のスポーツ実践を通じて、基本的技能の習得を深めるとともに、身体を動かす楽しさ・チームワークの重要性を体感することを目的とする。加えて、1年次教育プログラムの目的とするより豊かで協同的な人間関係と学生生活の充実の一助となるよう学生相互のコミュニケーションの機会を意図的に設ける。		
学 習 到 達 目 標	目標とする学生らしさを醸成するために ①挨拶と敬語の励行（相手より先に挨拶する）、「宜しくお願ひします」「お疲れ様でした」。 ②準備と後片付けをしっかりとる。 ③怒の心・感謝のできる心・謙虚な心・応援される人間の養成。 ④リーダーシップを発揮できる学生を育てる。 ⑤個人や仲間と小さい壁を乗り越えたことで達成感を体験し、上級生になったときの大きな壁に向かっていける気持ちを醸成する。 ⑥生涯にわたりスポーツを楽しむ心を育てる。		
関 連 科 目	健康スポーツ理論 運動生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	①平常点 (30%) ②態度 (30%) ③意欲 (30%) ④理解度 (10%) の総合評価（運動能力の優劣での絶対評価は行わない）		
準 備 学 習 の 内 容	各種のスポーツ実践を通じて、基本的技能の習得を深めるとともに、身体を動かす楽しさ・チームワークの重要性を体感することを目的とする。加えて、1年次教育プログラムの目的とするより豊かで協同的な人間関係と学生生活の充実の一助となるよう学生相互のコミュニケーションの機会を意図的に設ける。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス	体力測定
2	実技	ソフトボール（ボール作り、キャッチボール）
3	実技 1	ソフトボール（連続キャッチボール）
4	実技 2	ソフトボール（トスバッティングと守備練習）
5	実技 3	ソフトボール（守備練習、内野外野分かれて練習）
6	実技 4	ソフトボール（練習試合）
7	実技 5	ソフトボール（練習試合）
8	実技 6	ソフトボール（リーグ戦）
9	実技 7	ソフトボール（リーグ戦）
10	実技 8	ソフトボール（リーグ戦）
11	実技 9	ソフトボール（リーグ戦）
12	実技 10	ソフトボール（リーグ戦）
13	実技 11	ソフトボール（リーグ戦）
14	実技 12	ソフトボール（リーグ戦）
15	実技	体力測定  ※毎回基礎体力作りトレーニングあり ※上達具合により進捗に変更あり

教 科 書	使用せず
参 考 書	使用せず

授 業 科 目 名	総 合 英 語 I	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オフィス・アワー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	専門分野の英語に取り組むための力をつける。 専門分野の基本的英語語彙力をつける。		
学 習 到 達 目 標	読解力とリスニング力の向上。 医療・理学療法の基本的英単語、英語表現の習得。		
関 連 科 目	【関連する教養科目】総合英語 II 英語表現 ステップアップ英語 広義には理学療法に関する科目全般に関連する。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	前期末試験 (90%) 医療英単語テスト(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	Reading: 各 Unit の passage を読む。 Conversation: 医療・理学療法関連の英単語、英語表現を覚える。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Introduction	授業の説明、自己紹介
2	(Reading) Unit 1 (Conversation) Unit 1	Colds, Flu and Folk Advice 通院
3	(Reading) Unit 1 (Conversation) Unit 2	Colds, Flu and Folk Advice 検査
4	(Reading) Unit 2 (Conversation) Unit 3	Mask-wearing Significantly Boosts Flu Protection 入院
5	(Reading) Unit 2 (Conversation) Unit 4	Mask-wearing Significantly Boosts Flu Protection 院内の案内
6	(Reading) Unit 3 (Conversation) Unit 5	Drinking Beer Could Provide Health Benefits 一般的な問診
7	(Reading) Unit 3 (Conversation) Unit 6	Drinking Beer Could Provide Health Benefits 初診時の会話
8	(Reading) Unit 4 (Conversation) Unit 7	Alcohol, the Asian Flush and the Risk of Cancer 検査後の会話
9	(Reading) Unit 4 (Conversation) Unit 8	Alcohol, the Asian Flush and the Risk of Cancer 病室での会話 1
10	(Reading) Unit 5 (Conversation) Unit 9	Cancer May Soon Be World's Leading Killer 病室での会話 2
11	(Reading) Unit 5 (Conversation) 様々な英語表現	Cancer May Soon Be World's Leading Killer 診療科名
12	(Reading) Unit 6 (Conversation) 様々な英語表現	Insomnia 症状と徴候の表現
13	(Reading) Unit 6 (Conversation) 様々な英語表現	Insomnia 人体各部の名称
14	(Reading) Unit 7 (Conversation) 様々な英語表現	The Mystery of Dreams and Dreaming 病気の名前
15	(Reading) Unit 7 (Conversation) 様々な英語表現	The Mystery of Dreams and Dreaming 薬の種類

教 科 書	近藤 進、Gerald R. Gordon、吉岡みのり著 <i>Caregiver</i> (『世界に見る医療と看護』)、朝日出版社、2010年。 古閑博美他著 <i>20 Medical Dialogs</i> 、鷹書房弓プレス、2000年
参 考 書	英和辞書

授 業 科 目 名	総 合 英 語 II	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	総合英語 I で養成した専門分野の英語に取り組める力の発展。 専門用語語彙力の発展。		
学 習 到 達 目 標	読解力、リスニング力の向上。 医療、理学療法の基本的英単語語彙力、英語表現力の向上。		
関 連 科 目	【関連する教養科目】総合英語 I 英語表現 ステップアップ英語 広くは理学療法に関する科目全般に関連する。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	後期末試験 (90%) 医療英単語テスト(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	Reading: 各 Unit の passage を読む。 Conversation: 医療・理学療法関連の英単語、英語表現を覚える。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(Reading) Unit 8 (Conversation) Unit 10	Headache リハビリテーション室での会話
2	(Reading) Unit 8 (Conversation) Unit 11	Headache 基本的指示とリスク対策
3	(Reading) Unit 9 (Conversation) Unit 12	Saving Preterm Babies with an Idea from Nature 関節可動域訓練
4	(Reading) Unit 9 (Conversation) Unit 13	Saving Preterm Babies with an Idea from Nature 早期坐位とベッドサイド訓練
5	(Reading) Unit 10 (Conversation) Unit 14	Looking for New Uses for Spices in the Medical Lab 車いすと移乗動作
6	(Reading) Unit 10 (Conversation) Unit 15	Looking for New Uses for Spices in the Medical Lab マット上訓練
7	(Reading) Unit 11 (Conversation) Unit 16	Feeling No Pain: The World of Anesthesia 立ち上がり訓練
8	(Reading) Unit 11 (Conversation) Unit 17	Feeling No Pain: The World of Anesthesia 歩行練習
9	(Reading) Unit 12 (Conversation) Unit 18	How Autoimmune Diseases Attack the Body's Defenses: A Look at Lupus 呼吸・排痰訓練
10	(Reading) Unit 12 (Conversation) Unit 19	How Autoimmune Diseases Attack the Body's Defenses: A Look at Lupus 温熱療法・牽引療法
11	(Reading) 様々な英語を読む (Conversation) Unit 20	エッセイを読む 水治療法・利き手交換
12	(Reading) 様々な英語を読む (Conversation) 劇を作る	エッセイを読む Skit 作成
13	(Reading) 様々な英語を読む (Conversation) 劇を作る	エッセイを読む Skit 作成
14	(Reading) 様々な英語を読む (Conversation) 劇を作る	エッセイを読む Skit 作成
15	劇を演じる	Skit 発表会

教 科 書	近藤 進、Gerald R. Gordon, 吉岡みのり著 <i>Caregiver</i> (『世界に見る医療と看護』)、朝日出版社、2010年。 古閑博美他著 <i>20 Medical Dialogs</i> 、鷹書房弓プレス、2000年
参 考 書	英和辞書

授 業 科 目 名	英 語 表 現	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	1. 復習、2. 語法説明、3. 口頭練習、4. 読解、5. 作文	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	保健医療専門職に求められる国際交流、海外視察、留学などに備えて、TOEIC 受験用の練習教材を利用して、英語表現を学び、英語によるコミュニケーションの力をつける。		
学 習 到 達 目 標	1. 英語で日常生活に必要な会話ができる。2. 日常使用される英語の文書が読める。 3. メールや手紙などを英語で書ける。		
関 連 科 目	総合英語 I と II、ステップアップ英語		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中の小テスト (40%)、期末テスト (60%)		
準 備 学 習 の 内 容	テキストに添付された CD を使って予習と復習を行う。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Introduction to the lessons	授業の進め方、予習復習の仕方
2	Unit 1 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
3	Unit 2 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
4	Unit 3 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
5	Unit 4 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
6	Unit 5 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
7	Unit 6 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
8	Review	Review では Unit 1-6 で学習した表現・語彙とその用法を復習する。
9	Unit 7 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
10	Unit 8 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
11	Unit 9 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
12	Unit 10 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
13	Unit 11 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
14	Unit 12 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
15	Review	Review では Unit7-12 で学習した表現・語彙とその用法を復習する。

教 科 書	書名 : Starting on the TOEIC Test (CD 付き) 著者 : 安浪誠祐, Richard S. Lavin 出版社 : 朝日出版社 定価 : 1800 円 + 税
参 考 書	英英辞典、英和辞典

授 業 科 目 名	ス テ ッ プ ア ッ プ 英 語	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	語句・構文を説明し、学生を指名して和訳をさせる。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	理学療法に関して、英語の文献を読み、英語で情報を交換する力を養う。そのために米国の国立衛生研究所 (NIH) 付属の国立医学図書館(NLM)がインターネット上で公開している医療や健康に関する市民講座 (Interactive Tutorials) のテキストを読む。		
学 習 到 達 目 標	1. 理学療法に関する英語の文献をよむ。2. 理学療法に関して用いられる英語の語彙・表現を学ぶ。3. インターネットで海外の文献を読む方法を学ぶ。		
関 連 科 目	総合英語Ⅰ、Ⅱ。 英語表現。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中の小テスト (40%)、期末テスト(60%)		
準 備 学 習 の 内 容	Medline plus の Interactive Tutorial は自宅で自分のパソコンでも無料で直接利用できる。自宅または学内のパソコンで繰り返し学習することを勧めたい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	導入	Medline plus の利用の仕方
2	股関節全置換のリハビリ (1)	股関節と股関節周辺の筋肉
3	股関節全置換のリハビリ (2)	股関節全置換術の説明
4	股関節全置換のリハビリ (3)	股関節と筋肉のリハビリ
5	股関節全置換のリハビリ (4)	リハビリのため様々な体操
6	股関節全置換のリハビリ (5)	Do' s と Don' ts
7	股関節全置換のリハビリ (6)	周囲の支援、毎日の生活
8	まとめ	英語でレポートを書く
9	脳卒中のリハビリ (1)	脳卒中の病理
10	脳卒中のリハビリ (2)	脳卒中の症状
11	脳卒中のリハビリ (3)	脳卒中とリハビリ
12	脳卒中のリハビリ (4)	理学療法
13	脳卒中のリハビリ (5)	作業療法
14	脳卒中のリハビリ (6)	言語療法
15	まとめ	英語でレポートを書く

教 科 書	テキストはプリントを配布する
参 考 書	医学英語辞典、学習英語辞典

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	深 町 悦 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。		
学 習 到 達 目 標	日常生活及び理学療法の仕事の中で、簡単な会話ができるように進めたい。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末に筆記試験を行う。出席率と受講時の学習態度を参考の上、成績を評価する。 基準は筆記試験の成績が70%、授業の平常点が30%。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義で学習した内容を復習すること。特に発音と四声はテキストの CD を参考しながら、繰り返し練習して欲しい。新しい単語を暗記し、漢字の書く練習と読む練習をすること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	発音の基本	ガイダンス、母音、四声
2	発音の練習	母音、子音、四声
3	発音の練習	音節表による発音の練習
4	第1課の学習	挨拶「こんにちは」
5	第2課の学習	会話「あなたは中国人ですか」、語彙と文法
6	第3課の学習	会話「健康保険証を持っていますか」、語彙と文法
7	第4課の学習	会話「家族はどんな人がいますか」、語彙と文法
8	第5課の学習	会話「あそこで少しお待ちください」、語彙と文法
9	第6課の学習	会話「少し話せます」、語彙と文法
10	第7課の学習	会話「検査室に行って検査をしてください」、語彙と文法
11	第8課の学習	会話「どうしましたか」、語彙と文法
12	第9課の学習	会話「口を開けてください」、語彙と文法
13	第10課の学習	会話「この薬を飲んだことがありますか」、語彙と文法
14	第11課の学習	会話「服をあそこに置いてください」、語彙と文法
15	復習	発音、第1課から第11課までの復習

教 科 書	医療系学生のための初級中国語 白帝社 山田真一著
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	コ リ ア 語	単 位 認 定 者	青 木 順
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講 義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講 義 の 前 後
科 目 の 目 的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。		
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。</li> <li>・正確な発音をマスターする。</li> <li>・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。</li> </ul>		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中の小テスト数回（40%）・期末テスト（60%）		
準 備 学 習 の 内 容	授業の復習をよくすること		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	第一課	<p>コリア語は語順が日本語と非常に似ており日本人にとっては学び易い言語といえる。反面、日本語にない発音が多いため正確な発音を習得するには少々時間を要する。そこで、発音の練習とともに語彙を増やし、基本文法や会話を体系的に指導していく。</p> <p>前半はハングル文字の読み書きを中心に、語彙を増やすとともに簡単な挨拶言葉が言えるように、後半は文法を中心に簡単な日常会話ができるように講義を行う。また音楽鑑賞などを通じて、韓国の社会や文化に触れさせる。</p> <p>&lt;文字と発音&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングルの読み方 基本母音と基本子音の一部</li> <li>・ハングルの読み方 基本子音</li> <li>・ハングルの読み方 基本子音と激音</li> <li>・ハングルの読み方 激音と濃音</li> <li>・ハングルの読み方 合成母音</li> <li>・ハングルの読み方 パッチム</li> <li>・ハングルの読み方まとめ</li> </ul> <p>挨拶言葉など通して韓国文化を学ぶ。</p> <p>&lt;文法と会話&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私は青木です」単語と文法</li> <li>・「私は青木です」文法と会話</li> <li>・「何人家族ですか」単語と文法</li> <li>・「何人家族ですか」文法と会話</li> <li>・「すみません」単語と文法と会話</li> <li>・「どうぞ召し上がってください」単語と文法</li> <li>・「どうぞ召し上がってください」文法と会話</li> <li>・まとめ</li> </ul>
2	第二課	
3	第三課	
4		
5	第四課	
6	第五課	
7	第六課	
8	第七課	
9		
10	第八課	
11		
12	第九課	
13	第十課	
14		
15	まとめ	

教 科 書	講師作成教材使用予定（コピー）
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	個 人 ・ 家 族 と 生 活	単 位 認 定 者	坂 本 祐 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する</li> <li>2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる</li> <li>3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる</li> </ol>		
関 連 科 目	個人・家族と社会 地域社会学 法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する（定期試験 70%・平常点と小レポート 30%）。		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	家族をとらえる (1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 生産機能 消費機能 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り 家族の一体感を高める 取り組み “夫婦別姓”とはどういう問題か 家庭経済内部の4つの活動とその循環 生活とお金 ワーキングブア 生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ、家族と生活習慣①食生活 家族と生活習慣②喫煙、③飲酒 ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮 家庭責任をもつ人の仕事への支援 理学療法士としての成長と私生活 まとめ
2	家族をとらえる (2)	
3	家族の機能 (1)	
4	家族の機能 (2)	
5	家族のつながり (1)	
6	家族のつながり (2)	
7	家族をめぐる制度	
8	家庭経済 (1)	
9	家庭経済 (2)	
10	生活習慣 (1)	
11	生活習慣 (2)	
12	ワーク・ライフ・バランス (1)	
13	ワーク・ライフ・バランス (2)	
14	ワーク・ライフ・バランス (3)	
15	まとめ	

教 科 書	使用しない（随時プリントや資料を配布）
参 考 書	「日本型近代家族」千田有紀（勁草書房）

授 業 科 目 名	個 人 ・ 家 族 と 社 会	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	「個人家族と生活」、「大学の学び入門」の2科目の展開科目と位置づける。 社会的事象と自身の生活や経験を関連づけて考えられるようになる		
学 習 到 達 目 標	1. 家族の中の暴力が、単に個人的な問題ではなく、社会が引き起こしている面もある問題であることが理解できる 2. 暴力に苦しむことのない家族のあり方、それを可能にする、より公正で、より生きやすい社会の姿を、自身の将来と関連づけて具体的に認識できる 3. 授業を聴くだけでなく、個人家族、労働、社会に関する事柄を自身のことばで考え、的確に表現できる		
関 連 科 目	個人・家族と生活、大学の学び入門、地域社会学、法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義を踏まえた小論文に、平常点を加味して評価する。配点内訳は、作業課題の成果物8:平常点2を目安とする		
準 備 学 習 の 内 容	必要に応じて、授業時間外に作業課題への取り組みを進める		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	【個人家族と生活の展開】 家族の中の暴力と社会－児童虐待 1	科目の説明、児童虐待の定義、種類、問題 児童虐待の実態：1つの調査から 児童虐待問題への対応－自己肯定感情、ネットワーク DVD視聴による児童虐待問題の具体化、女性に対する暴力を生み出す社会構造、社会構造は個人関係の中に「立場」を設定する、女性に対する暴力の一例としてのドメスティック・バイオレンス、DVの実態 配偶者間のDVとデートDV、被害者像と加害者像、 DV防止法に基づく対応制度 VTR視聴によるDV問題と対応の具体化 ハラスメントとは何か、セクシュアルハラスメント、キャンパスセクシュアルハラスメント、スクールセクシュアルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメント、ハラスメントの防止と発生した場合の対応の原則
2	家族の中の暴力と社会－児童虐待 2	
3	家族の中の暴力と社会－児童虐待 3	
4	家族の中の暴力と社会－児童虐待 4、 女性に対する暴力	
5	家族の中の暴力と社会－DV 1	
6	家族の中の暴力と社会－DV 2	
7	家族の中の暴力と社会－DV 3	
8	家族の中の暴力と社会－DV 4	
9	社会的立場の濫用	
10	【大学の学び入門の展開】※ 小論文 1	個人家族と、理学療法士の活動に関わる社会的事象を行き交わせて考える課題について、小論文を課す  ※他科目の履修状況によっては、10～13回の内容を変更することがあり得る
11	小論文 2	
12	小論文 3	
13	小論文 4	
14	小論文 5	
15	まとめ	

教 科 書	使用しない（プリント、ワークシートによる）
参 考 書	信田さよ子「家族の悩みにおこたえしましょう」朝日新聞出版社、2012

授 業 科 目 名	地 域 社 会 学	単 位 認 定 者	坂 本 祐 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	日常生活においては、あまり意識することのない「地域」であるが、様々な領域において、「地域」の重要性が再認識されている。少子高齢の進行する日本社会において、高齢者と子どもの生活も「地域」を基盤としているし、環境や防災の問題においても結局は「地域」での解決を要する問題である。講義を通して、地域社会における問題点、自分の身近な地域における生活の問題と意味を考えることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域社会に関する基本的な知識（地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など）を身につける。</li> <li>2 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。</li> <li>3 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。</li> </ol>		
関 連 科 目	関連し合う教養科目 ー 個人・家族と生活 個人・家族と社会 ボランティア活動論 環境学 経済学 この科目が基盤となる専門基礎科目 ー 社会福祉・地域サービス論 障害者スポーツ・レクリエーション論 この科目が基盤となる専門科目 ー 生活環境学 日常生活活動学 地域理学療法学 環境理学療法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する（定期試験 70%・平常点と小レポート 30%）。		
準 備 学 習 の 内 容	普段から社会の変化を感じ、地域社会で何が問題になっているのか自分で考える力を養うため、新聞を読む習慣をつけてもらいたい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティへのアプローチ。なぜ今「地域」が重要なのか。地域社会とは何か。
2	地域社会学の概論(2)	地域社会の都市化への変遷・歴史。生活の質とライフスタイルの変化。
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)①
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)②
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)③
6	地域と家族(1)	労働環境の変化と家族
7	地域と家族(2)	家族の機能と家族の変容
8	子育てと地域社会(1)	都市化の進展と子育て環境の変化
9	子育てと地域社会(2)	地域で育児を支援する様々な取り組み
10	地域コミュニティの担い手(1)	コミュニティ福祉の理念と方法
11	地域コミュニティの担い手(2)	ボランティアと住民組織の再評価 新しい公共
12	地域コミュニティの担い手(3)	NPOの可能性とコミュニティ・リーダー
13	地域コミュニティの担い手(4)	地域における社会起業家の活躍
14	地域コミュニティの形成	地域におけるソーシャル・キャピタルとネットワーク
15	まとめ	講義内容の振り返り

教 科 書	使用しない(随時プリントや資料を配布)
参 考 書	「日本型近代家族」千田有紀(勁草書房)

授 業 科 目 名	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 論	単 位 認 定 者	竹 澤 泰 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義 実践	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	ボランティアとは何か。ボランティア活動実施における問題点。ボランティア活動と心の交流。		
学 習 到 達 目 標	ボランティアについての基本概念とその歴史を修得。 ボランティア活動を国内のみならず国際的な見地からもながめ、現在行われている活動を調査・理解する。そして将来のボランティア活動参加意欲を育てる。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	テーマ毎に行うグループプレゼンテーションとそのレポート(60%)。毎時間講義内容に対する意見提出に対する評価(40%)。		
準 備 学 習 の 内 容	自分の意見や考え方を表現出来るようにしておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ボランティアとは エゴグラムテスト	学生に「ボランティア」についてのディフィニションを問う エゴグラムテストにより自己分析・認識をする。 ボランティア活動のみならず将来の職業においても必要である
2	ボランティア活動	講師の30年間のボランティア活動(日本と米国)
3	ボランティアの歴史	現在行っているNPO法人の活動について ボランティア活動の歴史概論
4	ボランティア活動の経験談	JICA派遣(アフリカ) 矢部哲也氏 ボランティア活動 竹澤同席
5	ボランティア活動経験談	国際問題研究所所長 太田氏 竹澤同席
6	ボランティア活動経験談	館林厚生病院 回復期リハビリ病棟 看護師
7	ボランティア活動のプレゼンテーション、調査開始	発表に関する資料作り方について質疑応答 グループ毎に現行のボランティア活動を調査する前に、調査の仕方・調査の論点がずれていないかを確認自分の意見を持ち、聞き手に理解させる話方の訓練。 学生同志発表を採点する。質疑応答
8	同上	同上
9	プレゼンテーション開始	各グループで調査しまとめたことを発表する
10	同上	同上
11	同上	同上
12	同上	同上
13	ボランティアについて 講義全体のまとめ	調査・学習したことについてのまとめの指導 ボランティアについての意見交換
14	レポートの書き方	発表した結果をレポートにまとめ方指導
15	まとめ	レポート提出

教 科 書	特になし
参 考 書	「ボランティアという人間関係」原田隆司(世界思想社) シリーズ福祉のこころ 1 福祉の心 2 障害ってなんだろう、3 老いのものがたり 4 きみの心のサポーター 5 命のあかりを求めて 旬報社

授 業 科 目 名	法 学 ( 医 療 法 規 含 )	単 位 認 定 者	斎 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	基本的人権・民主主義・平和といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。		
学 習 到 達 目 標	政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長する。あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつける。法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。		
関 連 科 目	経済学、ジェンダー論、家族学、教育学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	論述中心の筆記試験により評価する。〈自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうか〉を、評価の基準とする。(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	参考文献を読む。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	序論	憲法・法律の役割
2	人権総論	人権とは何か
3	人権各論①	家族と人権
4	人権各論②	労働と人権
5	人権各論③	権利としての教育
6	人権各論④	刑罰と人権
7	人権各論⑤	被疑者・被告人の人権と冤罪
8	人権各論⑥	表現の自由
9	民主主義と政治制度①	民主主義と独裁政治
10	民主主義と政治制度②	参政権と選挙制度
11	民主主義と政治制度③	国民主権と象徴天皇制
12	平和①	15年戦争
13	平和②	原爆投下
14	平和③	憲法9条と自衛隊・在日米軍
15	平和④	海外派兵と改憲論
★	各回の授業内容と順番は変更することがある。	

教 科 書	使用しない。
参 考 書	森英樹『新版 主権者はきみだ -憲法のわかる50話-』岩波ジュニア新書

授 業 科 目 名	経 済 学	単 位 認 定 者	飯 島 正 義
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義形式	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは私たちの経済生活そのものを知ることになります。		
学 習 到 達 目 標	1. まず経済学の基礎理論をできるようにする 2. その上で、現実の経済問題について理解できるようにする		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	平常点（学習態度、授業中に行う確認等）40%、学期末試験（筆記試験）60%		
準 備 学 習 の 内 容	高校時代に学んだ「政治・経済」の「経済」のところをもう一度見直しておいて下さい。一層理解が深まると思います。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	イントロダクション	授業内容とその進め方、成績評価について説明
2	国民経済の仕組み	経済3主体、国民経済の仕組みと租税
3	市場メカニズムとその限界	市場メカニズムとは何か、市場の失敗
4	景気循環	景気の波、日本の「景気指標」を読む
5	物価	物価とは何か、インフレ・デフレと私たちの生活
6	政府の役割	政府の役割、政府の失敗
7	財政・金融政策（1）	財政政策
8	財政・金融政策（2）	金融政策
9	国内総生産（GDP）（1）	国内総生産とは何か、三面等価の原則
10	国内総生産（GDP）（2）	「国民経済計算」のデータを読む
11	経済成長	経済成長とは何か、成長要因は、日本の成長率を確認する
12	貿易・国際収支	比較優位説、国際収支とは何か、「国際収支表」を読む
13	為替レート	為替レートとは何か、為替レートの変動とその影響
14	少子高齢化と社会保障（1）	少子高齢化の経済への影響、年金問題
15	少子高齢化と社会保障（2）	医療問題

教 科 書	使用しません。当日プリントを配布します。
参 考 書	必要に応じて随時紹介します。

授 業 科 目 名	環 境 学	単 位 認 定 者	西 菌 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。		
学 習 到 達 目 標	1. 環境問題の背景と発生原因への理解 2. 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3. 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 (90%)、平常点 (10%)		
準 備 学 習 の 内 容	自筆ノートの整理		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	環境とは	環境問題の範囲と背景
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源、食料生産と環境
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷
5	典型七公害	足尾鋇毒、四大公害病
6	有害物質による環境汚染	イタイイタイ病を事例として
7	水質汚濁 (I)	水質汚濁の原因、生活排水、BOD
8	水質汚濁 (II)	水質汚濁の対策、下水と浄化槽、多自然川づくり
9	オゾン層破壊	オゾン破壊物質、紫外線
10	地球温暖化 (I)	温室効果ガス、気候変動の状況と見通し、対策
11	地球温暖化 (II)	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任
12	エネルギー問題	日本の1次エネルギー現状、再生可能エネルギー
13	廃棄物問題	一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物
14	循環型社会	3R、熱回収、適正処分
15	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり

教 科 書	使用せず (プリント配布)
参 考 書	「環境白書」環境省編・ぎょうせい

授 業 科 目 名	情 報 処 理 I	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	Excel を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。		
学 習 到 達 目 標	Excel を用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果をプレゼンテーションできるようにする。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(40%)・課題提出(15%)・発表(15%)・平常点(30%)を総合判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	統計学の基礎①	統計学の歴史について指導する
2	統計学の基礎②	統計学の基本的事項について指導する
3	Excel の基本	Excel の基本的事項について指導する
4	合計、平均の計算	種々のデータの合計、平均について指導する
5	関数の活用	Excel 内の種々の関数について指導する
6	最大・最小	種々のデータの最大値・最小値について指導する
7	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する
8	グラフ作成	種々のデータのグラフの描き方について指導する
9	様々なグラフ	種々のグラフの描き方等について指導する
10	データベースの基本事項	種々のデータベース作成について指導する
11	データのソート、検索、集計	種々のデータのソート、検索、集計を指導する
12	Word への Excel の埋め込み	Word への Excel の埋め込みについて指導する
13	研究課題の発表①	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う
14	研究課題の発表②	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う
15	まとめ	全体的なまとめを行う

教 科 書	「30 時間でマスター Excel2010」(実教出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	情 報 処 理 II	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	Excel を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。		
学 習 到 達 目 標	Excel を用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果をプレゼンテーションできるようにする。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(50%)・発表(20%)・平常点(30%)を総合判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	統計学・情報処理の復習①	前期で学習した内容を復習・確認する。
2	統計学・情報処理の復習②	前期で学習した内容を復習・確認する。
3	統計学・情報処理の復習③	前期で学習した内容を復習・確認する。
4	統計学・情報処理の応用①	統計的な方法や情報処理の技術を具体的な場面でどのように応用するかを指導する。
5	統計学・情報処理の応用②	統計的な方法や情報処理の技術を具体的な場面でどのように応用するかを指導する。
6	統計学・情報処理の応用③	統計的な方法や情報処理の技術を具体的な場面でどのように応用するかを指導する。
7	統計学・情報処理の応用④	統計的な方法や情報処理の技術を具体的な場面でどのように応用するかを指導する。
8	統計学・情報処理の応用⑤	統計的な方法や情報処理の技術を具体的な場面でどのように応用するかを指導する。
9	統計的方法の社会での活用について①	現実社会における統計的な方法がどのように生かされているかを学習する。
10	統計的方法の社会での活用について②	現実社会における統計的な方法がどのように生かされているかを学習する。
11	統計的方法の社会での活用について③	現実社会における統計的な方法がどのように生かされているかを学習する。
12	統計的方法の社会での活用について④	現実社会における統計的な方法がどのように生かされているかを学習する。
13	発表①	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う
14	発表②	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う
15	まとめ	全体的なまとめを行う

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	生 活 の 中 の 数 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	毎回、講義内容に関連する内容のプリントを配布し、解説する。簡単な問題をその場で考えて解く。	オ フ ィ ス ・ ア ウ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を学び、将来、理学療法士として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。		
学 習 到 達 目 標	1. 基礎的な数学の概念の復習をする。2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。3. 定量的なものごとを評価するセンスを磨く。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 (100%)		
準 備 学 習 の 内 容	テキストとして渡すプリントにある例題をそのつど復習して、次回の講義の前提となる基礎力を確実に得ておくことが準備学習である。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	数と式	多項式の四則演算を復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを促す。
2	方程式と不等式	1次不等式、2次方程式の復習をする。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。
3	2次関数	関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で定量的なセンスを発揮することを促す。
4	図形と計量	三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを考える。
5	個数の処理	集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを応用、活用することを考える。
6	確率	事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。
7	論理と命題	命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的なものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。
8	平面図形	平面図形の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	大 学 の 学 び 入 門	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、ワーク	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火曜日、木曜日の昼休み
科 目 の 目 的	高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行する 1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習へ 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活へ		
学 習 到 達 目 標	1. 大学での学習に必要な、基本的な学習習慣・学習技術（アカデミック・スキル）を高める 2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、人間関係能力を高める（スチューデント・スキル）		
関 連 科 目	全科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート（50%）、試験（20%）、受講時の意見文・感想文等の平常点（30%）		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	科目の説明、大学生の学習・生活 アカデミック・スキルとスチューデント・スキル(杉田)	科目の目的・目標・進め方の説明、 高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは
2	インターネットリテラシー（杉田）	インターネット利用のルールとマナー
3	医療・医療技術職の歴史（浅見）	医療がどのように発展・発達してきたか。それぞれの医療技術職の歴史
4	医療技術の学び（浅見）	医療技術者を目指すものとして、どのように学ぶか
5	教養ということについて（浅見）	医療系の学生として一般教養科目にどのように向き合っていくか
6	自身の課題を見つける（杉田）	前回までの授業を踏まえて、自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を見出す
7	相手の話を聴く（榎本）	ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する。
8	自分の気持ちや考えを伝える（榎本）	グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする。
9	協力して作業する（榎本）	これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する
10	聞く・読む（杉田）	授業を受ける、ノートを取る、本や資料を読む
11	考える（杉田）	直感的感情的反応から論理的思考へ、課題を見出す、解決の筋道を組立てる
12	調べる（杉田）	情報を探す
13	書く（杉田）	レポートの書き方(1)
14	書く（杉田）	レポートの書き方(2)
15	書く（杉田）	レポートの書き方(3)

教 科 書	使用しない
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	生 物 学	単 位 認 定 者	佐 藤 久 美 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	高等学校で学んだ「生物」の知識を基にして専門科目の生命科学関連科目を理解するために必要な生命現象と生体機能・遺伝の基礎的知識を深めることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	以下の事項を学ぶことによりヒトの生命活動の全体像を理解することを目標とする。 1. 生命を支える物質    2. 生命の単位    3. 生命活動とエネルギー 4. 細胞の増殖と分化    5. 生殖細胞の形成、受精・発生・分化 6. 遺伝のメカニズムと情報発現    7. ヒトの遺伝		
関 連 科 目	解剖学、生理学、生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	学習到達目標の達成度を測る内容の中間試験 (40%)・定期試験 (40%)・授業への参加度 (20%)		
準 備 学 習 の 内 容	各回ともシラバスの講義内容に一致する教科書の部分を読み概要を把握しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 ～ 2	生命を支える物質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物学の研究対象や方法                      ・生物の多様性</li> <li>・生命現象の特質</li> <li>・水と生命との関わり</li> <li>・タンパク質の構成単位、アミノ酸の構造と種類</li> <li>・タンパク質の構造と機能</li> <li>・炭水化物(糖質)の種類と役割                      ・脂質の種類と役割</li> <li>・核酸の種類と構造</li> <li>・無機質(無機塩類)の種類と役割</li> </ul>
3 ～ 4	生命の単位	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウイルス(大きさや形)</li> <li>・原核細胞と真核細胞の構造</li> <li>・細胞膜の構造と働き、細胞膜を介した物質の輸送、及び細胞質基質内で行われている種々の物質の合成、分解反応</li> <li>・粗面小胞体と滑面小胞体の構造と機能、両者の関係及び粗面小胞体上で合成される蛋白質の特徴</li> <li>・ゴルジ体の構造と機能</li> <li>・リソゾームとリソゾームに含まれる酵素の特徴、細胞内で果たす役割</li> <li>・ペルオキシソーム</li> <li>・ミトコンドリアの構造と機能</li> <li>・色素体</li> <li>・細胞骨格の種類とその役割</li> </ul>
5 ～ 6	生命活動とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酵素の性質や特徴と酵素反応</li> <li>・光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す光合成とエネルギー運搬体ATP</li> <li>・生体のエネルギー産生とミトコンドリアの役割(解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生)</li> <li>・産生されたエネルギーの行方</li> </ul>

回	講義題目	講義内容
7 ～ 9	中間試験 細胞の増殖・生殖細胞の形成 細胞の分化と幹細胞 ヒト配偶子の形成、受精、発生概説	1回～6回までの講義内容について問う。  <ul style="list-style-type: none"> <li>体細胞で見られる細胞分裂（体細胞分裂）と配偶子を形成する過程で見られる減数分裂</li> <li>細胞周期とS期、G2期、M期、G1期の各期に起こる形態的・生化学的変化</li> <li>G1期の細胞の特徴</li> <li>細胞の分化と各種幹細胞、胚性幹細胞、iPS細胞</li> <li>幹細胞の医療分野における応用の可能性</li> <li>多細胞体の体制維持とアポトーシス</li> <li>ヒトの精子と卵子の形成</li> <li>キアズマ形成と遺伝子組み換えのメカニズムと意義</li> <li>ヒトの受精及び初期発生と胚葉の分化の概要</li> </ul>
10 ～ 12	遺伝のメカニズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAから染色体へ</li> <li>DNA複製機構（DNAの開裂、プライマーの形成、リーディング鎖とラギング鎖、岡崎ピースとDNAポリメラーゼ、DNAリガーゼの役割）</li> <li>遺伝情報と形質発現の機構</li> <li>原核細胞と真核細胞における形質発現機構の相違</li> <li>真核細胞における形質発現の詳細</li> <li>原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール</li> <li>原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール特定の時期（環境）に特定の遺伝子が発現する機構（あるいは発現しない機構）</li> <li>性染色体の不活化</li> <li>放射線、化学薬品、食物添加物、化粧品等によるDNAの損傷機構や損傷によって引き起こされる影響</li> <li>生体の備わっているDNA修復機構</li> </ul>
13 ～ 15	ヒトの遺伝	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒトの遺伝子と染色体</li> <li>メンデルの法則とヒトの遺伝</li> <li>家系図の表し方</li> <li>常染色体性優性遺伝病と劣性遺伝病</li> <li>伴性遺伝病、</li> <li>ミトコンドリア病、多因子遺伝病、</li> <li>保因者・患者の出現頻度</li> <li>染色体とその異常</li> <li>先天異常とその発症要因</li> </ul>

教科書	人の生命科学 医歯薬出版株式会社 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄
参考書	高校で生物を受講しなかった人へ 生物図録 【数研出版】 高校生物補助教材 総合図説生物 【第一学習社】 高校で生物を受講した人へ アメリカ版 大学生物学の教科書 1-3巻 D. サダヴァ他著 ブルーボックス 【講談社】 はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学 前野正夫・磯川桂太郎著 【羊土社】 高校生物補助教材

授 業 科 目 名	化 学	単 位 認 定 者	日 置 英 彰
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	授 業 の 前 後
科 目 の 目 的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基礎を習得する。		
学 習 到 達 目 標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。		
関 連 科 目	生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 (80%)、受講状況 (20%)		
準 備 学 習 の 内 容	自筆ノートの整理		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	化学の立場から医療を考える	歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。
2	元素と周期表	自然にはどのような元素があるのか、元素の分類と周期表の読み方について解説する。
3	イオン	イオンとイオン結合の原理、生体内でのイオンの役割について解説する..
4	共有結合化合物と有機分子	生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異な形、一般的な性質について解説する。
5	有機化合物各論	アルコール、エーテル、カルボン酸、アミン等の性質について解説する。
6	生体を構成する有機化合物	糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。
7	酸と塩基	ヒトの体の半分以上を占める水の性質と浸透や物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。
8	酸と塩基	酸、塩基、緩衝液について解説する。
9	酸化と還元	物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。
10	化学反応の速度	化学反応の速度の測定方法、速度に与える要因について解説する
11	触媒と酵素	生体内の化学反応は酵素が触媒している。化学反応における触媒の役割、酵素の構造と触媒作用について解説する。
12	化学分析	化学分析の原理を学ぶ。医学で利用されている分析法についても触れる。
13	放射線と放射能	放射性崩壊と半減期、医療における放射性同位体の利用について解説する。
14	病気と関わる化学物質	くすりは体の中でどのように作用するのか、またくすりの開発過程についても概説する。
15	まとめ	内容をふり返ってまとめる

教 科 書	医・薬・看護系のための化学 Alan Jone 著 原 博, 荒井貞夫訳 東京化学同人
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	物 理 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習実験	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	高等学校で物理関係の科目を十分に履修していない学生を想定し、理学療法士として、最小限必要な物理学の教養を身につけることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	物理現象を分析的に追究し、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、古典的な物理現象について定量的、数学的に解釈し、処理することができるようにする。		
関 連 科 目	運動学・物理療法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	随時実施するミニテストおよび試験 (70%) 毎時の出席票による物理への関心の広がり・深まり、授業への参加意欲 (30%)		
準 備 学 習 の 内 容	前時までの理解がないと、本時の内容を理解することはできない。 前時までの復習をして、十分に理解しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	物理量	物理学とは何か 物理量 単位 (m・kg・秒)
2	てこの釣り合い	重さと力のモーメント
3	運動をする物体の力学	慣性の法則 運動量保存の法則 作用反作用の法則
4		力積と運動量 運動方程式
5		自由落下 落下距離の計算
6		回転する物体の運動
7	熱現象と気体	運動する分子としての気体 気体の温度と体積の関係
8		気体の体積と圧力の関係
9	熱の移動	物の温まり方1 伝導と対流
10	波としての光	物の温まり方2 放射
11		赤外線と光
12		波の性質
13	電磁波	電磁波と放射線 核分裂と放射能
14	放射能	
15		

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	解 剖 学 I	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	在室時随時
科 目 の 目 的	理学療法士として必要不可欠な運動器とそれを支配する神経系に関する基本的な知識を習得する。		
学 習 到 達 目 標	全身の骨の基本構造、筋の起始、停止、作用、支配神経を説明できる。		
関 連 科 目	解剖学Ⅱ、各専門科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	膨大な学習内容です。必ず予習・復習をしないとついていけません。シラバスに沿ってテキストとアトラスを読んできてください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	解剖学とは何か 授業の進め方 器官とその系統
2	総論	組織と細胞 人体の外形と方向用語
3	骨格系	骨学総論
4	骨格系	脳頭蓋
5	骨格系	顔面頭蓋
6	骨格系	脊柱
7	骨格系	椎骨の連結
8	骨格系	胸郭
9	骨格系	上肢帯・上腕の骨格
10	骨格系	肘関節・前腕
11	骨格系	手の骨格
12	骨格系	下肢帯・大腿の骨格
13	骨格系	股関節
14	骨格系	膝関節・下腿
15	骨格系	足の骨格
16	筋系	筋系総論
17	筋系	頭部の筋
18	筋系	頸部の筋
19	筋系	背部の筋
20	筋系	胸壁・腹壁の筋
21	筋系	上肢帯の筋
22	筋系	上腕の筋
23	筋系	前腕の筋
24	筋系	手の筋
25	筋系	骨盤の筋
26	筋系	大腿の筋
27	筋系	下腿の筋
28	筋系	足の筋
29	総括	
30	予備日	

教 科 書	入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂 解剖トレーニングノート 竹内修二 医学教育出版社 プロメテウス解剖学コアアトラス 坂井建雄 医学書院
参 考 書	解剖学講義 伊藤隆原著 高野庸子改訂 南山堂 (医学部で最も一般的に使用されているテキストです。医学生に負けずに勉強してください。)

授 業 科 目 名	解 剖 学 II	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	在室時随時
科 目 の 目 的	理学療法士として重要な神経と脈管に関する基本的な知識を習得する。		
学 習 到 達 目 標	全身の神経と脈管の位置や走行を説明できる。		
関 連 科 目	解剖学 I、各専門科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	膨大な学習内容です。必ずシラバスに沿って教科書とアトラスを読んできてください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	神経系総論	神経系の構成
2	中枢神経系	脊髄
3	中枢神経系	脳幹（延髄 橋 中脳）小脳
4	中枢神経系	大脳 大脳皮質と機能局在
5	中枢神経系	脳の血管 脳室と脳脊髄膜
6	末梢神経系	脳神経
7	末梢神経系	脊髄神経
8	末梢神経系	自律神経
9	伝導路	反射路 求心性伝導路 遠心性伝導路
10	脈管系	総論 心臓
11	脈管系	動脈系
12	脈管系	静脈系 胎生期の循環系
13	脈管系	リンパ系
14	脈管系	脾臓 胸腺 血液・血球・造血組織
15	脈管系	その他

教 科 書	入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂 解剖学トレーニングノート 竹内修二 医学教育出版社 プロメテウス解剖学コアアトラス 坂井建雄 医学書院
参 考 書	解剖学講義 伊藤隆原著 高野庸子改訂 南山堂

授 業 科 目 名	解 剖 学 実 習	単 位 認 定 者	小 林 寛
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	通 年
単 位 数	1 単 位 ( 2 2 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	人体を構成する諸組織に関する基本的な知識を習得する。		
学 習 到 達 目 標	人体を構成する組織について基本的事項を説明できる。		
関 連 科 目	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 80%、課題 20%		
準 備 学 習 の 内 容	教科書の授業予定の部分を読んできてください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	細胞	細胞の構造、細胞小器官、細胞の活動、細胞の一生
2	上皮組織	上皮組織の構造、上皮組織の分類
3		腺
4	支持組織	結合組織
5		軟骨組織、骨組織
6	筋組織	骨格筋組織
7		心筋組織、平滑筋組織
8	神経組織	神経細胞、神経線維、シナプス
9		中枢神経系、末梢神経系
10	脈管系	血管、心臓、リンパ管系、血液
11	消化器	消化管の組織構造
12	呼吸器	呼吸器の組織構造
13	泌尿器	泌尿器の組織構造
14	生殖器	男性生殖器の組織構造
15		女性生殖器の組織構造
16	内分泌系	内分泌の一般的な構造、下垂体、松果体
17		甲状腺、上皮小体、副腎、消化器系における内分泌
18	皮膚	表皮、真皮、皮下組織
19		角質器、皮膚腺、皮膚の知覚装置
20	感覚器系	視覚器
21		平衡聴覚器
22		味覚器、嗅覚器
23	まとめ	総括

教 科 書	入門組織学、牛木辰男、南江堂
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	表面解剖学と触診法	単 位 認 定 者	仲 保 徹
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	複数教員により、学生を少人数グループに分けての実践的指導(演習)	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	当該授業終了後
科 目 の 目 的	理学療法士は運動器およびその機能の障害についての専門家である。その専門性を4年かけて学ぶわけであるが、その中の技術領域において最初に習得すべきことが体表解剖の知識と身体部位を体表から触知できる能力であり、その修得がこの科目の第一義的目的である。また、運動学1と同時並行で授業をすすめ、人の運動を可能にする構造と機能の関連をより深くかつ実践的に理解できるようになることも目的としている。		
学 習 到 達 目 標	1. 骨の部位、関節裂隙、靭帯、筋、腱、動脈を触知により区別できる。 2. 体表から触れることができるそれらの部位を解剖学アトラスで参照できる。 3. それらの名称を述べるができる。		
関 連 科 目	解剖学Ⅰ、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、専門科目全般		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実技試験(100%) 正解率60%以上。		
準 備 学 習 の 内 容	初回に触診マニュアルを配布する。当日の触診項目を教科書でイメージ化して授業を受ける。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション 手・指	マニュアル配布 オリエンテーション 手・指の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
2	手・指	手・指の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
3	前腕	前腕の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
4	肘・前腕	肘・前腕の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
5	肩甲骨・上腕	肩甲骨・上腕の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
6	肩甲骨	肩甲骨の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
7	頭・頸部	頭・頸の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
8	体幹	体幹の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
9	骨盤	骨盤の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
10	骨盤	骨盤の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
11	大腿	大腿の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
12	膝	膝の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
13	下腿	下腿の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
14	足部	足部の体表解剖演習と触診実習 (担当：黒川、仲保、蛭間、加藤)
15	復習	質問形式により知識の確認をする (担当：黒川、仲保、加藤)

教 科 書	後期指示
参 考 書	「プロメテウス解剖学アトラス」坂井建雄、松村謙 児監 (医学書院) 「解剖学カラーアトラス 第6版」(医学書院)

授 業 科 目 名	生 理 学 I	単 位 認 定 者	洞 口 貴 弘
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義実施日の 18 : 00 ~ 19 : 00
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。		
学 習 到 達 目 標	人体各部の機能および、それを生み出す基本構造と仕組みを確認すること。 これらを発展させ疾患に対したときの機能の低下、不安定状態などをよみとる基礎能力を養う。		
関 連 科 目	生理学Ⅱ、解剖学Ⅰ・Ⅱ、生化学、運動学Ⅰ・Ⅱ、運動生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	毎回授業開始直後に前回の講義内容に関する簡単な小テストを行う(出欠の意味も含めて)。 小テストの平均点×0.6+期末試験の点数×0.4 で最終的な評価を決定する。		
準 備 学 習 の 内 容	授業内容および小テストや期末テスト内容は、指定した教科書に準ずる。 そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス 生理学の基礎の基礎	生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官
2	神経の基本的機能	神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達
3		
4		
5	筋肉の基本的機能	筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮
6	神経系の機能	末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節
7		
8		
9	自律神経系	交感神経、副交感神経と内臓機能の調節
10	血液の生理学	血液の組成とその機能
11		
12	循環の生理学	心臓血管系の基本構造と機能、調節
13		
14		
15	呼吸の生理学	呼吸器系基本構造と機能、調節

教 科 書	「シンプル生理学 第6版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂)
参 考 書	「標準生理学」(医学書院) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 「ギャノン生理学」(西村書店) 「はじめの一歩のイラスト生理学」(羊土社)

授 業 科 目 名	生 理 学 II	単 位 認 定 者	洞 口 貴 弘
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア フ ー	講義実施日の 18 : 00 ~ 19 : 00
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。		
学 習 到 達 目 標	人体各部の機能および、それを生み出す基本構造と仕組みを確認すること。 これらを発展させ疾患に対したときの機能の低下、不安定状態などをよみとる基礎能力を養う。		
関 連 科 目	生理学 I、解剖学 I・II、生化学、運動学 I・II、運動生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	毎回授業開始直後に前回の講義内容に関する簡単な小テストを行う(出欠の意味も含めて)。 小テストの平均点×0.6+期末試験の点数×0.4 で最終的な評価を決定する。		
準 備 学 習 の 内 容	授業内容および小テストや期末テスト内容は、指定した教科書に準ずる。 そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	呼吸の生理学	呼吸器系基本構造と機能、調節
2	内分泌系の機能	ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能
3		
4		
5	消化と吸収	消化管の基本構造と機能、調節
6		
7		
8	感覚の生理学	様々な感覚の受容と知覚のメカニズム
9		
10		
11		
12	体温とその調節	体温の意義とその調節メカニズム
13	尿の生成と排泄および体液とその調節	腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿 体液の恒常性を維持する仕組み
14		
15	睡眠・記憶・情動	脳の高次機能

教 科 書	「シンプル生理学 第6版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂)
参 考 書	「標準生理学」(医学書院) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 「ギャノン生理学」(西村書店) 「はじめの一步のイラスト生理学」(羊土社)

授 業 科 目 名	生 理 学 実 習	単 位 認 定 者	洞 口 貴 弘
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 2 2 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実習、講義	オ フ ィ ス ・ ア フ ー	実施日の 18 : 00 ~ 19 : 00
科 目 の 目 的	主要臓器の機能および、運動器、感覚器とその伝導路を確認・理解する		
学 習 到 達 目 標	測定器具（心電図計、スパイロメーターなど）を用い、人体の機能に関するデータの収集法や判読方を学習し、生理学の講義内容を実際に確認するとともに、実験レポートの書き方を学習し、他者に実験内容を分かりやすく報告する方法を身につけることを目標とする		
関 連 科 目	生理学 I ・ II、解剖学 I ・ II、運動学 I ・ II、運動生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	平常点(5%)とレポート(95%)		
準 備 学 習 の 内 容	既に履修済みである、生理学 I、II の復習		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2	ガイダンス	生理学実習にあたっての諸注意 レポートの書き方 統計処理法
3 4	浸透圧	卵半透膜を使用した浸透圧の測定 機器の使用法
5 6	筋電図	上腕より筋電図を記録し、運動と筋の関わりを理解する
7 8	誘発筋電図	神経を電気刺激することで筋電図を誘発させ、中枢および末梢神経系と筋を理解する
9 10	骨格筋の収縮	神経筋標本を作製し、刺激の大きさや頻度と筋収縮様式との関連を理解する
11 12	神経の興奮と伝導	実験動物を用いて、神経の基本的な性質を理解する
13 14	心電図と血圧	心電図および血圧の基本原理、測定の基礎を学ぶ
15 16	呼吸	スパイロメーターを用いて、呼吸機能の測定と解析を行う
17 18	最大酸素摂取量と酸素負債	運動時の心拍数を計測する
19 20	眼球運動	我々の生活を支えている様々な眼球運動を記録し、その性質を理解する
21 22	反応時間	視・聴・触覚刺激に対する反応時間を測定し、感覚情報の伝達経路を理解する
23	総評	生理学実習のまとめを行う ※状況により、順番・内容を変更する場合があります

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	運 動 生 理 学	単 位 認 定 者	江 口 勝 彦
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・実技演習	オ フィ ス ・ ア ワ ー	毎週水曜日 12:10-12:30
科 目 の 目 的	<p>理学療法は、英語でPhysical Therapy (主に米国を中心に)、Pysiothrapy (主に英国を中心に)と表されるが、このPhysio-とは、PhysiologyのPhysio-であり、「治療介入により生理学的作用を得るもの」と理解できる。理学療法を学ぶ上で、「生理学」がどれほど重要なものであるか理解できよう。</p> <p>「生理学」の広い領域の中でも理学療法においては、運動の制御に関係する「神経生理学」となると、運動の発現や維持に関係するこの「運動生理学」は大変重要な領域であり、深い理解が求められる。</p> <p>人体の静的な状態での機能を学ぶ基礎医学系の「生理学」の学習を礎として、応用生理学の入り口として、運動時の人体生理について学ぶ。</p> <p>「運動生理学」を表す英語には「Exercise Physiology」と「Work Physiology」と二つがあるが、本講義で取り扱うのは、前者である。</p> <p>「運動生理学」の基礎は、「運動学」と「生理学」である。通常、「生理学」は、安静時を中心とした人体の正常生理学であるのに対し、運動生理学は、運動する(行っている)人体の生理学であるといえる。この分野は、ペインブリッジ「筋運動の生理」(1919)、A.V. ヒルの「ヒトの筋運動」(1927)などが始まりであろうとされているが、その後オストランドやサルティンらが確立してきたものである。本邦においては吉田章信の「運動生理学」(1916)が著され、東京大学の猪飼道夫はこの分野の牽引者として多くの弟子を育て、現在それらの弟子たちが更に多くの後輩を輩出している。</p> <p>本講義においては、特に理学療法学上、重要かつ必須とされる運動生理学の中から「運動と筋」、「運動と呼吸」、「運動と循環」、「運動とエネルギー代謝」に関する正常生理学を中心に学習する。特に、呼吸・循環を含むエネルギー代謝について理解し、各種運動療法を施行する上で生体に対する運動の影響、さらには、運動の効用として各種スポーツ、メタボリックシンドローム対策など健康増進分野の理学療法を考える。</p> <p>また、理学療法士が行う基礎研究では、運動学に次いで、この分野が多いことから、興味を持って学び、卒業研究さらには卒後の研究を行うにあたり、基礎知識を形成することも目指している。</p>		
学 習 到 達 目 標	<p>「運動と筋」、「運動と呼吸」、「運動と循環」、「運動とエネルギー代謝」に関する正常生理学について、基礎を理解し、運動時の各種反応、身体変化を生理学的に理解できることを到達目標とする。</p> <p>各単元ごとに、到達目標・行動目標を示すとともに、学生自身が学習の到達状況を知る為に、形成的評価の一部としてミニクイズを実施する。</p> <p>到達度の最低ラインは国家試験問題を理解できる程度とする。</p>		
関 連 科 目	<p>関連し合う科目-解剖学, 生理学, 生化学, 栄養学 この科目が基礎となる科目-各理学療法評価・治療学</p>		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	<p>形成的評価(ミニクイズ)、総合評価(筆記試験)、出席率、出席態度などを総合的に評価する。ミニクイズおよび筆記試験では、すべてにおいて毎回60%を合格最低ラインと定める。欠席時の点数は0点と扱う。講義期間を通して任意に出席を確認する。出席を確認した内、出席率2/3に満たない場合は、総合評価の試験を受けることができない。講義の邪魔になるような態度(遅刻・私語・他)がみられた場合は、受講を許可しない。成績の配分は、形成的評価(ミニクイズ)30%、総合評価(筆記試験)60%、実技演習10%とする。</p>		
準 備 学 習 の 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 毎回、事前に講義予定部分に関する「生理学」の復習を十分にしておくこと。</li> <li>2) 該当部分の生理学(静的な人体正常生理)についても復習するが、基本的には既に理解しているものとして講義を進める。</li> <li>3) ほぼ毎回、講義の最初(あるいは最後)に、基礎事項と前回の講義内容の理解度を確認する為にミニクイズを行う。復習を必ず行うこと。</li> <li>4) 講義時間内に質問などを行い、理解することが望ましいが、理解不足や疑問点などは、参考図書などで補い、それでもわからない場合はオフィスアワー(別途指示)に研究室を訪ねてくること。</li> </ol>		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2	コースオリエンテーション 運動生理学概論 1	オリエンテーション 学習方法などについて 理学療法と運動生理 運動生理学の定義・分類, 体力とは
3 ～ 5	筋の運動生理学	身体運動と筋
6 ～ 8	呼吸の運動生理学	呼吸運動と呼吸生理 運動と呼吸
9 ～ 11	循環の運動生理学	身体運動と循環
12 ～ 14	エネルギー代謝と運動生理学	嫌気性代謝と好気性代謝 代謝当量 (METS) エネルギー消費と運動負荷試験 持久性トレーニング  筆記試験  *以上の講義の他に, グループによる運動負荷の実技演習を行う (事前学習, 実習, 実習のまとめにより講義3回分に相当). なお, 実施方法の詳細は講義の中で別途指示する.

教 科 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浅野勝己 編著:運動生理学概論 (現在改訂中. 2013年春改訂版). 杏林書院.</li> <li>* 学生の要望が強いので, 一応, 教科書を指定するが, 各自自分に合ったもの (下記「参考書」を参照) を使用すること.</li> <li>* 教科書によっては, 必要な箇所が抜けていたり, 逆に初学者にとっては難しかったりするので, 印刷教材 (運動生理学講義ノートA4版, 約100頁) を主に使用する. (各自ファイルなどに綴じて製本すること)</li> <li>* 生理学の教科書, 参考書, 運動学教科書なども適宜参照する事.</li> </ul> 実習に関しては, 別途資料を配布する.
参 考 書	<教科書的> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「運動生理学20講 第2版」勝田 茂著 朝倉書店, 1999.</li> <li>・「身体運動と呼吸・循環機能」宮村実晴 真興交易医書出版部, 2012.</li> </ul> <入門書> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「入門運動生理学 (第2版)」勝田 茂 編著 (杏林書院) 2001.</li> <li>・「運動生理学概論」浅野勝己 編著 (杏林書院) 2002.</li> <li>・「イラスト 運動生理学」浅山正己, 彼末一之, 三木健寿 編著 (東京教学社) 2000.</li> <li>・「運動生理学入門」猪飼道夫 (杏林書院) 1979. -古典的名著!</li> </ul> <中 堅> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「体力トレーニング -運動生理学的基礎と応用-」宮村実晴, 矢部京之助編集 (真興交易医書出版部) 1986.</li> <li>・「-運動・生理・生化学・栄養- 図説運動の仕組みと応用 (第2版)」中野昭一 編集 (医歯薬出版) 1996.</li> <li>・「改訂最大酸素摂取量の科学」山地啓司 (杏林書院) 1992年.</li> </ul> <詳解・上級> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「最新運動生理学 -身体パフォーマンスの科学的基礎-」宮村実晴 編集 (真興交易医書出版部) 1986.</li> <li>・「新 運動生理学 (上・下)」宮村実晴 編集 (真興交易医書出版部) 2001. -最先端の研究成果を含む</li> </ul> <その他> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な生理学書 (医科生理学展望; 丸善, 真島の生理学; 文光堂など)</li> <li>・大修館書店から出ている運動生理学書など.</li> <li>・NAP から出ている運動生理学書など.</li> </ul>

授 業 科 目 名	生 化 学	単 位 認 定 者	高 橋 克 典
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	教科書、資料、スライドなどを用いて指導する	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	昼 休 み
科 目 の 目 的	生命現象の基本原理とそれに関連する病態を分子レベルで理解することで、化学的根拠に基づいた視点を有する理学療法士の育成を目指す		
学 習 到 達 目 標	生体内の様々な化学物質による生命現象を理解したうえで、それらが各種病態においてどのように変化するかを理解する		
関 連 科 目	化学、生物学、生理学、栄養学、薬理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 (85%) 平常点 (15%)		
準 備 学 習 の 内 容	有機化学および生物学の基礎知識を必要とする		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	生化学入門 ～ 生体化学成分の基礎 ～	生体を構成する主な化学成分について概説する。また細胞の基本構造および、それぞれの細胞小器官の役割について生化学的な視点から解説する。
2	生体成分の構造と機能 I	三大栄養素の一つである糖質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、インスリンやグルカゴンのような糖質制御ホルモンと病態との関係を解説する。
3	～ 糖質と病態 ～	
4	生体成分の構造と機能 II	
5	～ 脂質と病態 ～	三大栄養素の一つである脂質について、①エネルギー源としての役割、②生体膜構成成分としての役割、③生理活性シグナル因子としての役割を中心に解説する。また、生体内における脂質の代謝異常と病態との関係を解説する。
6	生体成分の構造と機能 III	三大栄養素の一つであるタンパク質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、タンパク質を構成するアミノ酸の分類、性質、病態との関連などについて解説する。
7	～ タンパク質・アミノ酸と病態 ～	
8	生体成分の構造と機能 IV	微量栄養素であるビタミンの分類と機能を解説する。また、脚気、懐血病などビタミン欠乏に伴い発症する病態について解説する。
9	～ ビタミンの役割と病態 ～	
10	生体成分の構造と機能 V ～ 遺伝子と病態 ～	RNA や DNA を構成する核酸の構造や性質を解説する。また、DNA の翻訳からタンパク質の生合成までのメカニズムを解説する。さらに、遺伝子の変異に伴い発症する病態について解説する。
11	ホメオスタシスとホルモン	ホルモンの分類とそれぞれの標的組織について解説する。また、ホルモンの分泌異常による疾患について解説する。
12		
13	臓器の生化学	人体の各臓器（循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系）における生化学的な代謝機能および関連疾患を概説する。
14	癌の生化学	生体を構成する細胞の周期と増殖機構を踏まえて、癌の発生メカニズムを解説する。また、現在汎用されている腫瘍マーカーについても概説する。
15	免疫の生化学	生体防御の中核を担う免疫システム（細胞性免疫・液性免疫）を概説する。生体内の免疫系細胞が分泌する各種サイトカインの役割を解説する。

教 科 書	シンプル生化学 改訂第5版 林 典夫 編集
参 考 書	レーニンジャーの新生化学「上」、「下」第4版 山梨郁男 監修（廣川） ハーバー・生化学（原著27版）R K Murrayら著（丸善）

授 業 科 目 名	運 動 学 I	単 位 認 定 者	高 橋 正 明
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	授業当日の6限
科 目 の 目 的	人の身体運動を機能-構造の視点から分析するのに必要となる基本的な知識や概念を学び、自分自身の関節運動を説明することができる。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関節運動の原則とバランス保持について説明できる。</li> <li>2. 体幹・肢節の関節運動を機能-構造的見方で説明できる。</li> <li>3. 骨、靭帯、筋の関節運動における役割を説明できる。</li> <li>4. 関節の一般的構造物を可動性と安定性の要素で分類できる。</li> </ol>		
関 連 科 目	解剖学I 解剖学II 表面解剖学と触診法 生理学I・II 理学療法評価学 臨床運動学 運動器系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学 日常生活活動学 他		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	機能解剖に関する6回の小テスト(クイズ)を80%、骨、筋、関節、力学等の一般的内容についての試験を20%として総合点を算出し、授業参加度を加味して60点以上を合格とする。		
準 備 学 習 の 内 容	解剖学用語の知識を前提に授業を進めるため、それらを教科書で確認しておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	運動学とは? 関節運動 形態と機能
2	および運動の原則	安定性と可動性 運動の法則 軸旋運動 運動連鎖
3	〃	生体力学 てこ バランス 支持基底面と重心
	運動器系組織	骨・関節・靭帯の
4	〃	筋の発生と組織 収縮のメカニズム
5	〃	筋力 収縮様式 筋張力 共同運動
6	機能解剖足部	足関節の形態と運動
7	〃	足部・の形態と機能
8	〃	筋の働き
9	〃	アーチ構造
10	機能解剖膝関節	膝関節の形態と機能 (足部・足関節クイズ)
11	〃	半月・靭帯の構造と機能
12	〃	筋の働き
13	〃	立位での役割
14	機能解剖股関節	股関節の形態と機能 (膝関節クイズ)
15	〃	股関節の運動
16	〃	筋の働き
17	〃	股関節の力学
18	機能解剖体幹	脊柱の形態と機能 (股関節クイズ)
19	〃	脊柱の運動
20	〃	筋の働き
21	〃	呼吸運動
22	〃	骨盤の運動
23	機能解剖肩甲帯	肩甲帯・肩関節の機能と構造 (体幹クイズ)
24	〃	肩甲帯の関節と運動
25	〃	肩関節の運動
26	〃	筋の働き
27	機能解剖肘関節	肘関節の機能と構造 (肩甲帯クイズ)
28	〃	肘関節の運動
29	〃	筋の働き
30	まとめ	科目全体のポイントの復習 (肘のクイズ)

教 科 書	「標準理学療法学・作業療法学 運動学」 高橋正明 (医学書院)
参 考 書	「関節の生理学I, II, III」 Kapandji LA 著 荻島秀夫訳 (医師薬出版) 「筋骨格系のキネシオロジー」 D. A. Neumann 著 (医師薬出版) 「Kinesiology」 Oatis CA 著 (Lippincott Williams & Wilkins)

授 業 科 目 名	運 動 学 II	単 位 認 定 者	高 橋 正 明
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 15 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習	オフィス・アワー	木曜日5限、金曜日1限
科 目 の 目 的	運動学Ⅰで触れなかった手指および顎関節の機能解剖、および反射と運動、動作分析(基本動作、歩行動作を含む)、運動学習について学習する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手指、顎関節の運動を機能-構造的見方で説明できる。</li> <li>2. 運動における感覚の役割を説明できる。</li> <li>3. 運動に関する神経組織の役割を説明できる。</li> <li>4. 基本動作の見方、正常歩行動作性と安定性の要素で分類できる。</li> </ol>		
関 連 科 目	関連し合う科目：解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 表面解剖学と触診法 生理学Ⅰ・Ⅱ この科目が基礎となる科目：理学療法評価学 運動器系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学 臨床運動学 日常生活活動学 他		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	機能解剖については小テスト、それ以外の内容については定期試験に含む。さらに演習への参加度を加味する。		
準 備 学 習 の 内 容	機能解剖については運動学Ⅰと同様、その他については教科書の関連科目を熟読しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	機能解剖手・指関節 (高橋正明)	手関節の形態と機能
2	機能解剖手・指関節 (高橋正明)	指の形態と機能
3	機能解剖手・指関節 (高橋正明)	筋の働き 手の役割
4	機能解剖顎関節 (高橋正明)	咀嚼運動と顎関節
5	小テスト	授業の前半で機能解剖の小テスト
	神経組織と反射 (高橋正明)	中枢神経の働き
6	神経組織と反射 (高橋正明)	反射、反応、姿勢反射と立ち直り反応、
7	神経組織と反射 (高橋正明)	姿勢保持と平衡反応、随意運動
8	感覚、バランス、基本動作 (演習) (高橋正明)	足関節の戦略と股関節の戦略、固有感覚、前庭覚 正常な姿勢、寝返り、起きあがり、立位動作 足関節と股関節の戦略、固有感覚、前庭覚外乱の体験
9	正常歩行動作 (高橋正明)	歩行決定要因
10	正常歩行動作 (高橋正明)	歩行周期
11	正常歩行動作 (高橋正明)	筋活動、力学的分析
12	運動学習 (木村朗)	記憶と情報処理
13	運動学習 (木村朗)	スキーマ理論
14	運動学習 (木村朗)	運動制御と自由度
15	まとめ (高橋正明)	まとめ

教 科 書	「基礎運動学 第6版」中村隆一、他 (医歯薬出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	運 動 学 実 習	単 位 認 定 者	江 口 勝 彦
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 2 2 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習、実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	毎週水曜日 12:10-12:30
科 目 の 目 的	<p>運動学実習は4部からなる。</p> <p>第1部はレポートを作成するために必要な、単位や数値のまるめ方、レポートの構成や体裁などを学ぶ。</p> <p>第2部は自分自身の歩行に関する測定実習を行い、身体動作を運動としてとらえる視点と定量的にとらえるということを学ぶ。</p> <p>第3部は身体重心の位置や重心動揺、姿勢保持時の各肢節間のアラインメントの測定など自分自身を対象とした測定実習を行い、基本的姿勢と動作について力学的理解を深める。</p> <p>第4部は運動や動作を解析する各種手法についてグループで実習し、運動学における分析法を修得する。</p>		
学 習 到 達 目 標	<p>第1部 講義 レポート作成法（構成、SI単位、精度・誤差、数値のまるめ、KJ法、文献利用、体裁など）</p> <p>第2部 個人実習1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 直線歩行を行い、時間と歩数から歩行速度、歩幅、歩行率を算出することができる。</li> <li>2. 3種類の異なる歩行速度でそれぞれ歩行し、歩行周期変数を求める。また、歩行の運動残効を探る。</li> </ol> <p>第3部 個人実習2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 二つの方法での身体の重心位置を推定できる。</li> <li>2. 立位時の圧中心移動を計測し、解釈できる。</li> <li>3. 立位における身体肢節のアライメントを評価できる。</li> <li>4. 身体の形態測定ができる。</li> </ol> <p>第4部 グループ実習（本年度より若干担当教員の変更があるため、内容に）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筋のトルク値を計測し、解釈できる。</li> <li>2. 動作筋電図法を用いた動作分析ができる。</li> <li>3. 重心、床反力、関節モーメントを理解し、力学的な動作分析ができる。</li> <li>4. （応用）単純反応時間の測定を経験する。</li> </ol>		
関 連 科 目	<p>関連し合う科目－運動学、臨床運動学</p> <p>この科目が基礎となる科目－全専門科目</p>		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	<p>原則として実習・演習への全参加が条件</p> <p>参加態度、実習レポートなど総合的に評価する</p> <p>原則として遅刻は一切認めない（欠席扱いとし、途中からの参加は認めない）</p> <p>原則として欠席／遅刻／早退などで終了していない実習が一つでもあれば、単位を与えない。</p> <p>成績は、第2部及び第3部 各10%、計20%と第4部の実習 各20%、計80%の割合で、各担当教員からの成績の合計による。</p>		
準 備 学 習 の 内 容	<p>履修に先立ち、解剖学（骨学、靭帯学、筋学、末梢神経学）、生理学（運動の神経調整、筋系など）の復習をしておくこと。</p> <p>実習に先立ち運動学教科書「中村隆一：基礎運動学第6版。医歯薬出版」の 該当箇所を良く読んで予習／復習しておくこと。</p> <p>第一部 歩行 (P361-372, 383-386)</p> <p>第二部 姿勢 (17-42, 331-360)</p> <p>第三部 筋力 (67-83)</p> <p>第三部 動作筋電図 (47-52, 377-382)</p> <p>第三部 生体力学の基礎 (17-41), 運動力学的分析 (372-377)</p> <p>(以下は応用編なので、必ずしも十分な理解は要しない。)</p> <p>第三部 単純反応時間 (「中村隆一：臨床運動学第3版。250-312, 医歯薬出版」)</p>		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	コースオリエンテーション	本科目の説明 レポートの書き方**
2	個人実習 1	歩行とは 歩行速度・歩幅・歩行率 平地歩行での歩行効率 担当) 江口
3	〃	
3	〃	
4	個人実習 2	姿勢の測定 身体の重心位置を推定、形態計測 立位時の圧中心移動計測 立位における身体肢節のアライメント 担当) 目黒
5	〃	
6	〃	
7	〃	
8 ～ 23	グループ実習	グループでローテーションにより下記の実習をする (各課題につき 2 週-4 週)  1. 筋のトルク値を計測 (BIODEX 実習) 担当) 加藤先生  2. 筋電図法を用いた動作分析 (動作筋電図) 担当) 黒川先生  3. 床反力計などを用いた動作分析 (運動力学の運動学実習) 担当) 仲保先生  4. 単純反応時間の測定 (応用実習) 担当) 江口  **各実習でのレポートの有無, 作成方法, 提出の締め切りなどは, 各担当の先生から提示があります.

教 科 書	中村隆一：基礎運動学第 6 版. 医歯薬出版 実習に関する解説は, 別途資料配布.
参 考 書	1. 理学療法科学学会監修：運動学実習マニュアル第三版. アイベック 2. 中村隆一：運動学実習第 3 版. 医歯薬出版 3. 中村隆一：臨床運動学第 3 版. 医歯薬出版 4. Kappandji AI (塩田悦仁訳)：カパンディ 関節の生理学 I～III

授 業 科 目 名	人 間 発 達 学	単 位 認 定 者	中 徹
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および実技	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義時の前後
科 目 の 目 的	理学療法に発達の利用ができることを知る		
学 習 到 達 目 標	定型発達の現象を説明でき、かつ模倣ができる 姿勢反射・反応の神経学的意義、臨床的意義を説明でき、姿勢反射検査ができる		
関 連 科 目	小児理学療法学・小児科学・神経内科学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実技到達度確認 40%+定期試験 60%		
準 備 学 習 の 内 容	講義の該当部分のテキスト部分を事前に読んでおくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	発達の学問の周辺と発達の定義・運動発達と秩序性の理解 (座学)	発達に関する用語の概念を解説する 発達の概念を事例で考える
2	マイルストーンと機能的な重要性・機能的メカニズム (座学)	発達学の方法論について解説する 発達の現象学と機能学について解説する
3	正常運動発達の体験学習 実技 1	背臥位の正常運動発達を体験学習する 腹臥位の正常運動発達を体験学習する
4	正常運動発達の体験学習 実技 2	ずり這いと四つ這いの正常運動発達を体験学習する 座位と起き上がりの正常運動発達を体験学習する
5	正常運動発達の体験学習 実技 3	立ち上がりの正常運動発達を体験学習する 伝い歩きの正常運動発達を体験学習する
6	正常運動発達の体験学習 実技 4	歩行の正常運動発達を体験学習する
7	正常運動発達の体験学習 work shop	これまでの実技のプレゼンテーションを行う
8	正常運動発達の体験学習実技まとめ	実技と講義を交えて正常運動発達についての知識を整理する
9	姿勢反射と反応の基礎知識 (座学)	運動制御における姿勢反射と反応の神経学的・運動学的な役割を理解する
10	姿勢反射・反応の臨床と誘発実技 1	原始反射の体験と誘発実技を行う
11	姿勢反射・反応の臨床と誘発実技 2	立ち直り反応の体験と誘発実技を行う
12	姿勢反射・反応の臨床と誘発実技 3	平衡反応の体験と誘発実技を行う
13	姿勢反射・反応の臨床と誘発 work shop	これまでの実技のプレゼンテーションを行う
14	姿勢反射・反応の臨床と誘発実技まとめ	実技と講義を交えて姿勢反射・反応についての知識を整理する
15	定型的な発達と非定型的な発達 発達の知識を理学療法に応用する	臨床における発達の障がいの現れ方について紹介する 理学療法に発達学の知識を応用するメリットを理解する

教 科 書	1 理学療法・作業療法のための神経生理学プログラム演習 2 運動発達と反射 反射検査の手技と評価 2 シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト
参 考 書	講義内で提示する

授 業 科 目 名	栄 養 学 ( 含 食 品 学 )	単 位 認 定 者	後 藤 香 織
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 15 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	人体が必要とする栄養素を学び、各栄養素が人体に消化吸収される過程を学ぶ。また、栄養素を含む食品と人体が食べ物を欲する科学的過程を学び、医療従事者として必要な栄養学、食品学の基本知識を養成する事を目的とする。尚、理学療法学科は選択であることから、進度を見ながら病態栄養学、スポーツ栄養学についても触れ、実際に食材に触れる機会を設ける。		
学 習 到 達 目 標	基礎医学（解剖学、生理学、生化学）に関連した栄養学の基礎を学ぶ。自らの生活で食品を選択することができるようにする。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 85%、平常点 15%		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	栄養学の目的 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食と私たち</li> <li>・ 食育の必要性</li> </ul>
2	栄養素の種類と体内での主たる役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養素の種類と体内での主たる役割</li> <li>・ 一日のエネルギーを求める</li> </ul>
3	栄養素の科学 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 糖質の消化</li> </ul>
4	” 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 糖質の代謝</li> </ul>
5	” 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タンパク質の構造、消化、代謝</li> </ul>
6	” 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脂質の構造と種類</li> </ul>
7	” 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脂質の消化と代謝</li> </ul>
8	” 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電解質とビタミン</li> </ul>
9	” 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 核酸の消化吸収代謝</li> </ul>
10	病態栄養学 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 糖尿病</li> </ul>
11	病態栄養学 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨粗鬆症</li> </ul>
12	病態栄養学 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貧血 その他</li> </ul>
13	スポーツ栄養学 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツと栄養学</li> </ul>
14	スポーツ栄養学 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツへの応用</li> </ul>
15	まとめ	

教 科 書	新選 食品成分表 三訂版 (実教出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	医 療 概 論	単 位 認 定 者	小 林 功
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義終了後
科 目 の 目 的	医療分野に関する各講義に先立ち、医学・医療の問題を幅広く概観し、専門分野の学習につなげる。		
学 習 到 達 目 標	「医学・医療とは何か、現代医療はどのように実践され、どのような問題をかかえているのか」を幅広く理解し、考えることを目標とする。		
関 連 科 目	すべての臨床医学、生命倫理など		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験（場合によっては中間試験も行う）80%、平常点 20%		
準 備 学 習 の 内 容	前の回の講義時に指示をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	医学・医療の歩み（1）	「人類の誕生と文化の発達」から「近代医学の基礎と臨床医学の近代化」
2	医学・医療の歩み（2）	「近代医学の発展—現代医療の基礎」
3	医学・医療の歩み（3）	「今後の医学・医療の方向」
4	健康と疾病（1）	「健康の概念」、「疾病」
5	健康と疾病（2）	「生活と健康」
6	医学と医療（1）	「医学と医療」、「医療の本質」
7	医学と医療（2）	「医療の実践」
8	わが国の医療供給体制（1）	「医療供給体制の現状と整備の経過」
9	わが国の医療供給体制（2）	「医療関係者の現状と養成の実態」
10	わが国の医療供給体制（3）	「医療保障の現状と課題」
11	現代医療における諸問題（1）	「医療の進歩と医の倫理」
12	現代医療における諸問題（2）	「医療における患者の権利」、「病状（真実）告知」
13	現代医療における諸問題（3）	「脳死と臓器移植」
14	現代医療における諸問題（4）	「死と生命保持、安楽死、死を共有する医療」
15	現代医療における諸問題（5）	医療概論まとめ

教 科 書	「新体系看護学 6 現代医療論」（メヂカルフレンド社）
参 考 書	「学生のための医療概論」 千代豪昭 医学書院 「ヒトゲノムのことが面白いほどわかる本」大脳博義 中経出版。 「ケースブック医療倫理」 赤林 朗、大林雅之 医学書院

授 業 科 目 名	病 理 学	単 位 認 定 者	塩 崎 秀 一
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	病理学は、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることで、病気の本態を究明する。本講義はその総論に当たる内容から、看護に必要な知識を学ぶ。具体的には、病因について学習した後、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症（免疫・膠原病）、腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	病理学の基本を理解し、病態の把握の基礎力をつける。		
関 連 科 目	解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 生化学 内科学 老年医学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験とレポート、出席を総合的に評価（100%）		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論、内因、外因、公害病と医原病、疾病の分類。
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、 遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療。
3	代謝異常 1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応、細胞障害の結果としての物質沈着。
4	代謝異常 2	脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、その他の有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患。
5	循環障害 1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うっ血、虚血、出血、ショック。
6	循環障害 2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、側副循環、リンパの循環障害。
7	炎症と免疫、膠原病 1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治癒、炎症の治療、炎症の各型。
8	炎症と免疫、膠原病 2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、抗体と補体、能動免疫と受動免疫
9	炎症と免疫、膠原病 3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、主要組織適合複合体、 膠原病。
10	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類、異形度・分化度・悪性度、悪性腫瘍の転移と進行度。
11	腫瘍 2	腫瘍の発生病理、腫瘍の発生原因、がん発生の外因、がん発生の内因、腫瘍の診断と治療、がんの予防。
12	老化と死	老化とは、ホメオスタシスの老化、主要組織・臓器の老化、死について。
13	病理検査	病理検査の意義、細胞診、生検組織診、手術時の迅速診断、病理解剖、病理組織・細胞診標本の作製課程。
14	その他	必要に応じて上記を補う。
15	その他	必要に応じて上記を補う。

教 科 書	New エssenシャル病理学、長村ほか著、医歯薬出版
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	薬 理 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義。毎回指導内容をプリントに明記して配布する。	オフィス・アワー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	医療の中で投薬（服薬、注射、輸液、外用など）の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。 1) 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。 2) 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用についても学ぶ。 3) 薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。 4) 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護に必要とされるレベルに到達することを目標とする。		
関 連 科 目	生理学Ⅰ・Ⅱ 生化学 医療概論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験（100%）		
準 備 学 習 の 内 容	短期間の間に広範な内容を学ぶことになるので、毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。その際に、これまでに学んだ疾患に関する知識をよく思い出し、関連付けを明確にしておく。それが次の内容を受け入れやすくなり、準備学習を兼ねることになる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。投与経路と薬の吸収、分布、代謝、排泄。
2	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬。局所麻酔薬。中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬。麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。
3	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬。抗痙攣薬（抗てんかん薬）。 筋弛緩薬。抗パーキンソン薬。
4	自律神経薬。 オータコイド	自律神経の基礎知識。コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬（付：胃酸分泌抑制薬）。アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬。オータコイドの種類とその作用。プロスタグランディンの臨床応用。
5	強心薬。抗狭心症薬と抗不整脈薬。	強心薬（ジギタリス）の投与方法。ジギタリスの副作用とその対策。抗狭心症薬。抗不整脈薬。
6	利尿薬。 降圧薬。	利尿薬。利尿薬の臨床的応用。 降圧薬。抗動脈硬化薬。
7	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬。駆虫薬。 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬。 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。
8	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬。止血薬。抗血栓療法薬。 開発と化学療法。副作用と組み合わせ。
9	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬。抗ウイルス剤。免疫について。免疫療法。
10	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法。消毒薬の濃度と殺菌速度。 呼吸器病薬。抗結核薬。

回	講 義 題 目	講 義 内 容
11	皮膚疾患に用いられる薬剤.	皮膚疾患に用いられる薬剤.
12	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる薬剤. 点眼薬. 輸液	造影剤. 放射性医薬品. ショックの原因別分類. ショックの対応と薬剤. 点眼薬. 輸液の目的. 輸液剤.
13	毒物および解毒剤 代謝賦活薬. ビタミン剤	中毒の状態. 急性中毒に対する処置. 解毒剤. 排泄と吸着. 代謝賦活薬・ビタミン剤
14	小児・妊婦・高齢者に対する薬物療法. 嗜好品の薬理と薬物相互作用	小児の薬物療法. 妊婦の薬物療法. 高齢者の薬物療法. 嗜好品の薬理. 薬物相互作用.
15	薬剤の安定性: 保存および混合の問題 点. まとめ.	薬剤の保存. 薬剤の混合. 配合変化 (配合禁忌).

教 科 書	特になし
参 考 書	「新版看護学全書6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」(メヂカルフレンド社)

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 学	単 位 認 定 者	石 館 敬 三
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7.5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	健康及び公衆衛生の基礎的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学である、活動であることを理解する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。</li> <li>2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。</li> <li>3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。</li> </ol>		
関 連 科 目	生命倫理 環境学 地域社会学 情報処理 救急・免疫・感染症学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	公衆衛生の理解 人口と公衆衛生	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合
2	環境と公衆衛生	人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題 大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準
3	食と公衆衛生 国民の健康と保健統計	食中毒の発生状況、食中毒の種類 健康指標、20世紀100年の変化
4	同 上 疫病の疫学と予防	年齢調整死亡率の意義 疫学概念、疫学調査方法、因果関係推論、 スクリーニング
5	同 上	感染症の疫学、新感染症予防法
6	生活習慣病対策 公衆衛生活動 例	結核対策、HIV 対策 がんの予防、その他生活習慣病予防
7	同 上 保健・医療行政	精神保健対策、介護保険制度 母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策 地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携
8	課題研究発表	社会保障制度、国民医療費 指定課題による研究発表

教 科 書	新体系看護学7 「公衆衛生学」 小野寺伸夫著 (株)メデカルフレンド社 国民衛生の動向 2012/2013 版 財団法人 厚生統計協会
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	臨 床 検 査 ・ 画 像 診 断 学	単 位 認 定 者	小 林 功
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義終了後
科 目 の 目 的	多くの病気の正確な診断に、臨床検査・画像診断学は欠かせないものとなっている。特に、生体検査として、X線、CT、MRI、超音波検査（US）、核医学（SPECT、PET）など多くの画像診断法が開発され、発展している。画像により正常解剖の理解が深まるし、画像検査により病気の発生とともに、解剖学的異常、生体内の変化を目で見ることができるようになった。一方、血液、尿・便、喀痰等の検体検査の測定法も進歩し、臨床診断に大いに寄与している現状である。本科目を学習することにより正常解剖・生理学を分かりやすく理解するとともに、実際に病気の診断に臨床検査・画像診断がどのように利用されているかを知ることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液検査など検体検査で何が判るか理解する。</li> <li>2. 理学療法士として、臨床検査の重要性を十分把握する。</li> <li>3. X線、CT、MRI、超音波検査（US）、核医学検査（SPECT）・PETの原理を習得する。</li> <li>4. 正常解剖画像、代表的な病気の典型的な画像を理解する。</li> <li>5. 正確な病気の診断に画像診断がどのように利用されているか、その役割を理解する。</li> </ol>		
関 連 科 目	関連し合う教養科目－情報処理、生物学基礎、化学基礎、物理学基礎 この科目が基盤となる専門基礎科目－解剖学Ⅰ・Ⅱ、生物学、生化学、病理学、薬理学、内科学、臨床医学特殊講義、整形外科Ⅰ・Ⅱ、臨床神経学Ⅰ・Ⅱ、小児科学 この科目が基盤となる専門科目－運動器理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、物理療法学、スポーツ障害理学療法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験（80％）に平常点（20％）を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	前の回の講義時に指示をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	臨床検査学総論	臨床検査の必要性
2	血液生化学検査（1）	血液検査の種類と実際
3	血液生化学検査（2）	血液検査の種類と実際
4	血液生化学検査（3）	血液検査の種類と実際
5	尿・便・喀痰等	一般検査の概要
6	生体検査（1）	心電図・肺機能検査・脳波等などの測定の意義
7	生体検査（2）	心電図・肺機能検査・脳波等などの測定の意義
8	画像診断総論	画像診断の種類 画像診断の役割 それぞれの長所と限界
9	X線検査、正常解剖画像	X線診断の原理、造影剤、マンモグラフィ
10	エックス線CT	CTの原理、CTの正常解剖画像、CTの臨床的有用性
11	核医学・PET	放射性同位元素（RI）とは、機能画像、SPECT、PETの原理と臨床応用
12	MRI	MRIの原理、MRIの臨床的有用性、MRIの正常解剖像
13	脳・脊髄	脳血管障害、脳腫瘍、認知症（痴呆） 椎間板ヘルニアの画像診断
14	骨、関節、筋肉	骨折、骨・軟部腫瘍、靭帯損傷の画像診断
15	まとめ	まとめ

教 科 書	「系統看護学講座 別巻6 臨床検査」/大久保昭行 編（医学書院） プリントによる
参 考 書	「臨床検査ガイド 2007～2008」 /Medical Practice 編（文光堂） 「放射線画像医学 医用放射線科学講座7」/稲本一夫 別府慎太郎 編（医歯薬出版） 「リハビリテーション診断学（下）リハビリテーション医学全書Ⅱ-3」/千野直一 編（医歯薬出版） 「CT/MRI 画像解剖ポケットアトラス①頭部・頸部・脊柱・関節」 / 町田徹 監訳（メディカル・サイエンス・インターナショナル） 「CT/MRI 画像解剖ポケットアトラス②胸部・腹部・骨盤」 / 町田徹 監訳（メディカル・サイエンス・インターナショナル） 「レントゲン画像解剖ポケットアトラス」/ 町田徹 監訳（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

授 業 科 目 名	臨 床 医 学 特 殊 講 義	単 位 認 定 者	小 林 功
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義を中心とする。	オ フ ィ ス ・ ア フ ー	講義終了後
科 目 の 目 的	理学療法士として必要な病態（特に外科領域）を学習する。		
学 習 到 達 目 標	理学療法士として各種疾患についての病態を把握する。		
関 連 科 目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、整形外科学を含む各臨床科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験（筆記）80%、授業態度20%		
準 備 学 習 の 内 容	前の回の講義時に指示をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	理学療法士としての各種病態の概論	各種病態における理学療法士の役割について考察する。
2	生体の反応と臓器障害	生体・臓器に損傷が及ぼす反応を理解する。
3	外科的診断法	代表的な外科疾患の診断法及び処置について学ぶ。
4	滅菌法・消毒法	無菌法の意義と実践について理解する。
5	救急疾患	ショックを含む救急疾患の概要を習得する。
6	損傷（創傷・熱傷等）	生体にとって損傷の意義と対処法について学習する。
7	感染症学	感染症の病態と対策を概略する。
8	腫瘍学	腫瘍の概要を把握し、臨床現場を理解する。
9	整形外科領域	整形外科領域における疾患を理解する。
10	耳鼻咽喉科領域	耳鼻咽喉科領域における疾患を理解する。
11	泌尿器科領域	泌尿器科領域における疾患を理解する。
12	産婦人科領域	産婦人科領域における疾患を理解する。
13	分子生物学	最新の動向について学習する。
14	臓器移植	最新の動向について学習する。
15	まとめ	講義内容の基礎的実践的知識を整理する。

教 科 書	プリントを使用する。
参 考 書	標準外科学（医学書院）

授 業 科 目 名	内 科 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	臨床医学の中で内科学は、すべての疾患を知る上で重要な学問である。特に、疾患の病態生理、診断、治療をしっかり学ぶ事は、理学療法士にとって臨床の現場で患者の状況を理解し、的確な判断に基いて理学療法を施す上で重要である。		
学 習 到 達 目 標	疾病の病態生理、診断、治療を一連の流れの中で理解する力を養う。 国試に役立つ疾患について理解を深め、実際の問題に対応する。		
関 連 科 目	解剖学 I ・ II 病理学 生理学 I ・ II		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験にて評価 (100%)		
準 備 学 習 の 内 容	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭に入れておくこと。すると、講義全体の流れがわかるので、それを踏まえて次回の講義を受けることができる。これが準備学習を兼ねることになる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	概論 1	<薬物療法と食事療法> 薬物療法の実際。薬物の作用。薬物の濃度。医薬品および処方せんに関係する法令。薬用量。食事療法の目的。栄養と疾病の関係。栄養学の基本。過栄養。各種病態と食事療法の基本方針。病院食。特殊栄養量。
2	概論 2	<臨床検査> 一般検査。血液検査。生化学検査。内分泌検査。感染症検査。免疫学的検査。腫瘍マーカー。生理学的検査。
3	消化器疾患 1	消化器疾患の食事・栄養療法。口腔疾患。食道疾患。胃疾患 I。
4	消化器疾患 2	胃疾患 II。腸疾患。腹膜疾患。急性腹症。
5	消化器疾患 3	肝疾患。胆嚢・膵臓疾患。
6	呼吸器疾患 1	感染性呼吸器疾患。気管支拡張・嚢胞形成性肺疾患。
7	呼吸器疾患 2	特発性間質性肺炎。肺腫瘍。肺循環障害。
8	呼吸器疾患 3	産業性呼吸器疾患。気管支喘息。アレルギー性肺疾患。膠原病・血管縁と類縁疾患。サルコイドーシス。その他の呼吸器疾患。
9	循環器疾患 1	うっ血性心不全。不整脈。頻脈性不整脈。
10	循環器疾患 2	徐脈性不整脈。虚血性心疾患。弁膜症。心筋炎。リウマチ熱。
11	循環器疾患 3	血圧の異常。大動脈疾患。末梢動脈疾患。静脈・リンパ系疾患。
12	内分泌・代謝疾患 1	内分泌疾患の特徴。間脳・下垂体機能障害。甲状腺疾患。
13	内分泌・代謝疾患 2	副甲状腺疾患。副腎疾患。代謝栄養疾患の総論。糖代謝異常。
14	内分泌・代謝疾患 3	脂質代謝異常。尿酸代謝異常。その他の代謝異常。
15	まとめ	

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	整 形 外 科 学 I	単 位 認 定 者	宗 宮 真
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	整形外科疾患を有する人々の理学療法を行う上で必要な知識を身につける。		
学 習 到 達 目 標	整形外科疾患の病態、症状、検査、診断、治療および理学療法を行う際の注意点について理解する。		
関 連 科 目	整形外科学Ⅱ、臨床心理学、生命倫理、病理学・解剖学Ⅰ・Ⅱ、運動生理学、老年医学、救急・免疫・感染症学、スポーツ医学、義肢学、装具学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(80%)に授業出席・参加態度(20%)を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べて理解しておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容	
1	整形外科総論1	整形外科の基礎知識(骨・関節・筋肉・神経・血管の基本構造と機能) 運動器の評価および検査法、整形外科疾患の治療法	
2	整形外科総論2		
3	整形外科疾病論1	炎症性疾患 代謝・内分泌性疾患、退行性疾患 先天性骨・関節性疾患 脊椎の疾患、脊椎・脊髄損傷 末梢神経の疾患・外傷 骨折総論、体幹の骨折 上肢の骨折・脱臼 下肢の骨折・脱臼 腱・靭帯の損傷、スポーツ外傷 循環障害と壊死性疾患 骨・軟部腫瘍、神経筋疾患 熱傷、褥創、切断	
4	整形外科疾病論2		
5	整形外科疾病論3		
6	整形外科疾病論4		
7	整形外科疾病論5		
8	整形外科疾病論6		
9	整形外科疾病論7		
10	整形外科疾病論8		
11	整形外科疾病論9		
12	整形外科疾病論10		
13	整形外科疾病論11		
14	整形外科疾病論12		
15	まとめ		まとめ

教 科 書	標準整形外科学(第10版)医学書院
参 考 書	各授業の際に適宜提示する。

授 業 科 目 名	整 形 外 科 学 II	単 位 認 定 者	宗 宮 真
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	整形外科疾患を有する人々の理学療法を行う上で必要な知識を身につける。		
学 習 到 達 目 標	脊柱・四肢の各部位別に、整形外科疾患の病態、症状、検査、診断、治療について理解する。		
関 連 科 目	整形外科学 I、臨床心理学、生命倫理、病理学・解剖学 I・II、運動生理学、老年医学、救急・免疫・感染症学、スポーツ医学、義肢学、装具学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(80%)に授業出席・参加態度(20%)を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べて理解しておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	脊柱の疾患 1	頸椎疾患の病態・症状・治療・リハビリテーション 頸髄損傷の病態・症状・治療・リハビリテーション 腰椎疾患の病態・症状・治療・リハビリテーション 胸腰椎疾患による脊髄・馬尾損傷の病態・症状・治療・リハビリテーション
2	脊柱の疾患 2	
3	脊柱の疾患 3	
4	脊柱の疾患 4	
5	上肢の疾患 1	肩関節、上腕、肘関節、手関節、手指などの疾患・外傷の病態・症状・治療・リハビリテーション
6	上肢の疾患 2	
7	上肢の疾患 3	
8	上肢の疾患 4	
9	下肢の疾患 1	股関節、大腿骨、膝関節、足関節、足部などの疾患・外傷の病態・症状・治療・リハビリテーション
10	下肢の疾患 2	
11	下肢の疾患 3	
12	下肢の疾患 4	
13	症例提示	症例提示
14	症例提示	症例提示
15	まとめ	まとめ

教 科 書	標準整形外科学(第10版) 医学書院
参 考 書	各授業の際に適宜提示する。

授 業 科 目 名	臨床神経学Ⅰ(神経内科学)	単 位 認 定 者	小 林 功
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義終了後
科 目 の 目 的	理学療法士の基盤である神経系について理解し、実践に役立つ知識を身につける。		
学 習 到 達 目 標	各神経疾患の病態生理・特徴的な症候を学ぶ		
関 連 科 目	臨床神経学Ⅱ(小児神経学・脳神経外科学)		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 80%・授業態度 20%		
準 備 学 習 の 内 容	前の回の講義時に指示をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	疾患各論 1	脳血管障害 1 総論
2	” 2	” 2 脳出血
3	” 3	” 3 脳梗塞
4	” 4	” 4 治療
5	神経免疫学	感染・炎症・腫瘍 感染・炎症・脱髄疾患各論
6	末梢神経疾患	脊髄・末梢神経・脱髄
7	疾患各論 1	錐体外路系疾患1
8	” 2	錐体外路系疾患2
9	” 3	脊髄小脳変性症
10	” 4	運動ニューロン疾患
11	” 5	認知症
12	” 6	脱髄疾患
13	” 7	筋疾患 進行性筋ジストロフィー・ミトコンドリア脳筋症
14	” 8	一般内科疾患にともなう神経疾患 ビタミン、中毒、代謝異常
15	まとめ	

教 科 書	「神経内科学テキスト」江藤文夫(南江堂)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	臨 床 神 経 学 II (小児神経学・脳神経外科学)	単 位 認 定 者	井 埜 利 博
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	小児神経学および脳神経外科学をより詳細に勉強し、理学療法士として将来の臨床の場に役立てる。		
学 習 到 達 目 標	各疾患の原因・症状・診断・治療等を理解すること。		
関 連 科 目	小児科学・小児理学療法学・精神医学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験の成績【80%】、平常点【20%】		
準 備 学 習 の 内 容	講義では臨床で重要なポイントを話します。受講前に教科書を一読しておいてください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	<小児神経学> 神経疾患総論・癲癇	症状・診察方法・神経学的検査、癲癇の種類・症状
2	神経皮膚症候群	神経皮膚症候群の種類・症状、その他類縁疾患
3	変性疾患	脊髄・小脳変性疾患の種類・症状
4	炎症性疾患	脳炎・脳症などの症状・診断法・治療など
5	筋疾患総論・筋ジストロフィー 炎症・代謝性筋疾患	先天性ミオパチー・筋ジストロフィーの原因・症状・治療などについて ウイルス性筋炎、代謝性ミオパチーの症状・治療
6	多発性神経炎	ギラン・バレー症候群・フィッシャー症候群等の症状・治療等
7	痙攣性疾患	てんかん、熱性けいれんの症状・治療法
8	先天異常・染色体異常	ダウン症候群を始めとする染色体異常等の症状・治療法
1	<脳神経外科学> 脳神経外科における症候について総論	脳神経症状、運動・知覚障害、痙攣発作、脳浮腫、脳圧亢進、意識障害について、病態の重篤度、画像診断
2	頭部外傷	頭部外傷の病態と治療法
3	良性脳腫瘍	頻度の高い良性脳腫瘍(髄膜腫、下垂体腫瘍、神経鞘腫、頭蓋底腫瘍)の症状、画像診断、 (手術、ガンマーナイフ治療)、遺伝性腫瘍：遺伝子異常、疾病の病態(NF1, NF2, VHL, 結節性硬化症)(症例をもとに)、治療法の選択(手術、ガンマーナイフ)
4	悪性脳腫瘍	悪性脳腫瘍(グリオーマ、髄芽腫、生殖細胞腫、転移性脳腫瘍等)の病態と画像診断、治療法の選択(手術、原体照射、ガンマーナイフ、化学療法)
5	脳血管障害(出血性病変)	高血圧性脳内血腫、脳動脈瘤、脳動静脈奇形の病態と治療法の選択(開頭術と血管内治療について)、
6	脳血管障害(閉塞性病変)	総頸動脈、主幹脳動脈の狭窄の血管内治療、脳梗塞、 神経症状、高次機能障害について
7	脊髄病変	脊髄腫瘍、脊髄血管障害の症状、診断、治療

教 科 書	特になし
参 考 書	小児科学(医学書院)、小児理学療法学テキスト(南江堂)

授 業 科 目 名	精 神 医 学	単 位 認 定 者	平 尾 良 雄
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および症例を中心に学ぶ。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	広汎な精神障害の概要を学び、将来理学療法士としての役割を学習する。		
学 習 到 達 目 標	理学療法士として将来遭遇する症例の実像を理解する。		
関 連 科 目	内科学 小児科学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 80%、授業態度 20%		
準 備 学 習 の 内 容	前の回の講義時に指示をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	精神医学とは	精神医学の定義・概念・歴史
2	精神障害の成因と分類	精神障害の成因と分類
3	精神機能の障害と精神障害	精神症状・意識・知識・性格・感情など
4	精神障害と診断と評価	診断と評価の方法
5	脳器質性精神障害	脳器質性精神障害の概念とその疾患（認知症を含む）
6	症状性精神障害	症状性精神障害の概念と症状
7	精神作用物質	アルコール、睡眠薬等の薬物関連障害
8	てんかん	てんかんの定義と概念
9	統合失調症	統合失調症の病型、症状とリハビリテーション
10	気分（感情）障害	概念と主な病型、特に躁うつ病
11	神経症	神経症の概念と病型
12	摂食障害・睡眠障害	成因と病態
13	人格・行動・性の障害	成因と概念
14	心身医学	心身症をめぐって
15	まとめ	

教 科 書	「標準理学療法学作業療法学 精神医学」(医学書院)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	小 児 科 学	単 位 認 定 者	井 埜 利 博
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	教科書に沿って指導を進め、パワーポイントにより、症例の写真を提示し学習する。ときに小レポート課題を出し、クラスで発表させ授業に参加している意識を持たせる。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	理学療法士として小児のリハビリテーションを行う場合、基礎として、小児の生理・病理を理解し、疾患について学び、将来他の医療スタッフと業務の上で協調できる能力をもつことを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	小児の成長・発達を学び、小児の疾患についても総合的に学ぶ。個々の疾患を覚えるのではなく、各疾患の特異性を平易に理解し学習することを目標とする。		
関 連 科 目	解剖学 生理学 人間発達学 他の臨床医学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験の成績【80%】、平常点【20%】		
準 備 学 習 の 内 容	講義では臨床で重要なポイントを話します。受講前に教科書を一読しておいてください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	小児科学概論	こどもの成長・発達について学ぶ  リハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ
2	小児科学概論 (つづき) 診断と治療の概要	
3	新生児・未熟児疾患	
4	先天異常、先天代謝異常	
5	神経・筋・骨等疾患	
6	神経・筋・骨等疾患 (つづき)	
7	循環器疾患、呼吸器疾患	
8	感染症、消化器疾患	
9	内分泌・代謝疾患	
10	血液疾患	
11	免疫・アレルギー疾患、膠原病	
12	腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、腫瘍性疾患	
13	心身症、神経症など	
14	重症心身障害児、眼科・耳鼻科的疾患	
15	まとめ	

教 科 書	「標準理学療法学・作業療法学 小児科学」富田 豊編 (医学書院) 2004.
参 考 書	「小児科学 第7版」中山健太郎、矢田純一編 (文光堂) 2004. 「NEW小児科学 改訂版」清野佳紀、小林邦彦、原田研介、桃井真理子編 (南江堂) 2003.

授 業 科 目 名	リハビリテーション医学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義。そのつど、講義内容を明記したプリントを配布する。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	神経系、筋・骨・関節系、呼吸器系、循環器系などの機能障害と、これに基づく能力障害や社会的不利を理解し、これらの障害に対するリハビリテーションを学習する。具体的には以下の四側面を学ぶ。 1) 障害を、機能障害と能力低下、社会的不利、環境因子から多面的に評価する方法を学ぶ。 2) 廃用症候群を含む種々の機能障害の病態生理と回復について学ぶ。 3) 治療理論の概略を学ぶ。 4) 種々の機能障害に関するリハビリテーション医学の臨床の概略について学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	リハビリを支える医学的な側面に関して、一定レベルの理解に到達すること。		
関 連 科 目	内科学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 (100%)		
準 備 学 習 の 内 容	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭に入れておくこと。すると、講義全体の流れがわかるので、それを踏まえて次回の講義を受けることができる。これが準備学習を兼ねることになる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	障害の評価	医学的情報の評価。機能障害の評価。能力低下 (活動制限) の評価。社会的不利の評価。環境因子の評価。
2	機能障害の病態生理と回復 1	筋肉・柔部組織損傷。骨・関節損傷。末梢神経損傷。
3	機能障害の病態生理と回復 2	大脳・基底核・脳幹・小脳の損傷。高次脳機能障害。脊髄の障害。
4	機能障害の病態生理と回復 3	痛み。呼吸機能。心機能。嚥下と口腔衛生。排泄。
5	廃用症候群などの病態生理	発生機序。廃用症状。誤用と過用。
6	治療理論 1	関節可動域。筋力増強。中枢神経障害。
7	治療理論 2	体力と持久力。バイオフィードバック。運動負荷とリスク管理。
8	リハビリテーション医学の臨床 1	脳血管障害。外傷性脳損傷。
9	リハビリテーション医学の臨床 2	脊髄損傷。脳性麻痺。末梢血管疾患。
10	リハビリテーション医学の臨床 3	切断と義肢。末梢神経麻痺。変性疾患。
11	リハビリテーション医学の臨床 4	筋疾患。慢性関節リウマチ。その他の膠原病。
12	リハビリテーション医学の臨床 5	骨関節の外傷および疾患。呼吸器疾患。
13	リハビリテーション医学の臨床 6	循環器疾患。
14	リハビリテーション医学の臨床 7	糖尿病。血液疾患。
15	リハビリテーション医学の臨床 8	悪性腫瘍。視覚障害。聴覚・平衡障害。高齢者。

教 科 書	特になし
参 考 書	「入門 リハビリテーション医学」中村隆一監修 (医歯薬出版株式会社)

授 業 科 目 名	老 年 医 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7.5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義。講義内容は毎回プリントに明記して配布する。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	理学療法士として高齢者とどのように接してゆくか、何ができ、何が困難かを考える一助とする。		
学 習 到 達 目 標	リハビリを支えるための老年医学の主要な概念と知識を一定レベルの水準を満たすように獲得すること。具体的には最終試験での受講者の過半数の者の正解率が75%に到ること。		
関 連 科 目	病理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭に入れておくこと。すると、講義全体の流れがわかるので、それを踏まえて次回の講義を受けることができる。これが準備学習を兼ねることになる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	老化と老年病の考え方、生理機構の加齢変化	老化とは、加齢による生理機能の低下と疾病、老年症候群と機能評価、理学・作業療法との関連事項、感覚機能、自律機能、高次神経機能の加齢変化
2	運動機能と精神心理面の加齢変化 高齢者に特徴的な症候と疾患、老年症候群	高齢者の運動機能、運動機能の加齢変化、知能の障害発達、記憶の加齢変化、人格、老年期の創造性の特徴 老年症候群の概念、代表的な老年症候群
3	循環器疾患、呼吸器疾患 消化器疾患	循環器疾患：うっ血性心不全、虚血性心疾患、脳血管障害、血圧異常、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、血管疾患、呼吸器感染症、誤嚥と誤嚥性肺炎、肺癌、閉塞性肺疾患、間質性肺炎 高齢者の消化器癌、上部消化管疾患、腸疾患、肝疾患、胆道・膵疾患
4	骨運動器疾患 精神神経疾患	骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靭帯骨化症、関節リウマチ 精神神経機能の老化、老年痴呆、うつ病、パーキンソン病、多系統萎縮症と自律神経障害、末梢神経障害
5	内分泌代謝疾患、血液・免疫疾患 腎・泌尿器疾患、皮膚・口腔疾患 感染症、高齢者との接し方	糖尿病、高脂血症、甲状腺疾患、痛風、貧血、白血病と骨髄低形成症候群、多発性骨髄腫、膠原病、 腎不全、尿路感染症、前立腺疾患、皮膚疾患、口腔疾患 高齢者の感染症の原因と特徴、診断の進め方、治療の留意点、臓器別感染症の特徴、院内感染対策と MRSA、高齢者との接し方：医療従事者の心得、患者・家族とのかかわり
6	高齢者の機能評価 高齢者の退院支援 高齢者の定義および人口動態	高齢者の機能評価の意義、日常生活活動度の評価、知的機能の評価、QOLの評価 高齢者における退院支援の必要性、介護保険下の退院支援、高齢者の定義、世界と日本における人口動態
7	社会学・経済学から見た高齢社会、高齢者の医療・看護・介護・福祉・保険	高齢社会の問題とは、生産人口、生産能力、健康度分布、世代間問題、高齢者の医療、看護、介護・福祉、介護保険制度、老人保健
8	高齢者のリハビリテーション まとめ	高齢者のリハビリテーションの考え方、理学療法、作業療法、言語療法のまとめ

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	救急・免疫・感染症学	単 位 認 定 者	高 橋 克 典
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	[救急] 講義・演習 [免疫・感染症]教科書、資料、スライドなどを用いて指導する	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	高橋：昼休み 北林：集中講義日 9時～18時 E-mail 18時～21時
科 目 の 目 的	[救急] 呼吸器系・心血管系・脳血管系の解剖生理と主要な疾患を理解し、意識の確認・呼吸の確認・胸骨圧迫循環維持・気道確保・人工呼吸・AEDによる除細動などの一連の一次救命処置が実践することを目的とし、アメリカ心臓協会 (AHA) の医療従事者向け BLS ライセンス (BLSHCP: Basic Life Support for Health Care Providers) 取得を目指す。 [免疫・感染症] 生体防御機構を中心とした免疫システムの基礎知識を習得し、免疫異常症の理解を深める。また、細菌・ウイルスを中心とした病原体による感染症の種類、感染経路、感染予防法など、臨床現場で必要となる感染知識を身に着ける。		
学 習 到 達 目 標	[救急] ① 救命の連鎖について説明できる。 ② 一次救命処置 (BLS) について説明できる。 ③ 気道異物 (FBAO) の治療手順を説明できる。 ④ A E D を含む医療従事者向け一次救命処置 (BLSHCP) が実践できる。 [免疫・感染症] 1. 細胞性免疫と液性免疫を理解する。 2. 自己免疫疾患と自己抗体の関係を理解する。 3. アレルギーの種類と特徴を理解する。 4. 感染症の特徴と感染対策法を理解する。 5. 主な細菌感染症について理解する。 6. 主なウイルス感染症について理解する。		
関 連 科 目	[救急] 解剖学・生理学・疾病と障害の成り立ち・公衆衛生学 [免疫・感染症] 生理学・疾病の成り立ち		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	[救急] 実技試験 [免疫・感染症] 定期試験 (85%) 出席点 (15%)		
準 備 学 習 の 内 容	[救急] 理学療法士養成課程において、BLSHCP (医療従事者向け一次救命処置) ライセンス取得を促進したのは当大学が先駆けである。プレホスピタルのみならず、リハビリテーション中の患者が急変心肺停止となることも想定しなければならない。AHA の BLSHCP ライセンス取得は、現役の医師・看護師・救急救命士らと共に挑戦することになる。非常に重みのある BLSHCP ライセンスの取得は、国家試験合格のみならず、今後の理学療法士としての活動に際して大きな自信となるはずである。 [免疫・感染症] 事前に配布する資料に目を通しておく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	[救急] 一次救命処置 (BLS) とは	① 一次救命処置、二次救命処置の区分および救命の連鎖について理解する。 ② 呼吸器系・心血管系・脳血管系の解剖・生理を理解する。 ③ 急性冠症候群 (ACS)を理解する。 ④ 急性心筋梗塞 (AMI) の症状を理解する。 ⑤ 胸部不快感を訴える人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。 ⑥ 一過性脳虚血発作 (TIA)・虚血性脳血管障害について理解する。 ⑦ 出血性脳血管障害について理解する。 ⑧ 急性脳血管障害の可能性のある人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。
2	成人に対する CPR 演習	① 反応のない成人傷病者を発見した時の適切な行動を理解し実践できる。 ② 成人に対する胸骨圧迫循環維持の方法を理解し実践できる。 ③ 成人に対する呼吸の有無を確認する方法を理解し実践できる。 ④ 成人に対する気道確保の方法を理解し実践できる。

回	講 義 題 目	講 義 内 容
3	成人および乳児に対する CPR 演習①	⑤ 成人に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。 ⑥ 早期除細動の重要性を理解する。 ⑦ AED の目的を理解する。 ⑧ AED の使用方法を理解する。 ⑨ AED から「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。
4	成人および乳児に対する CPR 演習②	① 反応のない成人および乳児傷病者を発見した時の適切な行動を理解し実践できる。 ②成人および乳児に対する胸骨圧迫循環維持の方法を理解し実践できる。 ③成人および乳児に対する呼吸の有無を確認する方法を理解し実践できる。 ④ 成人および乳児に対する気道確保の方法を理解し実践できる。 ⑤成人および乳児に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。 ⑥早期除細動の重要性を理解する。 ⑦AED の目的を理解する。 ⑧ AED の使用方法を理解する。 ⑨ AED から「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。
5	気道異物除去法演習および成人に対する BLS 実技試験・まとめ	①人および乳児の気道異物治療手順が実践できる。 ②AHA の BLS アルゴリズムに沿って一次救命処置が実践できる。
6	[免疫・感染症] 免疫学総論 ～ 免疫の概念 ～	自己と非自己を識別する仕組み、生体防御システムの概要を中心に解説する。
7	生体防御システム概論 I ～ 細胞性免疫を理解する ～	細胞性免疫に関与する細胞の種類およびそれらを制御するサイトカインネットワークを中心に解説する。
8	生体防御システム概論 II ～ 液性免疫を理解する ～	免疫グロブリンの種類と構造について解説。また、1 次応答と 2 次応答の仕組みや、抗体が産生されるメカニズムについて解説する。
9	免疫異常症概論 I ～ 自己免疫疾患とは ～	自己免疫疾患の定義、分類、自己抗体の種類などについて解説する。また、主な自己免疫疾患の病態および治療法について概説する。
10	免疫異常症概論 II ～ アレルギーとは ～	アレルギーの分類と発生機序について解説する。
11	感染症総論 ～ 感染経路と感染対策 ～	感染症の定義、感染経路、感染対策法を中心に解説する。
12	細菌感染症概論 I	細菌の特徴、抗菌薬の分類、薬剤耐性メカニズムについて解説する。
13	細菌感染症概論 II	グラム陽性菌とグラム陰性菌の分類、食中毒の原因菌、性感染症原因菌について概説する。
14	ウイルス感染症概論 I	ウイルスの特徴、抗ウイルス薬の分類、ウイルス感染のメカニズムについて概説する。
15	ウイルス感染症概論 II	DNA ウイルスと RNA ウイルスの分類、食中毒の原因ウイルス、性感染症原因ウイルスについて概説する。

教 科 書	[救急]別途プリントを配布するので教科書は購入不要 [免疫・感染症]「シンプル免疫学」 中島 泉, 他 (南江堂)
参 考 書	[救急]ポケットマスク購入要 (2,000 円税込) 別途お知らせします。 必携 医療従事者・医療系学生のための臨床用語・略語 BOOK : 北林 司: 北方新社刊 (1,000 円税込) 当日販売 [免疫・感染症]「病気が見える⑥ 免疫・膠原病・感染症」(メディックメディア)

授 業 科 目 名	ス ポ ー ツ 医 学	単 位 認 定 者	奈 良 純 夫
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・テスト	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	広義のスポーツは人間にとって不可欠である。現代社会の運動不足が疾病を増加させている。疾病の予防、健康維持に必要なスポーツを医学的に理解する。		
学 習 到 達 目 標	スポーツ医学を学生自身に生かすと共に一般人、患者の指導が出来るように理解させる。		
関 連 科 目	内科学、外科学、整形外科、運動生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(70%)に、平常点および講義中の理解度(30%)を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	教科書を授業前に復習しておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	1 講義概要、成績評価等
2	スポーツ医学とは	2 スポーツ医学の基礎領域、スポーツによる医学スポーツのための医学
3	発育期のスポーツ	3 子供の特徴、発育期の運動不足問題、運動スポーツ
4	スポーツと循環器系	4 心臓疾患、高血圧症とスポーツ医学
5	スポーツと循環器系	5 心臓疾患、高血圧症とスポーツ医学
6	スポーツと呼吸器系	6 呼吸器疾患とスポーツ、生理疾患予防
7	スポーツと代謝疾患	7 糖尿病、脂質異常、メタボリックシンドロームとスポーツ医学
8	スポーツと血液系	8 スポーツと貧血
9	スポーツと泌尿器系	9 泌尿器系とスポーツ
10	スポーツ特殊環境	10 暑熱、熱中症、寒冷等の対応
11	スポーツと薬物	11 ドーピング等
12	スポーツ障害	12 スポーツ障害の予防と治療
13	スポーツ障害	13 スポーツ障害の予防と治療
14	総まとめ①	
15	総まとめ②	

教 科 書	【テキスト】スポーツ医学入門 【配布資料】熱中症ガイドブック、健康づくりのための運動指針
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	緩 和 医 療 学	単 位 認 定 者	江 口 勝 彦
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義／実技演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	毎週水曜日 12:10-12:30 (江口) 講義の前後 (非常勤講師)
科 目 の 目 的	<p>第一部では、緩和医療（ケア）について、終末期に限らず医療のさまざまな分野が必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつあることを中心に、がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。</p> <p>また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。</p> <p>第二部では、最初に悪性腫瘍（ガン）のリハビリテーションについてその概要を示し、他疾患との相違、特徴などを理解する。</p> <p>実際の緩和医療の現場で活躍する理学療法士・作業療法士を講師に迎え、リハビリテーションの視点から、緩和医療・終末期医療の歴史と現状、ホスピス医療の実際について学習する。</p> <p>また、緩和医療における理学療法介入の技術を学習する。さらに、地域リハビリテーションにおける緩和医療のかかわりを紹介する。</p>		
学 習 到 達 目 標	<p>緩和医療（ケア）の歴史と緩和医療（ケア）の基本的考えを理解する。</p> <p>緩和医療を取り巻くシステムと問題点を知る。</p> <p>緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。</p> <p>終末期における心理的問題と家族ケア遺族ケアの重要性を理解する。</p> <p>緩和ケアにおけるチーム医療の必要性和チームにおける多職種の役割や機能について理解する。</p> <p>リハビリテーション医療と緩和医療の接点について理解する。</p> <p>疼痛について理解する。</p> <p>理学療法介入の実際について知る。</p> <p>地域・在宅での緩和医療におけるリハビリテーション介入の実際を知る。</p>		
関 連 科 目	<p>関連し合う科目－生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、臨床心理学、リハビリテーション工学基礎、栄養学、カウンセリング、社会福祉・地域サービス論、リハビリテーション関連領域論</p> <p>この科目が基礎となる科目－理学療法管理学</p>		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	<p>出席・態度・レポート・その他 総合的に評価する。</p> <p>第一部、第二部それぞれ 50%のウエイトとする。</p>		
準 備 学 習 の 内 容	<p>生と死ということについて、各自考えておくこと。</p>		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	<第一部> 緩和医療学総論 (斎藤龍生)	緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に、がん患者さんが抱えている問題点を提示します。その中で、「末期がんの患者さんと如何に話すか?」、「患者さんが人間らしく生きるために何が出来るか?」について、一緒に考えていく講義を予定しています。患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し、基本的な技術を紹介いたします。
2	緩和医学各論 (小林 剛)	疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策
3	緩和医学各論 (小林 剛)	疼痛緩和 オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考えていく
4	緩和ケアの実際 ・疼痛緩和の看護 (大井寿美江)	疼痛マネジメントにおける看護の役割について 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく

回	講義題目	講義内容
5	緩和ケアの実際 ・他の症状緩和の看護 ・全人的苦痛の緩和 (大井寿美江)	他の症状マネジメントにおける看護の役割について 効果的な症状マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく 精神的苦痛と霊的苦痛（スピリチュアルペイン）のケアについて
6	緩和ケアの実際 ・家族ケア・遺族ケア (大井寿美江)	緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について
7	緩和的リハビリテーション 緩和医療における チームアプローチ (大井寿美江)	緩和ケア病棟における終末期患者のリハビリテーション 緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割と多職種の役割と機能
8	第一部のまとめ (大井寿美江)	もし、あなたが今、肺がんの末期と診断された場合、何をどう考えどのようにしたいですか。また、残された時間をどのように過ごしたいですか。(死生観)
9	<第二部> 悪性腫瘍のリハビリテーション (江口勝彦)	悪性腫瘍（ガン）のリハビリテーションについて 過去と現在を概観する
10	緩和医療とリハ総論 (白木美代子)	緩和医療（ケア）の歴史 リハビリテーションの理念と緩和医療の接点 ライフサイクルと終末期，生死学
11	緩和医療とリハ各論 1 (白木美代子)	疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤，除痛ラダー，鎮静について 心の苦痛 全人的苦痛の緩和 精神的苦痛と霊的苦痛（スピリチュアルペイン）について 緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について
12	緩和医療とリハ各論 2 (白木美代子)	終末期の理学療法介入の実際 死を目前にした人との会話について 緩和ケア病棟での事例（障害別）を提示し、理学療法の役割について考える 緩和ケアにおけるチーム医療
13	理学療法実技 (白木美代子)	体位排痰およびポジションング 呼吸介助 浮腫に対するリハマッサージ
14	緩和医療とリハ各論 3 (村山久美子)	ALS とコミュニケーションエイト
15	緩和医療とリハ各論 4 (村山久美子)	在宅における看取り  (レポート)

教科書	指定せず
参考書	<p>「臨床緩和ケア」大学病院の緩和ケアを考える会（青海社）  「緩和・ターミナルケア看護論」鈴木志津枝/内布敦子（ヌヴェール）  「がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年度版」（金原出版株式会社）  「がん性疼痛ケア完全ガイド」林 章敏/中村めぐみ/高橋美賀子（照林社）  「がんの症状緩和 ベストナーシング」田村恵子（学研）  「ターミナルケア 10 月増刊号わかる できる がんの症状マネジメント II」ターミナルケア編集委員会（三輪書店）  「家族看護 特集 終末期患者の家族への看護」野嶋佐由美/渡邊裕子（日本看護協会）  「家族看護 特集 遺族に対するケア」野嶋佐由美/渡邊裕子（日本看護協会）  「ナースのためのアロマセラピー」日本アロマセラピー学会看護研究会（MC メディカル出版）  辻 哲也，里宇明元，木村彰男：癌のリハビリテーション，金原出版  砂原茂一：リハビリテーション（岩波新書），岩波書店。  Elisabeth Kubler-Ross：死ぬ瞬間-死とその過程について（中公文庫），中央公論新社。  石飛 幸三：「平穏死」のすすめ 口から食べられなくなったらどうしますか，講談社  安部能成：癌緩和ケアに活かすリハビリテーション・アプローチ（臨床看護 2010 年 3 月増刊号），ヘルス出版  聖路加国際病院看護部緩和ケア検討会症状マネジメントグループ：がん疼痛マネジメントマニュアル，医学書院</p>

授 業 科 目 名	カ ウ ン セ リ ン グ	単 位 認 定 者	森 慶 輔
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	主に講義による	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	身体障害者や慢性疾患患者に関わるに当たっての心理的問題について理解するとともに、その心理的問題を解決するために医療スタッフや家族が行うべきことについて理解を深める		
学 習 到 達 目 標	リハビリテーション医療の心理的問題についての知識を深め、医療スタッフや家族が行うべき「ケア」について知識や技術を習得することを目標とする		
関 連 科 目	すべての科目と関連		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業への参加態度と発表内容（おおむね 50%）、課題レポート（おおむね 50%）を総合的に評価する		
準 備 学 習 の 内 容	グループ単位での発表を行うため、事前に発表用資料を準備しておくこと（配付資料およびパワーポイント）		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス	ガイダンス
2	リハビリテーション医療における心理的問題	リハビリテーション過程における心理的問題について理解を深める
3	障害受容 1	障害受容について、全般的な理解を深める
4	障害受容 2	障害受容について、患者の手記から考える
5	障害受容 3	障害受容について、さまざまな学説から考える
6	脳卒中患者の心理とケア	脳卒中に伴う精神症状と患者のケアについて理解を深める
7	脊椎損傷患者の心理とケア	脊椎損傷患者の心理状態とその対応について理解を深める
8	切断者の心理とケア	肢体の切断における精神症状と患者のケアについて理解を深める
9	頭部外傷患者の心理とケア	頭部外傷に伴う認知障害と問題行動について理解を深める
10	慢性疼痛患者の心理とケア	慢性疼痛のリハビリテーションについて理解を深める
11	小児疾患の心理とケア	小児疾患におけるリハビリテーションの特徴について理解を深める
12	認知症を伴うリハビリテーション患者の心理とケア	認知症を伴うリハビリテーション患者と介護家族のケアについて理解を深める
13	障害者家族への関わり	障害者家族への関わりについて理解を深める
14	理学療法における心理的問題	理学療法における心理的問題について理解を深める
15	まとめ	まとめ

教 科 書	渡辺俊之・本田哲三（編集）「リハビリテーション患者の心理とケア」医学書院，2000年
参 考 書	適宜講義内で紹介する

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	単 位 認 定 者	松 澤 正
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日：12:10-13:00 (場所：研究室)
科 目 の 目 的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。		
学 習 到 達 目 標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。		
関 連 科 目	理学療法概論 リハビリテーション医学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験やレポート等を総合して評価する。 試験 80%、授業態度 20%		
準 備 学 習 の 内 容	障害や福祉に関する用語を調べ学習しておく できれば障害や福祉施設でボランティア活動をする		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1		リハビリテーションの定義、理念、歴史
2		障害論
3		障害者の心理
4		リハビリテーションの構成
5		医学的リハビリテーション
6		チーム医療とリハビリテーション医療の進め方
7		地域リハビリテーション
8		リハビリテーションにおける評価学
9		治療学、症例
10		教育的リハビリテーション
11		職業的リハビリテーション
12		社会的リハビリテーション
13		社会的リハビリテーション
14		寝たきり老人のリハビリテーション
15		認知症のリハビリテーション

教 科 書	プリント教材を使用する。
参 考 書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）

授 業 科 目 名	リハビリテーション関連領域論	単 位 認 定 者	唐 澤 一 男
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	作業療法士・言語聴覚士・看護師の講師による各 4～5 回のオムニバス形式、講義中心。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	リハビリテーション医療はチーム医療であるといわれる。本講義においては、チームを構成する専門職の中から、作業療法、言語聴覚療法、看護についてその概要を学習する。すなわち作業療法士の業務内容、基本的な考え方、身体障害・精神保健・発達障害などの作業療法の対象領域とそれらに対する作業療法の評価・治療について、言語聴覚療法士の仕事・職場・職域、言語聴覚障害の種類とその原因、病態とそれらに対する評価・治療、看護の機能と役割、リハビリテーション看護の概念と目的、リハビリテーション看護の技術などについて学習し、さらにチーム医療について理解を深める。		
学 習 到 達 目 標	<p>到達目標 作業療法・言語聴覚療法・看護について理解し、チーム・アプローチの基礎を築く。</p> <p>行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法と作業療法士の役割について説明できる。</li> <li>2. 身体障害・老年期障害・発達障害・精神障害に対する作業療法の概要がいえる。</li> <li>3. 言語聴覚療法と言語聴覚療法士の役割について説明できる。</li> <li>4. 音声言語・文字言語・口腔機能障害に対する言語聴覚療法の概要がいえる。</li> <li>5. 看護と看護師の役割について説明できる。</li> <li>6. リハビリテーション看護の概要がいえる。</li> </ol>		
関 連 科 目	関連し合う科目ーリハビリテーション概論，理学療法概論，リハビリテーション医学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	各担当者が試験を実施し（各 3 分の 1）、その合計を 100 として評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	砂原 茂一：リハビリテーション。岩波新書 139，岩波書店。を各自購入し必ず読んでおくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	<作業療法> (唐澤一男) 作業療法とは 作業療法の歴史 作業療法場面 対象者の把握と治療手段	作業療法の定義（世界作業療法士連盟、米国作業療法士協会、日本作業療法士協会） 諸外国およびわが国の歴史をたどり作業療法と作業療法士の役割 作業療法の治療場面の紹介（VTR） 対象者の理解と作業療法の治療手段
2	作業療法の概要	身体障害に対する作業療法
3	作業療法の概要	老年期障害に対する作業療法
4	作業療法の概要	発達障害に対する作業療法
5	作業療法の概要	精神障害の作業療法
6	<言語聴覚療法> (谷 哲夫) 言語聴覚療法とは	言語障害の定義 嚥下障害の定義 言語療法の定義 言語聴覚士の役割 臨床場面の紹介（VTR）
7	言語療法の概要	失語症に対する言語療法
8	言語療法の概要	構音障害と嚥下障害に対する言語療法
9	言語療法の概要	高次脳機能障害に対する言語療法
10	リハビリを取り巻く環境	診療報酬制度，実習生の受け入れ問題，乱立する養成校，リハビリ職種の待遇など

回	講 義 題 目	講 義 内 容
11	<看護> (真砂涼子) 看護とは	看護の機能と役割 臨床看護の概念 看護職の働く分野
12	看護の概要	保健師助産師看護師法における看護業務の法的見解 看護業務の範囲の広がり 看護におけるリハビリテーションの考え方の変遷
13	リハビリテーション看護とは	リハビリテーション看護の概念と目的、対象 リハビリテーション看護師の役割と専門性
14	リハビリテーション看護の概要	リハビリテーション看護と発達段階、機能的健康パターン リハビリテーション看護の技術
15	リハビリテーションにおけるチーム医療	リハビリテーション看護の実際とチーム医療

教 科 書	特になし
参 考 書	砂原 茂一：リハビリテーション。岩波新書 139, 岩波書店。を各自購入し必ず読んでおくこと。 矢谷 令子：作業療法概論。協同医書出版 新体系看護学全書 別巻11 リハビリテーション看護 (メヂカルフレンド社) Nursing Collection 11 リハビリテーション看護 (学研)

授 業 科 目 名	臨 床 心 理 学	単 位 認 定 者	森 慶 輔
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	主に講義による	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する		
学 習 到 達 目 標	臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である。また、看護場面、治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法についても理解を深めることを目指す		
関 連 科 目	すべての科目と関連		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末試験（おおむね 50%）、課題レポート（おおむね 30%）と小テスト（おおむね 20%）を総合して評価する		
準 備 学 習 の 内 容	教科書の該当部分を読んでおく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス	ガイダンス
2	臨床心理学の基礎 1	人間の問題行動はどのように捉えられるのか、正常と異常の区別の観点から考える
3	臨床心理学の基礎 2	人間の発達を概観し、発達段階と疾病・障害の関係について理解する
4	臨床心理学の基礎 3	保健医療領域における問題行動について、主に転移・逆転移と防衛機制について理解する
5	臨床心理アセスメント 1	心理領域のアセスメントについて、その目的と方法を理解する
6	臨床心理アセスメント 2	日本で広く使われている個別式知能検査について理解するとともに、認知症のスクリーニング検査を体験する
7	臨床心理アセスメント 3	日本で広く使われている矢田部ギルフォード性格検査と CMI を体験し、心理テストによるアセスメントの長所短所を考える
8	臨床心理アセスメント 4	日本で広く使われている風景構成法（あるいはバウムテスト）を体験するとともに、箱庭の VTR を通して子どもの心理状態のアセスメントについて考える
9	心理（精神）療法 1	S, Freud の精神分析について、その基本的な考え方を理解する
10	心理（精神）療法 2	C, R, Rogers のクライエント中心療法について、その基本的な考え方を理解する
11	心理（精神）療法 3	行動療法について、その基本的な考え方を理解する
12	心理（精神）療法 4	認知行動療法について、その基本的な考え方を理解する
13	心理（精神）療法 5	家族療法／短期療法について、その基本的な考え方を理解する
14	リハビリテーションにおける心理的問題	リハビリテーションにおける心理的問題と障害受容について理解を深める
15	まとめ	授業のふりかえりを行う

教 科 書	山祐嗣・山口素子・小林知博 編著「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」北大路書房、2009 年 ※「心理学」で使用するものと同じものなので、既に持っている場合は購入の必要はありません
参 考 書	鎌田實「言葉で治療する」朝日新聞出版、2009 年 高橋和巳「心を知る技術」筑摩書房、1997 年（文庫版は 2000 年）

授 業 科 目 名	安 全 管 理	単 位 認 定 者	酒 井 美 絵 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義日の昼休み sakai@paz.ac.jp
科 目 の 目 的	医療の高度化に伴い、「危険」は増大している。理学療法士として医療に携わる前に、医療に関連した「危険」や「事故」についての知識を身につけ、回避できるようにする。		
学 習 到 達 目 標	1. 「人は誰でも間違える」事を理解できる。 2. 医療の中に潜む「危険」が理解できる。 3. ニアミスの分析をし、予防ができる。 4. 医療事故被害者の思いを想像できる。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	生理学、心理学等から人間の特性について学習しておく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	関係法規	日本国憲法、医療法、国民皆保険制度
2	法規と患者	法規は、患者にどのように影響を及ぼしているか
3	医療安全の歴史	本邦での医療安全はどのようにして立ち上がったか
4	日本と海外との比較	安全システムの比較
5	ヒューマンエラー	脳のしくみとエラー
6	ヒューマンエラー	ヒューマンエラーの事例検討
7	医療事故事例	重大な医療事故の紹介
8	医療事故被害者の思い	医療事故被害者の手記の紹介、訴訟の動向と事例
9	医療訴訟	模擬裁判演習
10	コミュニケーション	病院で使われる言葉と患者・家族の理解
11	医療コンフリクトマネジメント	医療者と患者・家族がお互いを理解しあう方法を探す
12	安全文化	組織の安全文化、個人の習慣
13	リハビリを求める人々	理学療法士に一縷の望みを託す人々、理学療法士が提供する安全
14	感染防止	手洗いの演習
15	まとめ	

教 科 書	未定
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	生 体 計 測 工 学	単 位 認 定 者	目 黒 力
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	医療の現場や基礎医学の授業・実習で使われるヒトの機能や形態を計測する機器の基本的な原理や使用方法を理解するために、対象から客観的な情報を抽出するために必要な基準と手法、代表的な人間の身体に関する物理量を取り上げ、これら諸量の生理学的意義と計測の目的、計測法の原理などについて学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	計測はどのように自然を客観的に記述するかを考える基礎的な作業であり、事実仮説を検証するための定量的表現を与える作業である。本講ではまず計測工学の一般的事項として、すべての計測の基礎となる国際単位系（SI）の定義から出発し、真の値、計測標準、誤差と精度、測定値の不確かさなどの概念を理解する。次に、人間を対象とした計測技術の特殊性をその収集方法・強度・精度・S/N比・再現性・個体差など種々の点から理解する。続いて代表的な人間の身体に関する物理量を取り上げ、これら諸量の生理学的意義と計測の目的、計測法の原理などについて体系的に理解する。		
関 連 科 目	運動学 運動学実習 リハビリテーション工学 臨床動作分析学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験（80％）レポート（10％）学習態度（10％）		
準 備 学 習 の 内 容	テキストの事前学習が望ましい		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1		基礎知識編
2		測るとは
3		身体の構造と機能
4		電気生理学的測定器の基礎
5		身体の高さと動きを測る
6		反応を測る（反応時間）
7		心臓・血管系の働きを測る
8		目の働き・反応を測る
9		脳の働き・反応を測る
10		筋肉の活動を測る
11		体温・疲労を測る
12		性格・知能を測る
13		官能検査
14		環境を測る
15		まとめ

教 科 書	初学者のための生体機能の測り方 第二版 日本出版サービス
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	医 療 統 計 学	単 位 認 定 者	木 村 朗
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火 or 水 12:10~12:50(木村研究室)
科 目 の 目 的	医療・保健の現場に必要な判断を導くためにデータを活用する力の基礎を養うことが求められる。この基礎力とは個人毎の情報だけでは明らかにならない現象に対して集団の統計・推計・確率を利用することで原因となる要因を推定しうる能力である。この力を発展させ、根拠のある医療 (EBM) の基本的実践に資する統計学的な考え方を追求しながら、コンピューターを使用して実際に自らデータを操作して得る結果のプロセスが理解することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	医療統計の実践的課題について統計ソフトウェアを利用して、複雑な手続きを経ずとも正しく統計解析の遂行と解釈ができるリテラシー(実際のソフトウェアの操作能力と概念を用いる能力)の獲得		
関 連 科 目	情報処理Ⅰ・情報処理Ⅱ、生活の中の数学、公衆衛生学、理学療法研究論、卒業研究		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席・授業態度 50%・課題遂行能力テスト 50%		
準 備 学 習 の 内 容	Web 上の kimuakilabo.main.jp に掲示された課題の確認 (第 2 回から第 3 回)、基本的なコンピューターリテラシーとして PC および統計ソフトの操作 (第 2 回から第 4 回)、データセットの作り方・事前課題 (第 5 回から第 10 回)、事前課題の閲覧 (第 11 回から 15 回)、見慣れない用語を調べ、当日の課題をノートを用意し、記入しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	医療統計のあらまし	日常生活と医療における統計を基に確率と統計を考える (次回の事前学習用課題呈示)
2	確率と統計 統計ソフト R	統計ソフト R とデータコーダーRG による、データセッティング
3	データの性質と医療	医療・保健におけるデータの見方・加工の仕方 Web テスト
4	医療データと代表値	医療・リハビリテーションで頻出のデータの特徴 Web テスト
5	探索的統計と要約	統計学の基礎 (次回の事前学習用課題呈示) Web テスト
6	ヒストグラム	基礎的統計学とグラフの活用 Web テスト
7	t 分布と医療データ	R を用いた平均値の解析 Web テスト
8	f 分布と医療データ	R を用いた分散の解析 Web テスト
9	カイニ乗分布	R を用いたカテゴリーデータの解析 Web テスト
10	相関係数と回帰式	R および表計算ソフトを用いた相関係数と回帰式の解析 Web テスト Web テスト
11	オッズ比	PECO で用いられる分析手法の経験 Web テスト
12	因子分析	EBM に必要な研究デザインと解釈 Web テスト
13	横断研究とコホート	保健事象に有用な解析方法の経験 Web テスト
14	生存分析	医療研究でよく用いられる統計手法の実際 Web テスト
15	臨床研究で用いられる統計手法	感度・特異度 Web テスト

教 科 書	Web 上 kimuakilabo.main.jp で示すコンテンツ
参 考 書	データ分析 はじめの 1 歩 (清水 誠) ブルーボックス// 各自ノート PC 持参

授 業 科 目 名	リハビリテーション工学	単 位 認 定 者	目 黒 力
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	リハビリテーション工学とは、工学的手法をリハビリテーションに応用するものであり、その応用範囲はとても広く、リハビリテーションの評価、治療、装具、生活支援など様々なものに応用されている。本科目では、この中でも、身体機能の評価に用いられる工学的手法について扱う。近年、これらは看護学においても多く利用されるようになってきている。将来セラピスト・看護師として、これらの手法を利用できるようにすることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	障害者に対する工学からのアプローチを理解し、その概要を理解する。		
関 連 科 目	運動学 生活環境学 日常生活活動学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート (100%)		
準 備 学 習 の 内 容	シラバスに沿って予習すること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	福祉機器概論とは	歴史、定義、関連領域との関わり、開発
2	工学的基礎	工学とは、とらえ方、考え方
3	姿勢保持装置	シーティング概要
4	車いす	最新車いす事情と解析手法
5	昇降装置・リフト	ホームエレベーターなど
6	福祉車両	メーカーの取り組み、トピックス
7	視覚・聴覚障害者に対する福祉機器	音声案内システム、白杖等
8		
9	コミュニケーション	トーキングエイドなど
10	環境制御装置	在宅障害者を含むベッド周辺の福祉機器
11	ハウスアダプテーション	住宅の改造とその手法
12		
13	自助具	パーソナルコンピュータ、インターネット
14	ネットワークとPC	
15		まとめ

教 科 書	特になし
参 考 書	リハビリテーション工学と福祉機器 (リハビリテーションMOOK) 金原出版

授 業 科 目 名	理 学 療 法 概 論	単 位 認 定 者	木 村 朗
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義 14 コマ・学外実習 (施設見学) 1 コマ (木村・高橋で行う)	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火 or 水 12:10~12:50 (木村研究室)
科 目 の 目 的	「理学療法とは何か」について理学療法の定義、目的、歴史、対象や業務、職域など概説し、理学療法の全体像を理解することを目的とする。理学療法士に必要な知識・技術・態度を自ら考えられるようになることを目指し、講義への参加をジャーナルとしてまとめ自身の振り返りを行う。またグループワークや障害体験、理学療法体験など演習、施設見学を取り入れて理解を深める。		
学 習 到 達 目 標	1. 理学療法の定義、対象、業務、歴史、保健医療福祉と社会的役割の点から理学療法を説明できる。 2. 理学療法技術の構成要素が言える。 3. 今後の学習に必要な学習内容を説明できる。 4. グループワークの中で自分の役割を果たし、かつ意見交換の記録を報告することができる。		
関 連 科 目	リハビリテーション概論、理学療法評価学、基礎理学療法学、日常生活活動学ほか		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	ジャーナル (毎回の講義の振り返り) の提出 (約 50%)、出席状況や演習参加態度 (約 50%) など加味して評価する		
準 備 学 習 の 内 容	各講義題目内容に対し、教科書・参考書の該当部分を読み、理解しづらい単語や概念をノートに記載し、調べておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション・イントロ	講義概要の説明・理学療法を知ったきっかけを話題としたグループワーク (GW)
2	理学療法とは 1	「理学療法・士とは何か」理学療法の定義と歴史、ルーツの解説 「治らないものを治すとは？」 理学療法の役割と職域、「理学療法に求められていることは何か」身近な話題から GW 理学療法の対象の理解・身体の不自由な人は、どのように社会と歴史を生きてきたか (小説やドキュメンタリー、映画から感じる障害と考える障害を知る) 「障害とは」 (社会の中の理学療法、リハビリテーションの中での理学療法の位置づけ) 各種理学療法技術の歴史・理学療法を作ってきた人々1・世界の理学療法 1 GW 理学療法を作ってきた人々2・世界の理学療法 2 GW 関連職種の法律と理学療法士法 (医師法・保助看法・理学療法士及び作業療法士法)・公衆衛生と理学療法 理学療法の実際 (関連施設、学内の理学療法士と語る) 理学療法士に求められる倫理観 (劇画「リアル」) を基に語る GW 果たして理学療法は進歩しているのか? これまでの学びと、資料を収集しディスカッションを行う。 「対象者・理学療法士・社会にとって理想の理学療法とは何か」を感じて考える 施設見学 別日程 (後日掲示) で実施 施設見学を通して感じたこと、考えたことをイントロで考えたことと比べ、報告発表する 1 施設見学を通して感じたこと、考えたことをイントロで考えたことと比べて、報告発表する 2
3	理学療法とは 2	
4	理学療法とは 3	
5	理学療法とは 4	
6	理学療法と社会の関わり	
7	理学療法技術の歩み 1	
8	理学療法技術の歩み 2	
9	理学療法と法律	
10	理学療法と管理・チームワーク	
11	理学療法士の倫理 1	
12	理学療法の進歩と学問的展開	
13	理学療法の実際を知る	
14	理学療法の実際から考える 1	
15	理学療法の実際から考える 2	

教 科 書	「理学療法概論 第 5 版」奈良 勲 (医歯薬出版株式会社)
参 考 書	「理学療法のルーツ」武富良雄 (メディカルプレス)

授 業 科 目 名	基 礎 理 学 療 法 学	単 位 認 定 者	江 口 勝 彦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・プレゼン・グループ演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	毎週水曜日 12:10-12:30
科 目 の 目 的	<p>本講座の目的は、理学療法の基盤を理解し、理学療法専門科目を学ぶための準備状態を確立することである。</p> <p>キャリア教育の一環として、キャリアデザインについて概説し、身近な理学療法士のキャリアについて学ぶことを通し、自信の今後の方向性を探る。</p>		
学 習 到 達 目 標	<p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>本講座の到達目標は、理学療法の基盤を理解し、理学療法専門科目を学ぶための準備状態を確立させることである。理学療法の対象領域・障害構造・基本的用語ならびに専門用語の調べ方などについて教授する。</p> <p>さらに、学生にとって最も身近な理学療法士である学科教員を学習対象に据え、今までのキャリアや研究テーマなどに関してグループ学習する過程を持ち、さらにその後、当該教員から直接初学者にも理解出来るような解説をいただき、理学療法の基礎を理解するとともに、理学療法士の職業意義の考察、自らの将来像、自己理想のイメージングを促し、動機づけと目的意識を形成する。</p> <p>&lt;行動目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法が対象とする領域について、「運動」を中心に説明できる。</li> <li>2. 障害過程・障害構造について、Nagi のモデルを使い、説明できる。</li> <li>3. 基本的用語の理解と、専門用語の確認方法を修得する。</li> <li>4. 学科教員のキャリアと研究に触れ、理学療法について多角的に理解する。</li> <li>5. レポート作成方法について学び、実際に作成してみる。</li> </ol> <p>* * ほぼ、毎講義開始時（あるいは最後）に、前回講義の理解度を確認するためにミニクイズを実施する。平均点数で60%を下回る学生については、コース最終時に、再度試験を行う。平均60%以上の点数を取った学生については、成績評価方法にあるように「定期試験」は行わない。</p>		
関 連 科 目	<p>関連し合う科目-理学療法概論，リハビリテーション概論</p> <p>この科目が基礎となる科目-専門基礎科目群，専門科目群</p>		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	<p>知識レベルの評価は、基本的にはミニクイズにより行う。ミニクイズ未受験（遅刻欠席など）は0点として扱う。これ以外は単位認定のための試験は行わない。（ミニクイズで60%以下の成績のものは、この限りではない）</p> <p>ターミノロジーでは、課題提出に遅れないこと（期限内に提出できない場合は減点対象）</p> <p>課題提出、自己学習、グループ学習、教員訪問、レポートなどにより総合的に評価する。</p> <p>ミニクイズは実施回数の2/3以上の提出が無い場合は、単位を認めない。ミニクイズで60%以下の成績のものは、まとめとして筆記試験により知識レベルの評価を行う。80%以上を合格ラインとする。成績は、ターミノロジーおよびミニクイズ75%、グループ演習25%とする。</p>		
準 備 学 習 の 内 容	提示された範囲の予習とミニクイズの為の復習（毎回指示）		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	コースオリエンテーション	オリエンテーション
2	総論1	理学療法の対象領域
2	総論2	ミニクイズ
3	ターミノロジー1	障害構造・障害過程と理学療法，リハビリテーション
～	～	ミニクイズ
7	ターミノロジー5	ターミノロジーA to Z
8	レポート作成方法	レポート作成方法
9	演習	教員研究（講義／演習／教員インタビュー）
～	～	～
15		レポート作成演習／提出
		筆記試験（該当者のみ）

教 科 書	<p>医学書院 医学大辞典、医学書院。</p> <p>奈良 勲（編著）：理学療法概論。医歯薬出版</p> <p>奈良 勲（監修）内山靖（編）：理学療法学事典、医学書院</p>
参 考 書	<p>服部一郎，他：リハビリテーション技術全書第2版，医学書院</p> <p>上田 敏：目でみるリハビリテーション医学，東京大学出版</p>

授 業 科 目 名	理 学 療 法 セ ミ ナ ー	単 位 認 定 者	鈴 木 学
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	演習と実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水曜日 12:30~13:00
科 目 の 目 的	各学生が評価実習で学んだ理学療法評価技術から問題点の抽出、プログラム立案までの一連の過程をグループワークを通して統合することを目的とする。また、総合臨床実習にむけた学習準備状態の確立を目指す。		
学 習 到 達 目 標	グループワークを通して設定された模擬患者を対象とした系統的な理学療法過程を検討し、理解することができる。 各疾患に対する適切な理学療法評価の選択ができる。 視聴覚教材を用いた動作分析ができる。 理学療法評価を基に必要な理学療法プログラムの立案ができる。 臨床の現場で状況に応じた行動がとれるようにする。		
関 連 科 目	理学療法評価学演習、臨床推論演習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	平常点 100%		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション、評価実習の反省  グループワークを中心とする。 症例発表 評価学実習で学んだ知識・技術の共有と統合 模擬患者を対象とした系統的理学療法過程の学習、etc.
2	グループ学習	
3	グループ学習	
4	グループ学習	
5	グループ学習	
6	グループ学習	
7	グループ学習	
8	グループ学習	
9	グループ学習	
10	グループ学習	
11	グループ学習	
12	グループ学習	
13	グループ学習	
14	グループ学習	
15	グループ学習	

教 科 書	使用せず
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	理 学 療 法 特 論	単 位 認 定 者	目 黒 力
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	グループワークと講義を中心に行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	専門基礎科目、専門科目において習得した既存知識を総復習し、臨床実践に向けた学習準備状態の確立を目指す。		
学 習 到 達 目 標	グループワークなどを通して、専門基礎科目・専門科目で習得した基礎知識を広く理解することができる。さらには臨床実践に対応できるように、基礎知識を応用的に活用することができる。		
関 連 科 目	理学療法セミナー、各専門基礎科目、各専門科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	グループワーク活動状況 70%、記述試験 30%		
準 備 学 習 の 内 容	四年間の集大成としてテキストを熟読すること		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	理学療法特論 1	解剖生理運動学
2	理学療法特論 2	
3	理学療法特論 3	基礎・臨床医学
4	理学療法特論 4	
5	理学療法特論 5	基礎理学療法学
6	理学療法特論 6	
7	理学療法特論 7	理学療法評価学
8	理学療法特論 8	理学療法治療学
9	グループワーク	解剖生理運動学
10	グループワーク	基礎・臨床医学
11	グループワーク	基礎理学療法学
12	グループワーク	
13	グループワーク	理学療法評価学
14	グループワーク	理学療法治療学
15	まとめ	

教 科 書	理学療法士・作業療法士 間違いだらけの国家試験対策勉強術
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	臨 床 推 論 演 習	単 位 認 定 者	鈴 木 学
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	グループ学習、実技	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水曜日 12:30~13:00
科 目 の 目 的	病院や施設などでエビデンスに基づいた症例の情報の分析や臨床推論を実施および状況に即した行動ができるようにする		
学 習 到 達 目 標	<p>模擬症例の情報から重要な事実を抽出できる。          事実からの確かな問題点を想定できる。          問題点に対して仮説の設定および修正ができる。          自己学習の方法、文献検索、プレゼンテーションができる。          チーム医療に必要なコミュニケーションができる。          シナリオの情報を基に総合的な問題点抽出、ゴール設定、治療プログラム立案ができる。          臨床推論に基づいた評価実技の克服</p>		
関 連 科 目	運動学、臨床運動学、臨床神経学、理学療法評価学、理学療法評価学演習、臨床動作分析学、神経系理学療法評価・治療学演習Ⅰ、神経系理学療法評価・治療学演習Ⅱ、装具学、地域理学療法学、評価学実習、理学療法セミナー、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	平常点 100%		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	<p>臨床推論とは、PBLによる推論の必要性と手順、グループ編成</p> <p>各グループ単位でPBLチュートリアル方式により模擬症例のシナリオの事実から問題点を抽出、仮説の設定をしていく過程でシナリオの問題をまとめながら最終的に臨床推論としてゴール設定や治療などについてをまとめる</p> <p>各グループにはチューターを配属予定（鈴木、蛭間、加藤、仲保、黒川）</p> <p>各グループの臨床推論の発表            各グループの臨床推論の発表、反省会            OSCEによる実技演習</p>
2	グループ演習	
3	グループ演習	
4	グループ演習	
5	グループ演習	
6	グループ演習	
7	グループ演習	
8	グループ演習	
9	グループ演習	
10	グループ演習	
11	グループ演習	
12	グループ演習	
13	臨床推論発表	
14	臨床推論発表	
15	実習前実技演習	

教 科 書	臨床推論の初回講義用資料を配付
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	理 学 療 法 研 究 論	単 位 認 定 者	木 村 朗
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火 or 水 12:10~12:50(木村研究室)
科 目 の 目 的	理学療法の治療は、日進月歩進んでいるが、そのような進歩は、絶え間ない基礎研究や臨床研究によるものである。また、理学療法の技術開発を指向し、学問体系を作るためにも、毎日の研究が必要である。また臨床判断の基礎となる知見を集積が疫学研究のプロセスを必要としていることを学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	理学療法が対象とする病気・障害を扱う臨床・疫学研究で表される情報の基本的読解力を身につける。学内や臨床の場で、興味のある基礎研究、臨床研究、調査研究等の計画を立案するための基本的知識と情報機器の操作スキルを身につける。実験および調査研究手法の基礎を習得させることを目標とする。		
関 連 科 目	運動学、臨床運動学、臨床心理学、理学療法概論、基礎理学療法学、理学療法評価学、各系理学療法学、物理療法学、日常生活活動学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	課題レポート、発表報告（約 50%）、授業参加度等（約 50%）を総合して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	各回の講義内容部分について、新しく目にした単語・概念・計算式等について、教科書および Web 上で可能な限り調べ、ノートを準備の上、確認しておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーションと研究とは	授業日程、理学療法の研究の必要性
2	研究方法論	現在の理学療法・士における研究の意義 「研究は誰のために行うのか」理学療法の歴史と研究対象・研究の種類・研究の流れ 創造性と独創性（文献調査・社会調査・実験計画・臨床疫学-1）
3	研究と倫理	医療と倫理 研究と倫理 ヘルシンキ宣言
4	論理学	推論・判断と論理学の基礎
5	研究読解のための情報収集 1	文献の読み方（文献調査・社会調査・実験計画・臨床疫学-2）
6	研究読解のための情報収集 2	文献の探し方（実習）
7	研究デザインと統計手法 1	PECO の考え方と、実験・介入研究の読解法、バイアス、交絡要因
8	研究デザインと統計手法 2	代表値の差の検定を必要とする研究デザイン
9	研究デザインと統計手法 3	代表値の比率・要因の効果の検定を必要とする研究デザイン
10	研究デザインと統計手法 4	代表値の度数の検定を必要とする研究デザイン
11	理学療法研究の実際	研究の実際（理学療法プロパー教員の研究等の紹介）
12	理学療法研究課題 基礎演習 1	演習 1 既存研究論文の PECO に基づく読解デモンストレーション
13	理学療法研究課題 基礎演習 2	演習 2 既存研究論文の再掲示(パワーポイントによる紹介)発表 1
14	理学療法研究課題 基礎演習 3	演習 3 既存研究論文の再掲示(パワーポイントによる紹介)発表 2
15	理学療法研究課題 基礎演習 4	演習 4 既存研究論文の再掲示(パワーポイントによる紹介)発表 3

教 科 書	はじめての研究法 神陵文庫 医療系研究論文の読み方・まとめ方 東京図書
参 考 書	エクセル活用コメディカル統計テキスト, 宮城重二著, 医歯薬出版（東京図書） <a href="http://www.kimuakilabo.main.jp">www.kimuakilabo.main.jp</a> (Web)

授 業 科 目 名	理 学 療 法 管 理 学	単 位 認 定 者	江 口 勝 彦
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7.5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	毎週水曜日 12:10-12:30
科 目 の 目 的	理学療法の質の保証、および適切な理学療法提供システムを理解するために、効率的な財政的・物質的・人的資源確保について、計画・組織および運用方法に関し医療機関内理学療法、施設内理学療法、および地域理学療法それぞれにおけるマネジメントについて学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	<p>&lt;到達目標&gt; 実際の理学療法業務における人的管理、リスク管理、情報管理、財政的・物質的管理について理解する。</p> <p>&lt;行動目標&gt; 1. 理学療法に必要な管理について説明できる。 2. 自身のキャリア形成と人を育てる臨床教育の側面から人的管理について理解する。 3. 健康保険診療のルールに沿って、リスク管理、情報管理などの業務管理について理解する。 4. 臨床実習指導者として、臨床教育に関わる心構えを身につける。 5. 人間関係力について理解する。 6. 実際の管理について知る。</p>		
関 連 科 目	関連し合う科目-理学療法概論，リハビリテーション概論，臨床実習科目 この科目が基礎となる科目-		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	すべての講義に出席すること。欠席（一回-10点）態度，姿勢により減点する。 レポートを課す。100点。		
準 備 学 習 の 内 容	理学療法士の業務全体について理解しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	コース オリエンテーション 理学療法管理とは	オリエンテーション 「する管理とされる管理」「業務管理」「自己管理」「人事管理」「物品管理」「情報管理」「リスク管理」などなど。理学療法の管理とは
2	業務管理/自己管理/人事管理	保険診療とルール。自己管理とキャリアデザイン。人を育てる。
3	情報管理/物品管理/リスク管理	個人情報と守秘義務。安全と物品の管理。リスク管理とは。
4	医療機関でのマネジメント1	上手な診療録の書き方
5	医療機関でのマネジメント2	施設間の連携：病院-施設間連絡票と情報の共有
6	臨床実習教育方法論	理学療法教育論と臨床実習教育方法論～より良い臨床実習を目指して～
7	人間関係論	職場に於ける人間関係（スタッフ間の人間関係，患者・家族との人間関係） フォーマルとインフォーマル。人間関係力など。 グループ演習を含む
8	理学療法管理の実際	臨床に於ける管理の実際 パネルディスカッション「テーマは別途掲示予定」 司会：江口勝彦 パネラー2～3名

教 科 書	別途指示
参 考 書	奈良勲：理学療法概論。医歯薬出版。 細田多穂，半田健壽，中山彰一，他編：理学療法士プロフェッショナルガイド。文江堂。 日本理学療法士協会：理学療法白書。

授 業 科 目 名	卒 業 研 究	単 位 認 定 者	木 村 朗
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	演 習 (理学療法学科 PR、基礎医学担当教員が行う)	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火 or 水 12:10~12:50(木村研究室)
科 目 の 目 的	本科目は生涯に亘り、問題解決能力の向上を目指す意志と態度を養うために、理学療法と保健科学関連学問領域に及ぶ課題の設定、研究立案、論文作成等一連の取り組みを通して、学生自ら主体的に探究し、併せて理学療法研究に資する高い読解力を身につけさせることを目的としている。専門科目担当教員の指導の下、研究テーマを定める。具体的には、研究の必要性の理解、研究課題の設定、文献検索、研究テーマの選択、研究方法の選択、倫理的配慮、研究計画書の作成、データの収集・処理・考察、研究発表を経て、論文作成を行う。		
学 習 到 達 目 標	各指導教員の下、自分の選定したテーマに従い研究計画を立案・実践し、その成果について論文にする。		
関 連 科 目	それまで学習した科目のすべてと関連する。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	学習過程を鑑み、論文により評価する (100%)。		
準 備 学 習 の 内 容	各自、研究課題を遂行するにあたり、必要な知識を整理し、文献等の収集、実験機器、スケジュールを見積もること、研究遂行ノートを準備すること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	卒業研究ゼミナールにより指導	各指導教員の研究室に配属し、ゼミ単位で行動する。

教 科 書	特に選定しない
参 考 書	これまで学習で使用した教科書を参考にする。

授 業 科 目 名	理 学 療 法 評 価 学	単 位 認 定 者	蛭 間 基 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義及び演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火曜日 12:10~13:00
科 目 の 目 的	(1)理学療法評価の意義, 目的, 評価の過程を知ること. (2)基本的事項である情報収集, 問診, 記録と形態計測および関節可動域測定 of 知識と技術を習得すること.		
学 習 到 達 目 標	理学療法評価の意義, 目的及びその過程が言及できる. 情報収集, 問診の必要項目を列挙できる. 記録方法を言及できる. 評価時に理学療法士が配慮すべき点を列挙できる. 学生同士で形態計測及び関節可動域測定を実施できる.		
関 連 科 目	解剖学 I・II, 運動学 I・II, 理学療法概論, 表面解剖学と触診法, 理学療法評価学演習, 運動器系理学療法評価・治療学, 神経系理学療法評価・治療学, 呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学, 見学実習, 評価学実習, 総合臨床実習 I, 総合臨床実習 II		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(8割)及び実技試験(1割), 中間試験(1割)とともに学習態度, 演習時の出席状況などを総合的に判断する. 筆記試験を成績判定の基礎とするが, そのためには実技試験の合格が前提となる.		
準 備 学 習 の 内 容	身体 of ランドマーク, 関節可動域測定 of 基本軸, 移動軸, 参考可動域を演習実施までに全て覚えること. 各演習の前には必ず実技の予習を行うこと.		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2	総論 1	講義の概要・ガイダンス 評価の意義・目的 評価の対象, 評価の内容, 評価の過程 評価の時期と目的
3 4	総論 2	評価環境・評価器具・評価時の注意点 情報収集(医学的情報・社会的情報) 病歴のとり方, 面接, 問診, 観察
5	各論 1	形態計測(1)講義: 形態計測総論
6	各論 2	形態計測(2)講義: 四肢長と周径
7	各論 3	形態計測(3)演習: 四肢長
8	各論 4	形態計測(4)演習: 周径
9	各論 5	関節可動域測定(1)講義: 測定 of 基本
10	各論 6	関節可動域測定(2)講義: 具体的測定方法
11	試験	中間試験
12	各論 7	関節可動域測定(3)演習: 上肢
13	各論 8	関節可動域測定(4)演習: 下肢
14	各論 9	関節可動域測定(5)演習: 頸部, 胸腰部
15	まとめ	まとめ  実技試験: 形態計測及び関節可動域測定

教 科 書	「理学療法評価学改訂第 4 版」松澤 正著 (金原出版株式会社)
参 考 書	「PT・OT のための測定評価 DVD series1 ROM 測定」, 「PT・OT のための測定評価 DVD series2 形態測定・反射検査」福田 修監修 (三輪書店) その他: 講義にて随時紹介する.

授 業 科 目 名	理 学 療 法 評 価 学 演 習	単 位 認 定 者	蛭 間 基 夫
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義及び演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月曜日 12:10~13:00
科 目 の 目 的	解剖学・運動学で学んだ知識を再確認しながら、筋力検査の方法について理論と技術を学ぶ。評価技術の基本となる筋力検査として徒手筋力検査(MMT)を中心に学習し、1年時に学習した基本的な検査・測定技術を再確認し、確実に習得することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 理学療法の記録や患者オリエンテーションの内容を臨床的に適切な言動や態度で説明できる。 2. 筋力検査の目的・意義・代表的な測定方法を説明できる。 3. MMTを実施できる(注意点や代償運動を説明できることを含む)。 4. 形態測定・関節可動域測定・筋力測定を他者に実施できる。		
関 連 科 目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰ・Ⅱ、理学療法概論、表面解剖学と触診法、理学療法評価学演習、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、見学実習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(9割)及び実技試験(1割)とともに学習態度、演習時の出席状況などを総合的に判断する。筆記試験を成績判定の基礎とするが、そのためには実技試験の合格が前提となる。		
準 備 学 習 の 内 容	MMTの演習が始まるまでに作用する筋の起始、付着、神経支配、髄節を全て覚えること。各演習の前には必ず実技の予習を行うこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	総論 1	理学療法記録：理学療法診療記録・POS・報告書の書き方など 患者オリエンテーション：インフォームドコンセント・守秘義務・個人情報保護法など
2	総論 2	臨床で求められるセラピストとしての接遇
3		
4	総論 3	筋力測定概論(定義、目的、種類)
5		徒手筋力測定法(MMT)講義：目的・意義・抵抗・注意
6	演習 1	徒手筋力測定演習：肩関節
7	演習 2	徒手筋力測定演習：肘関節・前腕
8	演習 3	徒手筋力測定演習：手関節・手指
9	演習 4	徒手筋力測定演習：肩甲帯
10	試験	実技試験：ROM-T・MMT(上肢)
11	演習 5	徒手筋力測定演習：股関節
12	演習 6	徒手筋力測定演習：股関節・膝関節
13	演習 7	徒手筋力測定演習：足関節
14	演習 8	徒手筋力測定演習：頸部・体幹
15	まとめ	まとめ 実技試験：ROM-T・MMT(下肢、頸部・体幹)

教 科 書	「理学療法評価学改訂第4版」松澤 正著(金原出版株式会社) 「新・徒手筋力検査法 原著第8版」Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery 著, 津山直一・他訳(協同医書出版社)
参 考 書	「PT・OTのための測定評価 DVD series3 MMT-頭部・頸部・上肢」「PT・OTのための測定評価 DVD series4 MMT-体幹・下肢」福田 修監修(三輪書店) その他：講義にて随時紹介する。

授 業 科 目 名	臨 床 動 作 分 析 学	単 位 認 定 者	高 橋 正 明
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火曜日 5 限
科 目 の 目 的	理学療法士が運動障害を評価する上で動作や姿勢を観察により分析し、その原因を仮説立てることおよび治療介入方法を示唆できることは重要である。整形疾患、中枢神経系疾患の基本動作を視聴覚教材、症例記録等を用い相互の意見交流や動作の模倣等により演習形式で授業を進め、より専門的な科目への基礎作りを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	前半：正常基本動作の分析 健康人の基本動作を観察により力学的に解釈し、説明できる。 後半：疾病により生じる異常な動作の特徴を症候学および力学的に説明できる。ビデオで示される代表的動作障害を持つ症例について動作分析し、介入方法が示唆できる。		
関 連 科 目	運動学Ⅰ，運動学Ⅱ，運動学実習、ADL実習、各疾患別理学療法科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	ビデオによる動作分析の試験で 60 点以上を合格とする。(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	正常動作は力のモーメント、異常動作は各疾患の特徴を教科書で予習しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	
2	正常動作 講義	動作理解のための力学的基礎 (仲保徹, 高橋正明)
3	正常動作 演習	正常基本動作の分析とは何か (仲保徹, 高橋正明)
4	正常動作 演習	椅子からの立ち上がり動作の分析 (仲保徹, 高橋正明)
5	正常動作 演習	座位動作、寝返りの分析 (仲保徹, 高橋正明)
6	異常動作	異常動作のとらえ方、正常要素と異常要素 異常動作の分類、陽性徴候と陰性徴候 (高橋正明, 仲保徹)
7	臨床動作分析の過程	動作パターンと動作の異常、無意識的要素の意識化 (高橋正明, 仲保徹)
8	疾患別動作障害	整形疾患の異常動作の特徴、末梢神経損傷、OA、他 (高橋正明, 仲保徹)
9	疾患別動作障害	筋ジストロフィー児の動作分析 (高橋正明, 仲保徹)
10	疾患別動作障害	片麻痺者のマット上動作の特徴と陽性徴候と陰性徴候の分析
11	疾患別動作障害	片麻痺者の歩行分析 (高橋正明, 仲保徹)
12	疾患別動作障害	脊髄損傷者のADL動作の分析 (高橋正明, 仲保徹)
13	疾患別動作障害	パーキンソン病、失調症の異常動作の特徴 (高橋正明, 仲保徹)
14	疾患別動作障害	脳性麻痺児、高齢者、義足による動作、他 (高橋正明, 仲保徹)
15	まとめ	まとめ (高橋正明, 仲保徹)

教 科 書	「臨床動作分析」 標準理学療法シリーズ 高橋正明編 (医学書院)
参 考 書	「基礎運動学」 中村隆一, 他 (医歯薬出版)

授 業 科 目 名	運 動 療 法 総 論	単 位 認 定 者	加 藤 仁 志
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義（一部演習と実技実習を含む） 15コマ	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み および 毎週木曜日 17:50～18:30
科 目 の 目 的	本講義では、運動療法を行う前提として知っておかなければならない基礎知識を理解することを目的とする。具体的学習内容としては運動療法の概念と基礎知識、運動の種類、基本的な運動療法、などを学習する。		
学 習 到 達 目 標	本講義の到達目標は、運動療法の基礎知識を整理・理解し、より専門的な理学療法治療学（運動器系・神経系・呼吸循環代謝系・徒手系・高齢者・スポーツ傷害の理学療法治療学）を学ぶための基礎的学習能力を確立させることである。		
関 連 科 目	専門基礎科目群：解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰ・Ⅱ、運動生理学 専門科目群：運動系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、徒手系理学療法学、スポーツ傷害理学療法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験（60%）に加え、小テスト（25%）・課題レポート（10%）・授業参加度（5%）などを加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	各回授業範囲の教科書内の専門用語の意味を事前に調べて理解しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	今後の講義予定
2	運動療法の概念	運動療法の歴史・定義・方法・今後の課題
3	運動療法の基礎	筋生理学、神経生理学の復習
4	〃	関節の構造と運動、関節運動の制限
5	〃	随意運動のメカニズム 1
6	〃	随意運動のメカニズム 2
7	〃	運動制御と運動学習
8	バイタルチェック	血圧、脈拍、呼吸数の測定
9	基本的な運動療法	全身調節運動、リラクゼーション
10	〃	関節可動域運動
11	〃	筋力増強運動
12	〃	持久力増強運動
13	〃	協調性運動
14	〃	バランスの獲得・改善
15	〃	基本動作練習

教 科 書	「標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論」 吉尾雅春 編集（医学書院） 「運動療法学」 柳澤健 編集（金原出版） 「基礎運動学」 中村隆一、齋藤宏、長崎浩 著（医歯薬出版）
参 考 書	「理学療法 ゴールド・マスター・テキスト 2 運動療法学」 柳澤健 編（メジカルビュー社） 「理学療法Ⅲ 運動療法Ⅰ」 千住秀彰 監修 河元岩男、溝田勝彦 編集（神陵文庫）

授 業 科 目 名	運動器系理学療法評価・治療学	単 位 認 定 者	城 下 貴 司
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日：12：00～13：00
科 目 の 目 的	1. 理学療法の対象となる障害のうち、最も多くの割合を占める運動器系(骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織)疾患の概念を理解する 2. 運動器疾患の概念を理解する		
学 習 到 達 目 標	各疾患別を学ぶため基礎知識の獲得		
関 連 科 目	解剖学，生理学，運動学，基礎理学療法学， 運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ、運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	中間テスト(2回)：30%、定期試験：40%、授業態度その他：30%にて総合評価する		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	科目の概要・講義スケジュール
2	整形外科疾患評価法	整形外科疾患とその評価法
3		
4	痛みとその評価	整形外科的痛みとその評価
5	骨折	骨折の運動療法：総論
6	靭帯損傷、腱断裂	骨折の運動療法：総論 靭帯損傷、腱断裂の運動療法：総論
7	中間テスト	
8	関節リュウマチ	関節リュウマチの運動療法：総論
9	末梢神経損傷；	末梢神経損傷；
10		胸郭出口症候群、肘部管症候群、 手根管症候群等 知覚異常大腿痛 梨状筋症候群、足根管症候群等
11	中間テスト	
12	脊髄損傷	脊髄損傷：総論
13		脊髄損傷の評価
14		脊髄損傷の治療
15	まとめ	

教 科 書	中村 利孝：標準整形外科学，医学書院 島田洋一、高橋仁美：術後理学療法プログラム メジカルビュー 奈良 勲（監修）：標準理学療法学 運動療法学 総論，医学書院 奈良 勲（監修）：標準理学療法学 運動療法学 各論，医学書院 松澤 正：理学療法評価学，金原出版
参 考 書	細田 多穂 他編：理学療法ハンドブック第1～3巻（協同医書）

授 業 科 目 名	運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	単 位 認 定 者	城 下 貴 司
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習・実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日：12：00～13：00
科 目 の 目 的	理学療法の対象となる障害のうち、多くの割合を占める運動器系(骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織)疾患の理学療法を行うために必要な基礎知識を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	外傷性疾患の理学療法に関わるための基礎知識の獲得		
関 連 科 目	解剖学, 生理学, 運動学, 基礎理学療法学, 運動器系理学療法評価・治療学、運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	中間テスト(2回)：30%、定期試験：40%、授業態度その他：30%にて総合評価する		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	科目の概要・講義スケジュール 課題担当決定
2	上肢	外傷疾患 肩関節疾患 上腕骨疾患
3		
4		外傷疾患 肘関節疾患
5		
6		外傷疾患 前腕部疾患 手の骨折と脱臼疾患
7		外傷疾患 股関節疾患
8		中間テスト (上肢外傷疾患)
9	下肢	外傷疾患 股関節疾患
10		
11		外傷疾患 大腿骨疾患 膝関節疾患
12		外傷疾患 膝関節疾患 下腿部疾患
13		中間テスト (下肢外傷疾患)
14	まとめ	外傷疾患 足関節疾患
15		

教 科 書	中村 利孝：標準整形外科学. 医学書院 島田洋一、高橋仁美：術後理学療法プログラム メジカルビュー 奈良 勲(監修)：標準理学療法学 運動療法学 総論. 医学書院 奈良 勲(監修)：標準理学療法学 運動療法学 各論. 医学書院 松澤 正：理学療法評価学. 金原出版
参 考 書	細田 多穂 他編：理学療法ハンドブック第1～3巻(協同医書) 林 典雄ほか：関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーションー下肢・体幹 林 典雄ほか：関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーションー上肢

授 業 科 目 名	運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ	単 位 認 定 者	城 下 貴 司
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習・実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日：12：00～13：00
科 目 の 目 的	理学療法の対象となる障害のうち、多くの割合を占める運動器系(骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織)疾患の理学療法を行うために必要な基礎知識を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	理学療法に関わるための各疾患別理学療法の基礎知識の獲得		
関 連 科 目	解剖学，生理学，運動学，基礎理学療法学， 運動器系理学療法評価・治療学、運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	中間テスト(2回)：30%、定期試験：40%、授業態度その他：30%にて総合評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	授業範囲は広範となります。授業後の復習は必修です。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	課題担当決定
2	上肢疾患	肩関節疾患
3		肘関節疾患
4		手関節および手指疾患
5	中間テスト (上肢疾患)	
6	脊柱疾患	頚椎疾患
7		胸椎疾患
8		腰椎疾患
9		
10	中間テスト (脊柱疾患)	
11	下肢疾患	股関節疾患
12		膝関節疾患
13		足関節と足趾
14		
15	まとめ	

教 科 書	中村 利孝：標準整形外科学，医学書院 片田重彦/吉澤英造：整形外科手術 後療法ハンドブック，南江堂 奈良 勲（監修）：標準理学療法学 運動療法学 総論，医学書院 奈良 勲（監修）：標準理学療法学 運動療法学 各論，医学書院 松澤 正：理学療法評価学，金原出版
参 考 書	細田 多穂 他編：理学療法ハンドブック第1～3巻（協同医書）

授 業 科 目 名	神経生理学療法評価・治療学	単 位 認 定 者	鈴 木 学
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および実技	オ フ ィ ス ・ ア フ ー	水曜日 12:30~13:00
科 目 の 目 的	脳神経など末梢神経と中枢神経系疾患に生じる障害の評価のための検査法と検査結果を如何に統合解釈し、問題を抽出し、目標を設定していくかを学習する。具体的には。片麻痺機能テスト、筋緊張検査、深部腱反射、病的反射、感覚検査、姿勢反射検査、協調性検査、高次脳機能検査などを取り上げ、それらの検査の意義、正常と異常の違いなどを学習する。さらに各種検査を統合し、その結果から問題点の抽出、目標設定を行う能力を養う。		
学 習 到 達 目 標	1. 神経系疾患に生じる障害の機能評価としての各種検査法を実施することができる。 2. 疾患に即した検査方法を選択することができる。 3. 検査結果を統合・解釈し、問題点を抽出、目標を決定することができる。		
関 連 科 目	運動学、臨床運動学、臨床神経学、理学療法評価学、理学療法評価学演習、臨床動作分析学、神経生理学療法評価・治療学演習Ⅰ、神経生理学療法評価・治療学演習Ⅱ、臨床推論演習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 90%、平常点 10%		
準 備 学 習 の 内 容	神経系の解剖学、生理学の知識をもっていることが望ましい		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	神経疾患とは	神経疾患の病態、筋緊張のしくみ：筋紡錘と腱紡錘
2	各種神経系検査の理論と実技(1)	筋緊張検査
3	各種神経系検査の理論と実技(2)	小テスト(筋緊張)、各種反射検査
4	各種神経系検査の理論と実技(3)	各種反射検査
5	各種神経系検査の理論と実技(4)	小テスト(各種反射検査)、片麻痺回復段階検査Ⅰ：ブルンストロームテスト
6	各種神経系検査の理論と実技(5)	片麻痺機能検査Ⅱ：上田式
7	各種神経系検査の理論と実技(6)	小テスト(片麻痺機能検査)、感覚検査
8	各種神経系検査の理論と実技(7)	感覚検査
9	各種神経系検査の理論と実技(8)	小テスト(感覚検査)、小脳機能検査
10	各種神経系検査の理論と実技(9)	小脳機能検査
11	各種神経系検査の理論と実技(10)	小テスト(小脳機能検査)、脳神経検査
12	各種神経系検査の理論と実技(11)	バランス機能検査
13	各種神経系検査の理論と実技(12)	小テスト(バランス機能検査)、意識障害、知能
14	各種神経系検査の理論と実技(13)	言語障害、失認と失行
15	各種神経系検査の理論と実技(14)	神経疾患の動作の特徴

教 科 書	「神経診察クローズアップ」鈴木則宏編（メジカルビュー社） パワーポイント資料を PDF ファイルにて配布予定
参 考 書	「臨床評価指標入門ー適用と解釈のポイント」内山靖，小林武，潮見泰三編（協同医書出版社） 「片麻痺の運動療法」シゲ・ブルンストローム著，松村秩訳（医歯薬出版）

授 業 科 目 名	神経系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	単 位 認 定 者	鈴 木 学
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と実技	オ フ ィ ス ・ ア フ ー	水曜日 12:30~13:00
科 目 の 目 的	脳出血や脳梗塞などの脳血管障害、外傷性頭部損傷、脳腫瘍の症状と、それにもなる障害についての知識を習得するとともに、それらの理学療法、具体的には運動療法の原理、治療体系、評価、問題点抽出、目標設定、治療計画の立案方法、リスク管理方法について学習する。治療体系については技術面の習得も演習を実施する。具体的には急性期・回復期・慢性期それぞれに対応した治療アプローチの習得を目指し評価から効果判定まで、系統的な理学療法ができるようにする。		
学 習 到 達 目 標	1. 脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍などに生じる障害について説明できる。 2. 片麻痺障害や四肢麻痺に対する理学療法における評価、治療プログラム作成、理学療法実施方法について説明できる。 3. 片麻痺障害や四肢麻痺の理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる。		
関 連 科 目	解剖学Ⅰ,Ⅱ 生理学Ⅰ,Ⅱ 臨床神経学Ⅰ 神経系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学演習Ⅰ 臨床推論演習 評価学実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 90% 平常点 10%		
準 備 学 習 の 内 容	神経系の解剖学,生理学の知識をもっていることが望ましい		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	片麻痺の病態(1)	片麻痺を生じる疾患
2	片麻痺の病態(2)	片麻痺の機能障害と回復過程
3	片麻痺の治療原則	回復時期別の理学療法と治療の原則
4	片麻痺の評価	評価項目とその意義
5	片麻痺の急性期理学療法	ベッドサイド訓練の実際とリスク管理
6	片麻痺の回復期理学療法(1)	起居移動動作の実際
7	片麻痺の回復期理学療法(2)	起居移動動作の実際
8	片麻痺の回復期理学療法(3)	起居移動動作の実際
9	片麻痺の回復期理学療法(4)	起居移動動作の実際
10	片麻痺の回復期理学療法(5)	四肢の分離運動の促進
11	片麻痺の回復期理学療法(6)	歩行訓練
12	片麻痺の回復期理学療法(7)	歩行訓練
13	片麻痺の慢性期理学療法	維持期理学療法と在宅指導
14	片麻痺の問題点への対処	片麻痺の問題点の対処
15	片麻痺の予後予測	予後予測とゴール設定

教 科 書	理学療法テキスト「神経障害理学療法Ⅰ」石川朗 総編集(中山書店) パワーポイント資料を PDF ファイルにて配布予定
参 考 書	「Steps to Follow」P.M.デービス著(シュプリンガー・フェアラーク東京) 「系統理学療法学 神経障害理学療法学」丸山仁司 編(医歯薬出版)

授 業 科 目 名	神経系理学療法評価・治療学演習Ⅱ	単 位 認 定 者	鈴 木 学
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と実技	オ フ ィ ス ・ ア フ ー	水曜日 12:30~13:00
科 目 の 目 的	パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの成人神経系疾患の症状とそれに伴う障害についての知識を習得するとともに、それらの理学療法（運動療法の原理、治療体系、評価、問題点抽出、目標設定、治療計画立案、リスク管理）について学習する。治療体系については技術面の習得も演習を実施する。各種神経筋疾患の進行段階に合わせた理学療法、非進行性疾患に対する理学療法の能力の習得を目指し、評価から効果判定まで効果的な理学療法ができるようにする。尚、2年次の神経系理学療法学評価治療学および演習Ⅰで習得できなかった内容についても網羅する。		
学 習 到 達 目 標	1. 脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍などに生じる障害について説明できる。 2. パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの神経疾患に対する理学療法における評価、治療プログラム作成、理学療法実施方法について説明できる。 3. パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの神経疾患に対する理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる。		
関 連 科 目	解剖学Ⅰ,Ⅱ 生理学Ⅰ,Ⅱ 臨床運動学 臨床神経学Ⅰ 神経系理学療法評価・治療学 神経系理学療法学演習Ⅰ 評価学実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 90% 平常点 10%		
準 備 学 習 の 内 容	神経系の解剖学,生理学の知識をもっていることが望ましい		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	神経系の機能	錐体外路系の機能
2	各種疾患の病態と理学療法(1)	頭部外傷の病態と理学療法
3	各種疾患の病態と理学療法(2)	小テスト(頭部外傷), パーキンソン病の病態
4	各種疾患の病態と理学療法(3)	パーキンソン病の理学療法
5	各種疾患の病態と理学療法(4)	小テスト(パーキンソン病), 筋萎縮性硬化症の病態
6	各種疾患の病態と理学療法(5)	筋萎縮側索硬化症の理学療法
7	各種疾患の病態と理学療法(6)	小テスト(筋萎縮性側索硬化症), 小脳失調症の病態
8	各種疾患の病態と理学療法(7)	小脳失調症の理学療法, 脊髄小脳変性症の病態と理学療法
9	各種疾患の病態と理学療法(8)	小テスト(小脳失調と脊髄小脳変性症), 多発性硬化症の病態
10	各種疾患の病態と理学療法(9)	多発性硬化症の理学療法
11	各種疾患の病態と理学療法(10)	小テスト(多発性硬化症), 重症筋無力症、成人筋疾患
12	各種疾患の病態と理学療法(11)	脊髄疾患の病態と理学療法
13	各種疾患の病態と理学療法(12)	小テスト(脊髄疾患), 末梢神経疾患の病態と理学療法
14	各種疾患の病態と理学療法(13)	高齢者の理学療法
15	各種疾患の病態と理学療法(14)	高齢者の理学療法

教 科 書	理学療法テキスト「神経障害理学療法学Ⅱ」石川朗 総編集(中山書店) パワーポイント資料を PDF ファイルにて配布予定
参 考 書	系統理学療法学 神経障害系理学療法学 丸山仁司 編(医歯薬出版) 理学療法学ゴールドマスターテキスト5「中枢神経系理学療法学」柳澤 健編集(メジカルビュー社)

授 業 科 目 名	呼吸・循環・代謝系理学療法 評 価 ・ 治 療 学	単 位 認 定 者	仲 保 徹
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習・実技実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	金曜日 14:30~15:30 (場所: 仲保研究室)
科 目 の 目 的	本科目の目的は、呼吸器系・循環器系・代謝系疾患に関連する領域の基礎知識を広く理解し、それぞれの疾患に対応した理学療法の評価と治療法の基本を身につけることである。		
学 習 到 達 目 標	各内部疾患と障がい機序を理解し、内部障がい者のニーズと基本的な評価項目を列挙することができる。 各内部疾患(者)に対する理学療法の標準的な治療法・理学療法の適応と禁忌の判断・効果判定・リスクを説明することができる。		
関 連 科 目	専門基礎科目群: 生理学, 運動生理学, リハビリテーション医学, 内科学 専門科目群: 呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学演習		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 (60%), 小テスト (40%)		
準 備 学 習 の 内 容	各回の講義内容部分について、新しく目にした単語・概念、または既に学習済みであっても忘れていくことについて、教科書およびWeb上で可能な限り調べ、ノートを準備の上、確認しておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	内部障がい(呼吸器疾患)の基礎	内部障害における呼吸器疾患の位置づけ。 呼吸リハビリテーション, 呼吸理学療法の必要性。 呼吸の概念
2	呼吸器系の解剖学・運動学	呼吸器系の解剖学, 胸郭の構造 呼吸運動のメカニズム, 胸郭運動について
3	呼吸器系の生理学	換気, ガス交換, 血液ガスの評価
4	呼吸不全と呼吸器疾患	呼吸不全の病態 呼吸不全を呈する代表的な疾患について
5	呼吸理学療法のための評価 1	評価の目的 フィジカルアセスメント, ADL, QOL の評価 画像所見の評価
6	呼吸理学療法のための評価 2	肺機能検査, 運動耐容能の評価
7	呼吸理学療法基本手技 1	コンディショニング, リラクゼーション
8	呼吸理学療法基本手技 2	体位排痰法
9	呼吸理学療法基本手技 3	スクイーミング
10	酸素療法及び在宅酸素療法	酸素療法の目的, 在宅酸素療法について
11	人工呼吸療法	人工呼吸器とは 人工呼吸器が生体に与える影響, ウィーニング
12	呼吸リハビリテーションのガイドライン 1	急性呼吸不全に対する理学療法
13	呼吸リハビリテーションのガイドライン 2	慢性呼吸不全に対する理学療法
14	吸引	呼吸理学療法における吸引の意義及び注意点 吸引の基礎, 実際
15	呼吸関連障害・まとめ	呼吸関連障害について まとめ

教 科 書	理学療法学 6 内部障害系理学療法学 柳澤 健編集 (メジカルビュー)
参 考 書	「呼吸運動療法の理論と技術」本間生夫 監 (メジカルビュー) 「理学療法ハンドブック 改訂第3版」細田多穂・他編集 (協同医書出版社) 「15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸」石川 朗編 (中山書店)

授 業 科 目 名	呼吸・循環・代謝系理学療法 評価・治療学演習	単 位 認 定 者	木 村 朗
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	演習・講義(木村)	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火・水 12:10~12:50(木村研究室)
科 目 の 目 的	本科目の目的は、呼吸器系・循環器系・代謝系疾患(者)に対応した理学療法プログラムを立案し、安全に実践するための根拠のある知見に基づく基本的能力を身につけさせることである。		
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各内部疾患(者)に生じる障害を理解し、基本的な評価項目と治療法を列挙することができる。</li> <li>各内部疾患(者)に対応した理学療法プログラムを立案することができる。</li> <li>各内部疾患(者)・合併者のリスクを判断し、理学療法の評価法・治療法を実施するための適応禁忌の判断基準に基づいて、基本的技術を模擬患者および健常者に対し試みることができる。</li> </ul>		
関 連 科 目	専門基礎科目群：生理学、運動生理学、リハビリテーション医学、内科学 専門科目群：呼吸・循環・代謝系理学療法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(50%)に加え、実技テスト・小テスト・課題レポート・授業参加度など(50%)		
準 備 学 習 の 内 容	各回の講義内容部分について、新しく目にした単語・概念、または既に学習済みであっても忘れていくことについて、教科書およびWeb上で可能な限り調べ、ノートを準備の上、確認しておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	<u>I. 内部障害のリハビリテーションと循環器系疾患と理学療法</u>	内部障害のリハビリテーションと循環・代謝系疾患と障害・疫学(心疾患・高血圧・動脈硬化症)
2	循環器解剖生理と病態 1	循環器の構造と機能
3	循環器解剖生理と病態 2	循環系の障害と運動の影響・運動によるリスク
4	循環器解剖生理と病態 3	循環器疾患(抹消循環障害)と一般的治療
5	循環器(心臓)の評価 1	心臓の理学所見のとり方(フィジカルアセスメント)、心電図のモニタリング基礎 1
6	循環器(心臓)の評価 2	心電図のモニタリング基礎 2
7	全身持久力・運動耐容能評価(循環器患者の全身持久力・運動耐容能評価)	循環器疾患(者)の運動耐容能力の評価(ATの求め方)、運動強度設定(METsの概念)、ADLの評価
8	循環器系理学療法評価(演習)1	心疾患の理学療法の実際 1
9	循環器系理学療法(演習)2	心疾患の理学療法の実際 2
9	循環器系理学療法(演習)3	心疾患の理学療法の実際 3
10	代謝系疾患・障害(者)の疫学	代謝疾患(主として糖尿病・肥満)の疫学
11	代謝系疾患の基礎(解剖生理・病態)	運動とエネルギー基質、糖尿病の病態と合併症進展の機序
12	糖尿病の評価	糖尿病の診断基準、食事療法・薬物療法、検査・SMBG・糖尿病の運動療法の禁忌と適応条件
13	糖尿病の理学療法評価(演習) 1	SMBG(安静時)、運動強度測定方法(HR法)、運動処方と運動指導の演習
14	糖尿病の理学療法(演習) 2	SMBG(運動前後)、身体活動量測定法
15	その他内部障害・代謝系疾患の理学療法(演習) 3	肥満症、悪性腫瘍等体力消耗性疾患の理学療法、運動指導の実際

教 科 書	標準理学療法学 運動療法学 総論 第3版(医学書院) 理学療法士のための運動処方マニュアル(文光堂)
参 考 書	「15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝」 石川 朗編(中山書店)

授 業 科 目 名	小 児 理 学 療 法 学	単 位 認 定 者	中 徹
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と実技	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	発達に障害をもつ人々の障害を理解し、その改善のための理学療法について学ぶ		
学 習 到 達 目 標	脳性麻痺・発達遅滞・筋ジストロフィー・二分脊椎の障害が説明でき、それぞれの理学療法の方針と内容を示すことができる		
関 連 科 目	人間発達学・小児科学・神経内科学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 70% レポート 30%		
準 備 学 習 の 内 容	テキストの講義の該当部分を読んでおいて予習すること		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	脳性麻痺 1	脳性麻痺の定義
2	脳性麻痺 2	脳性まひの判定的評価 1 = 麻痺のタイプと身体分布
3	脳性麻痺 3	脳性まひの判定的評価 2 = 重症度とタイプ別の機能的予後
4	脳性麻痺 4	脳性まひの機能的な評価 - 運動機能の変化を捉えるために
5	脳性麻痺 5	脳性まひの能力的な評価 - 運動能力の変化を捉えるために
6	脳性麻痺 6	脳性まひの治療体系と理学療法介入
7	知的障害・ダウン症	麻痺のない運動障害の捉え方
8	重症心身障害児・者	日本に固有な概念である重症心身障害 理学療法で対応できること
9	ハイリスク新生児	障害以前の状態を正しく理解する
10	てんかん	発達に遅滞をきたす障害としてのてんかん (知的障がいとの区別)
11	二分脊椎 1	二分脊椎の疾患論
12	二分脊椎 2	二分脊椎の理学療法
13	筋ジストロフィ 1	筋ジストロフィの疾患論
14	筋ジストロフィ 2	筋ジストロフィの理学療法
15	発達障害での問題解決方法	クリニカルリーズニングのすすめかた

教 科 書	シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト
参 考 書	講義内で提示する

授 業 科 目 名	理 学 療 法 特 殊 講 義	単 位 認 定 者	江 口 勝 彦
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7.5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	毎週水曜日 12:10-12:30
科 目 の 目 的	<p>主たる対照疾患の一つである脳血管障害においては、前頭葉運動野にあるBetzの巨大細胞から始まる錐体路を中心とした運動の神経機構の破綻のみならず、特殊な高次脳機能の障害による症候が存在する。</p> <p>また、理学療法の臨床を取り巻く状況は、高齢社会、介護保険などに象徴されるように在宅ケア、ターミナルケアへと広がりつつある一方で、高度先進医療あるいは超急性期治療への参画などにも広がっている。</p> <p>本講義においては、高次脳機能、急性期リハビリテーションという2つのテーマについて、臨床的なあるいは新しいトピックスを交えながら概説する。</p>		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 理学療法に関連する高次脳機能について、局在と症候を中心に理解する。</li> <li>2) 理学療法に関連する高次脳機能障害に関する評価について理解する。</li> <li>3) 理学療法に関連する高次脳機能障害に関する治療戦略について理解する。</li> <li>4) リハビリテーション前置主義について理解する。</li> <li>5) 重症疾患患者とリスク管理について理解する。</li> <li>6) 清潔・不潔の概念、手洗いの重要性を理解する。</li> <li>7) 救命救急センター・周術期・集中治療室における理学療法について知る。</li> </ol>		
関 連 科 目	<p>関連し合う科目-臨床神経学、神経系理学療法評価・治療学、医療概論、臨床医学特殊講義、内科学、各理学療法評価・治療学</p> <p>この科目が基礎となる科目-総合臨床実習</p>		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート(40%)、筆記試験(60%)		
準 備 学 習 の 内 容	脳の解剖、臨床神経学神経、臨床神経学の復習。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 ～ 4	<第1部> 急性期・集中治療における理学療法 (江口勝彦)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション医療、理学療法の変遷</li> <li>2. 急性期理学療法とリスク管理 重症疾患患者/体力消耗状態</li> <li>3. 清潔と不潔 手洗い 感染予防</li> <li>4. モニタリング</li> <li>5. 救命救急センターにおける理学療法</li> <li>6. 周術期理学療法</li> <li>7. 集中治療室における理学療法</li> </ol>
5 ～ 8	<第2部> 高次脳機能障害と理学療法 (柴田雅祥)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高次脳機能とは</li> <li>2. 入力系の障害、出力系の障害 言語の障害、認知の障害、行為の障害</li> <li>3. 中枢神経系の構造と局所機能の復習</li> <li>4. 病巣と高次脳機能障害 局在論、症候・症状、評価、治療</li> <li>5. 高次脳機能に対する理学療法</li> </ol> <p>筆記試験</p>

教 科 書	初山 泰弘 (監) : 図解 自立支援のための患者ケア技術. 医学書院
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	物 理 療 法 学	単 位 認 定 者	松 澤 正
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日：12:10-13:00 (場所：研究室)
科 目 の 目 的	物理療法は、運動療法と共に、理学療法の中で車の両輪をなすもので、その治療法を理解することは、疾病治療を進める上で欠かせないものであり、物理療法の治療根拠と実際を学習する。物理療法の前半として、電気療法、電気診断、超音波療法、マッサージ、牽引療法等について、その定義、分類、原理、生理学的作用、適応、禁忌、実際について、基本的事項を習得させることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	臨床実習において、物理療法の治療に当り、その治療根拠を理解し、各種疾患に対し、適切な治療ができるようにすることを目標とする。なお、グループワークの中で、自分の果たす役割ができるようにすることを目指す。		
関 連 科 目	生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅰ・Ⅱ 内科学 整形外科Ⅰ・Ⅱ 基礎理学療法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験やレポート等を総合して評価する。 試験 50%、実習レポート 50%		
準 備 学 習 の 内 容	電気、力学、熱力学の基本的物理用語を理解しておく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ～ 15		物理療法の定義、位置付け、物理療法の原理、分類 電気療法Ⅰ（電気療法の定義、分類、電気の基礎） 電気生理学 電気療法Ⅱ（低周波療法、経皮的電気刺激療法、干渉波療法、機能的電気刺激療法） 電気診断（クロナキシー、SD曲線、誘発筋電図） 超音波療法（定義、原理、生理学的作用、治療の実際） マッサージⅠ（定義、生理学的作用、基本手技） マッサージⅡ（身体各部の手技の実際） 牽引療法（牽引療法の定義、生理学的作用、実際） 以上、講義で取り上げた治療法と診断法（SD曲線、クロナキシー、誘発筋電図、低周波療法、SSP療法、干渉波療法、超音波療法、牽引療法）について、グループワークを週毎に治療法を変えて実習する。

教 科 書	「物理療法学」松澤正他（金原出版）
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	物 理 療 法 学 演 習	単 位 認 定 者	目 黒 力
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	物理療法は、運動療法と共に、理学療法の中で車の両輪をなすもので、その治療法を理解することは、疾病治療を進める上で欠かせないものであり、物理療法の治療根拠と実際を学習する。物理療法の後半部分で、温熱療法、水治療法、光線療法等について、その定義、分類、原理、生理学的作用、適応、禁忌、実際について基本的事項を習得させることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	臨床実習において物理療法の治療に当り、その治療根拠を理解し、各種疾患に対し、適切な治療ができるようにすることを目標とする。なお、グループワークの中で、自分の果たす役割ができるようにすることを目指す。		
関 連 科 目	生理学 運動学 内科学 整形外科学 基礎理学療法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 (45%) 実習レポート (45%) 学習態度・その他 (10%)		
準 備 学 習 の 内 容	事前に教科書ならびに実習書、実習要項を熟読の上参加すること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1		温熱・寒冷療法Ⅰ (定義、熱力学、生理学的作用)
2		温熱・寒冷療法Ⅱ (寒冷の定義、分類、生理学的作用) 温熱・寒冷療法Ⅲ (温熱療法の実際、寒冷療法の実際)
3		
4		高周波療法 (高周波療法の原理、生理学的作用、治療効果)
5		高周波療法 (超短波療法、極超短波療法、適応、禁忌)
6		水治療法Ⅰ (水治療法の定義、生理学的作用：非特異的作用、特異的作用)
7		水治療法Ⅱ (水治療法の実際)
8		光線療法Ⅰ (光線療法の定義、分類、生理学的作用)
9		光線療法Ⅱ (光線療法の実際：赤外線療法、日光浴、紫外線療法)
10		光線療法Ⅲ (レーザー療法：定義、生理学的作用、応用)
11		以上、講義で取り上げた治療法 (ホットパック療法、パラフィン療法、クリッカー、寒冷療法、極超短波療法、ハバートタンク、全身浴、赤外線療法、紫外線療法、レーザー療法) について、グループワークを各週毎に治療法を変えて実習する。
12		
13		
14		
15		まとめ

教 科 書	「物理療法学」 金原出版
参 考 書	「物理療法学実習書」 群馬パース大学編

授 業 科 目 名	装 具 学	単 位 認 定 者	江 口 勝 彦
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義, 実技演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	毎週水曜日 12:10-12:30
科 目 の 目 的	理学療法の治療手段の一つとして, 装具を理解する.		
学 習 到 達 目 標	<p>理学療法治療学との連携を考慮し, 有効な治療手段として装具を選択できることを第一の目標とする.</p> <p>装具に関する基礎的知識と理学療法に必要な適合判定を学ぶ. 基礎的知識は, 装具の定義, 歴史, 目的, 装具の種類, 装具の適応, 装具の構造と材料などを内容とする. 非常に多くの種類の装具について, 形・名称のみならず憶えなければならない事項がたくさんあるので, 自身で描いてみたり, 実物を装着してみたりしながら学習するとよい.</p> <p>また, 演習としてギブス採型, 装具作成などを行う.</p>		
関 連 科 目	<p>関連し合う科目-各理学療法評価・治療学, 臨床実習科目</p> <p>この科目が基礎となる科目-</p>		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	<p>1) 前回の講義の内容に関してミニクイズを行い, 学習度を評価する.</p> <p>2) 講義最終に中間のまとめとして筆記試験を行う.</p> <p>3) 上記1), 2) の点数が合格ライン (各60%) に達しない学生に対し, 最終回に再度試験を行う.</p> <p>4) 実技演習での参加, 態度, 成果 (採型実習各10%, 製作作品, 足底板・スプリント各15%) を成績に反映する.</p> <p>5) 実技演習は全時間の参加をもって, 単位認定の条件とする.</p>		
準 備 学 習 の 内 容	<p>第2講: 力学の復習</p> <p>第3講~第10講: 下肢の解剖, 運動学の復習</p> <p>第11講~第13講: 脊柱の解剖, 運動学の復習</p> <p>第14講~第15講: 手の解剖, 運動学の復習</p> <p>第17講 運動器系理学療法評価・治療学の復習</p> <p>第18講 神経系理学療法評価・治療学の復習</p> <p>第19講 呼吸循環代謝系理学療法評価・治療学の復習</p> <p>演習 1~8: 演習ガイダンスで説明する</p>		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	コースオリエンテーション	コースオリエンテーション・科目の概要・学習法など
2	概論	装具学概論 下肢装具総論 下肢装具総論
3	下肢装具①	ミニクイズ・短下肢装具①
4	下肢装具②	短下肢装具②
5	下肢装具③	ミニクイズ・短下肢装具③
6	下肢装具④	股装具・膝装具
7	下肢装具⑤	ミニクイズ・長下肢装具
8	下肢装具⑥	その他の下肢装具
9	下肢装具⑦	ミニクイズ・靴の補正
10	下肢装具⑧	足底装具
11	体幹装具①	ミニクイズ・体幹装具①
12	体幹装具②	体幹装具②
13	体幹装具③	ミニクイズ・体幹装具③
14	上肢装具①	上肢装具①
15	上肢装具②	ミニクイズ・上肢装具②
16	中間のまとめ/演習ガイダンス	筆記試験/演習ガイダンス

回	講 義 題 目	講 義 内 容
17	臨床編1 (鈴木 学)	神経系理学療法における装具 内部障害系理学療法における装具  スプリント作成 (短対立装具) スプリント作成 (短対立装具)  ギプス採型実習 (体幹装具) ギプス採型実習 (下肢装具)  スプリント作成 (短対立装具) スプリント作成 (短対立装具)  足底板作成 足底板作成  足底板作成 足底板作成  足底板作成 足底板作成  筆記試験
18	臨床編3 (木村 朗)	
19	演習①	
20	演習②	
21	演習③	
22	演習④	
23	演習⑤	
24	演習⑥	
25	演習⑦	
26	演習⑧	
27	演習⑨	
28	演習⑩	
29	演習⑪	
30	演習⑫	

教 科 書	日本整形外科医学会, 日本リハビリテーション医学会監修: 義肢装具のチェックポイント. 医学書院. 石川朗, 佐竹将宏: 理学療法テキスト装具学. 15 レクチャーシリーズ. 中山書店.
参 考 書	別途紹介

授 業 科 目 名	義 肢 学	単 位 認 定 者	平 井 正 利
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義形式の座学および実習。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	義肢の目的、構造、処方、適合判定の基礎知識を学ぶ。 義肢の組立、調整方法、異常歩行の分析などの実習を行う。		
学 習 到 達 目 標	症例に合った義肢の適応判断、適合判定が行える様になる。知識的には国家試験レベルを最低ラインとする。		
関 連 科 目	解剖学、生理学、運動学、運動生理学、整形外科学、理学療法評価学、運動器系理学療法学、神経系理学療法学、装具学、高齢者理学療法学・スポーツ障害・障害理学療法学、他		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100% (平常点 10%)		
準 備 学 習 の 内 容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べ理解しておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	義肢総論	概論・力学・足部
2	義肢総論	膝継手
3	下腿義足	P T B 式 ・ P T S 式 ・ K B M 式 ・ T S B 式
4	下腿義足	アライメント・適合・異常歩行
5	大腿義足	四辺形・I R C
6	大腿義足	アライメント・適合・異常歩行
7	サム・股義足	概論
8	下腿義足	疑似体験実習
9	大腿義足	組み立て実習
10	大腿義足	組み立て実習
11	義手	概論
12	義肢装着訓練	概論
13	国家試験対策	過去の試験問題を理解する
14	国家試験対策	過去の試験問題を理解する
15	国家試験対策	過去の試験問題を理解する

教 科 書	「義肢装具学テキスト」細田多穂 (南江堂)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	徒手系理学療法学	単 位 認 定 者	城 下 貴 司
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義及び実技指導	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	金曜日：12：00～13：00
科 目 の 目 的	本科目では、理学療法の一画をなす徒手理学療法の体系、治療原理、各手技の適用や基本的な技術について学ぶ。 特に固有受容性神経筋促通法 (Proprioceptive Neuromuscular Facilitation; PNF)、関節、軟部組織、神経モビライゼーションの原理を理解し、基本手技を修得することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	それぞれの徒手理学療法の手技の治療原理と適用、その根拠が言える。 PNFの基本パターンが実施できる。適切なモビライゼーションを選択し実施できる。		
関 連 科 目	解剖学、生理学、運動学、基礎理学療法学、運動器系理学療法学評価治療、運動器系理学療法学評価治療演習Ⅰ、運動器系理学療法学評価治療演習Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験：50%，実技試験：50%		
準 備 学 習 の 内 容	授業後のモビライゼーションやPNF練習は必修		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Manual Therapy Concept PNF 概念1	講義および実技
2	Mobilization Concept Joint Mobilization Concept PNF 概念2	講義および実技
3	Soft Tissue Mobilization Concept 上肢パターン(PNF)	講義および実技
4	Nerve Mobilization Concept	講義および実技
5	Thoracic vertebrae 上肢パターン(PNF)	講義および実技
6	Lumbar vertebra 下肢パターン(PNF)	講義および実技
7	Shoulder 上肢パターン(PNF)	講義および実技
8	Elbow 両側性対称性(PNF)	講義および実技
9	Wrist	講義および実技
10	両側性対称性(PNF)	
11	Hip joint	
12	肩甲帯パターン(PNF)	
13	Knee joint 骨盤帯パターン(PNF)	講義および実技
14	Foot&Ankle	講義および実技
15	まとめ	講義および実技

教 科 書	細田 多穂：理学療法ハンドブック第2 巻治療アプローチ 協同医書
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	スポーツ傷害理学療法学	単 位 認 定 者	城 下 貴 司
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習、実技実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	金 曜 : 1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 0 0
科 目 の 目 的	本講座の目的は、スポーツ傷害・障害に対する基礎知識とその理学療法の評価・治療手技の習得		
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ傷害に関する基礎知識を列挙することができる。</li> <li>・ スポーツ傷害・障害に対する理学療法評価の意義・目的・評価過程・判断基準を列挙できる。</li> <li>・ スポーツ傷害・障害に対する基本的な理学療法の治療手技を適正に実践できる。</li> </ul>		
関 連 科 目	専門基礎科目群：生理学，運動生理学，整形外科学， 専門科目群：運動器系理学療法評価学，運動器系理学療法学評価治療，運動器系理学療法学評価治療演習Ⅰ、運動器系理学療法学評価治療演習Ⅱ、徒手系理学療法学，健康増進・スポーツコンディショニング論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実技テスト：40%・筆記テスト：40%・授業参加度その他：20%にて総合評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	授業後のテーピング練習は必修		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	オリエンテーション	今後の講義予定
1	スポーツ傷害の理学療法総論 講義（外勤講師による）	スポーツ医学とアスレチックリハビリテーション
2		スポーツ医学と基礎
3		身体運動とバイオメカニクス
4		スポーツ傷害に対する演習 1
5		スポーツ傷害に対する演習 2
6	スポーツ傷害の理学療法各論 講義	スポーツ傷害に対する演習 3
7		スポーツ傷害に対する演習 （スポーツテーピングを中心に）1
～		スポーツ傷害に対する演習 （スポーツテーピングを中心に）2
15	スポーツ傷害の理学療法各論 実技	スポーツ傷害に対する演習 （スポーツテーピングを中心に）3
	特別講義 足底挿板療法	スポーツ傷害に対する演習 （スポーツテーピングを中心に）4
		スポーツ傷害に対する演習 （スポーツテーピングを中心に）5
		スポーツ傷害に対する演習 （スポーツテーピングを中心に）6
		スポーツ傷害に対する演習 （スポーツテーピングを中心に）7
		まとめ

教 科 書	細田 多穂：理学療法ハンドブック第2 巻治療アプローチ 協同医書
参 考 書	栗山 節郎：DVDでみるテーピングの実際 南江堂 黒沢 尚：スポーツ外傷学（4）下肢 医歯薬出版 Clinical Sports Medicine Peter Brukner and Karim Khan ,McGraw.Hill Australia

授 業 科 目 名	日 常 生 活 活 動 学	単 位 認 定 者	蛭 間 基 夫
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義及び演習	オ フ ィ ス ・ ア フ ー	火曜日 12:10~13:00
科 目 の 目 的	人間が日常生活を営む上で必要な基本動作となる起居・移動、食事、排泄、入浴、更衣、整容などを取り上げ、それらの動作の分析・評価方法、また、障害をもつ患者さんへの練習・指導方法などについて学習する。さらに、日常生活活動各動作の自立度の改善向上に有効な手段である歩行補助具、車いすなどの使用法、適応などについて学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. ADL・APDL・IADL・QOL の概念や範囲を説明できる。 2. 代表的な ADL 評価法の目的と活用法について説明できる。 3. 基本動作を含む ADL を運動学的にとらえ、模倣することができる。 4. 移動補助具の基本構造が説明でき、使用することができる。		
関 連 科 目	日常生活活動学演習、理学療法評価学、臨床動作分析学、生活環境学、生活環境学演習、地域理学療法学、地域理学療法学演習、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学、装具学、義肢学、評価学実習、総合臨床実習 I、総合臨床実習 II		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(9割)に加え、課題(1割)とともに学習態度、演習時の出席状況などを総合的に判断する。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義の内容を復習し、今回の講義との関連性を事前に理解して講義に臨むこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	概論 1	ガイダンス ADL の概念と範囲
2	概論 2	ADL の評価：目的・基準・尺度
3	各論 1	ADL の評価：代表的な評価法 I
4	各論 2	ADL の評価：代表的な評価法 II
5	各論 3	セルフケアの構成要素 I (食事・排泄・更衣・入浴・整容)
6		
7	各論 4	基本動作 I
8	演習 1	基本動作 II
9	各論 5	移動補助具 (杖・松葉杖・歩行器 I)
10	演習 2	移動補助具 (杖・松葉杖・歩行器 II) 複合動作
11	各論 7	移動補助具 (車いす I)
12	演習 3	移動補助具 (車いす II) 複合動作
13	演習 4	移動補助具 (車いす III) 複合動作
14	各論 8	リハビリテーション支援機器 (移乗関連機器・自助具)
15	演習 5	

教 科 書	「日常生活活動(ADL)」橋本 隆他編集 (神陵文庫), 「新版 姿勢と動作~ADLその基礎から応用~」斉藤 宏他著 (メヂカルフレンド社)
参 考 書	「新版日常生活活動(ADL)-評価と支援の実際-」伊藤利之・他編集 (医歯薬出版) 「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」鶴見隆正編集 (医学書院) 「標準理学療法学 臨床動作分析」高橋正明編集 (医学書院) 他

授 業 科 目 名	日 常 生 活 活 動 学 演 習	単 位 認 定 者	蛭 間 基 夫
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義及び演習	オ フ ィ ス ・ ア フ ー	火曜日 12:10~13:00
科 目 の 目 的	日常生活活動学で学んだセルフケアや基本動作について、疾患、障害別に分析・評価および練習・指導方法を学習する。具体的には、中枢神経疾患、脊髄損傷、関節リウマチ、骨・関節疾患、筋萎縮性側索硬化症などの疾患特有な障害に対し、歩行補助具、車いす、自助具、コミュニケーション装置の使用法を含めた日常生活へのアプローチ技術を習得する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各疾患・障害の ADL の特徴を列挙できる。</li> <li>2. 各疾患・障害の ADL 評価ができる。</li> <li>3. 各疾患・障害の ADL 指導ができる(各動作の手順の説明、必要な介助方法を他の学生に指導し、自身の状況を確認する)。</li> <li>4. 各疾患・障害に必要な自助具、福祉機器の特徴を理解し、それを選定できる。</li> </ol>		
関 連 科 目	日常生活活動学、生活環境学、生活環境学演習、地域理学療法学、地域理学療法学演習、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学、運動器系理学療法評価・治療学演習、神経系理学療法評価・治療学演習、呼吸・循環・代謝系理学療法評価学演習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(9割)に加え、課題(1割)とともに学習態度、演習時の出席状況などを総合的に判断する。		
準 備 学 習 の 内 容	演習では数名のグループに分かれて課題をまとめ、それを基礎として他の学生に説明、指導を行う準備を行う。従って、各学生が責任を持った十分な事前準備が必要となる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	講義	小児関連疾患
2	講義及び演習	脳卒中片麻痺Ⅰ,Ⅱ
3		
4	講義及び演習	頸髄損傷(四肢麻痺)Ⅰ,Ⅱ
5		
6	講義及び演習	胸腰髄損傷(対麻痺)
7	講義及び演習	関節リウマチⅠ,Ⅱ
8		
9	講義及び演習	パーキンソン症候群
10	講義及び演習	筋ジストロフィー症
11	講義及び演習	筋萎縮性側索硬化症
12	講義	車いすの構造と採寸Ⅰ
13	講義	車いすの構造と採寸Ⅱ
14	演習	車いす操作と介助Ⅰ
15	演習	車いす操作と介助Ⅱ

教 科 書	「日常生活活動(ADL)」橋本 隆・他編集(神陵文庫)、 「新版 姿勢と動作~ADLその基礎から応用~」斉藤 宏他著(メヂカルフレンド社)
参 考 書	「新版日常生活活動(ADL)-評価と支援の実際-」伊藤利之・他編集(医歯薬出版) 「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」鶴見 隆正編集(医学書院) 「理学療法ハンドブック第3巻」細田多穂、柳澤健編(協同医書出版社) 他

授 業 科 目 名	地 域 理 学 療 法 学	単 位 認 定 者	蛭 間 基 夫
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日 12:10~13:00
科 目 の 目 的	国民の疾病構造の変化と少子高齢化の進行に伴って病院を中心としたリハビリテーションサービスの提供から在宅や地域中心のリハビリテーションサービスの提供へと変化してきた。本講義では地域リハビリテーションサービスおよび理学療法サービスの目的、位置づけ、現況等を概説するとともに、通所・入所施設及び在宅で生活をする障害者・高齢者を対象に理学療法を提供する際に必要な知識・技術を修得することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	地域リハビリテーションの概念及び定義を理解する。特に介護保険制度の実態や概念を通して以下について理解する。1. 地域理学療法の機能を理解する。2. 通所、入所施設、在宅での理学療法の目的と実践方法を理解する。3. 介護保険の仕組みについて理解する。		
関 連 科 目	健康増進・スポーツコンディショニング論、日常生活活動学、日常生活活動学実習、地域理学療法実習、生活環境学、生活環境学実習、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学、運動器系理学療法評価・治療学演習、神経系理学療法評価・治療学演習、呼吸・循環・代謝系理学療法評価学演習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験によって判定する。(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義の内容を復習し、今回の講義との関連性を事前に理解して講義に臨むこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	概論 1	地域リハビリテーションの歴史と定義
2	総論 1	介護保険制度：導入の社会的背景と概要
3	総論 2	介護保険制度：サービス利用の仕組み
4	総論 3	介護保険の財源構成
5	各論 1	要介護認定の仕組み
6	各論 2	居宅サービス
7	各論 3	施設サービス
8	各論 4	地域密着型サービス
9	各論 5	訪問リハビリテーションの実際
10	各論 6	介護保険施設における理学療法士の資質と役割
11	各論 7	介護保険サービスの課題
12	各論 8	都市型地域理学療法Ⅰ
13	各論 9	都市型地域理学療法Ⅱ
14	各論 10	介護予防事業Ⅰ
15	各論 11	介護予防事業Ⅱ

教 科 書	「標準理学療法学専門分野 地域理学療法学」 牧田光代編 (医学書院)
参 考 書	「PT マニュアル 地域理学療法 第2版」 伊藤日出男・香川幸次郎著 (医歯薬出版株式会社) 「理学療法 MOOK11 健康増進と介護予防」 黒川幸雄・高橋正明他編 (三輪書店) 「地域リハビリテーション学テキスト」 備酒伸彦・他編 (南江堂)

授 業 科 目 名	地 域 理 学 療 法 学 演 習	単 位 認 定 者	蛭 間 基 夫
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義及び演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日 12:10~13:00
科 目 の 目 的	地域理学療法学演習では、地域理学療法学で習得した内容を基礎として、それらを実践的に活用できる思考及び技術の習得を目標とする。		
学 習 到 達 目 標	住宅改修や福祉用具に関する支援制度やその実態について理解し、下記について自身の考察を説明できることを目標とする。 1. 在宅の高齢者や障害者に必要な支援制度・サービスの活用方法について具体的に理解する。 2. 在宅の高齢者や障害者に対する支援でのチーム・アプローチの重要性と理学療法士の役割や専門性を理解する。		
関 連 科 目	健康増進・スポーツコンディショニング論, 日常生活活動学, 日常生活活動学実習, 地域理学療法学実習, 生活環境学, 生活環境学実習, 運動器系理学療法評価・治療学, 神経系理学療法評価・治療学, 呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学, 小児理学療法学, 運動器系理学療法評価・治療学演習, 神経系理学療法評価・治療学演習, 呼吸・循環・代謝系理学療法評価学演習, 総合臨床実習Ⅰ, 総合臨床実習Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(8割)に加え課題(2割)とともに学習態度, 演習時の出席状況などを総合的に判断する。ただし, 成績の評定には演習に必ず出席することが前提となる。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義の内容を復習し, 次回の講義との関連性を事前に理解して講義に臨むこと。また, 「地域理学療法学」の内容についても各自で復習すること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	総論 1	対象者のディマンズとニーズの発見の視点
2	総論 2	地域, 在宅サービスにおける多職種の連携と役割
3	各論 1, 2	住宅改修費用補助
4		
5	各論 3, 4	福祉用具貸与
6		
7	各論 5, 6	福祉用具購入費補助
8		
9	各論 7, 8	介護予防事業
10		
11	演習 1, 2, 3	介護予防教室の実際
12		
13		
14	演習 4, 5	住宅改修及び福祉用具の実際
15		

教 科 書	「標準理学療法学専門分野 地域理学療法学」 牧田光代編 (医学書院)
参 考 書	「PT マニュアル 地域理学療法 第2版」 伊藤日出男・香川幸次郎著 (医歯薬出版株式会社) 「理学療法 MOOK11 健康増進と介護予防」 黒川幸雄・高橋正明他編 (三輪書店) 「地域リハビリテーション学テキスト」 備酒伸彦・他編 (南江堂)

授 業 科 目 名	生 活 環 境 学	単 位 認 定 者	目 黒 力
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および実習 (11 コマ) ならびに学外演習 (3 コマ) 予定	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	生活環境学では、日本国憲法第 25 条に定められた生存権を基本概念として、高齢者や障害者がよりよい生活を営むことができるように、理学療法として高齢者・障害者を取り巻く、物理的環境、経済的環境、制度的環境、人的環境に関する調整を行うために必要な知識の整理とその方法論について学び、生活環境学の考え方について理解することを学習目標とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者・障害者を取り巻く 4 つの環境について説明できる。</li> <li>2. 「まち」における物理的環境の制約要因について説明できる。</li> <li>3. 福祉機器の種類や適応を理解することができる。</li> <li>4. 高齢者・障害者を取り巻く経済制度、法制度について理解できる。</li> </ol>		
関 連 科 目	日常生活活動学・日常生活活動学演習・地域理学療法学・地域理学療法学実習・環境理学療法学 リハビリテーション工学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 (80%) レポート (10%) 学習態度・発表会 (10%)		
準 備 学 習 の 内 容	専門用語などについて事前に調べておくことが望ましい		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	生活環境学概論 1	生活環境学とは
2	生活環境学概論 2	生活環境と人間 1
3	生活環境学概論 3	生活環境と人間 2
4	経済制度と法制度	介護保険制度を中心とした保険制度
5	都市交通工学概論 1	まちを考える 1
6	都市交通工学概論 2	まちを考える 2
7	都市交通工学概論 3	まちを考える 3
8	都市交通工学概論 4	まちめぐり実習 1
9	都市交通工学概論 5	まちめぐり実習 2
10	福祉機器概論 1	福祉機器総論
11	福祉機器概論 2	福祉機器見学実習
12	福祉機器概論 3	福祉機器見学実習
13	都市交通工学概論 6	まちめぐり発表会
14	都市交通工学概論 7	まちめぐり発表会
15		まとめ

教 科 書	ユニバーサルデザインのまちづくり 森北出版
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	環 境 理 学 療 法 学	単 位 認 定 者	目 黒 力
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	環境理学療法学では、生活環境学で学んだ事を更に発展させ、より実践的に学習することを目標とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 日本における住環境を理解し、ハウスアダプテーションの概念を理解することができる。 2. CADを使って簡単な設計図面を描くことができる 3. 実際の場面に即した簡単な福祉機器を製作することができる。		
関 連 科 目	日常生活活動学・日常生活活動学演習・地域理学療法学・地域理学療法学実習・生活環境学リハビリテーション工学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 (80%) レポート (10%) 学習態度・発表会 (10%)		
準 備 学 習 の 内 容	事前にテキストなどを予習しておくことが望ましい		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	住環境演習 1	日本人と住居
	住環境演習 2	日本人と住居
	住環境演習 3	家屋調査と住環境
	住環境演習 4	家屋調査と住環境
	住環境演習 5	2次元CAD演習
	住環境演習 6	2次元CADcad演習
	住環境演習 7	3次元CAD演習
～	住環境演習 8	特別講義
	住環境演習 9	特別講義
	福祉機器概論 1	エレクターパイプによる福祉機器作成
	福祉機器概論 2	エレクターパイプによる福祉機器作成
	住環境演習 10	発表会 (バリアフリー住宅発表会)
	住環境演習 11	発表会 (バリアフリー住宅発表会)
15	まとめ	

教 科 書	やさしく学ぶJw_cad6—CAD&CG MAGAZINE 福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	見 学 実 習	単 位 認 定 者	仲 保 徹
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 週 間 )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義, 学外演習 (1 週間)	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	—
科 目 の 目 的	<p>病院・施設等における理学療法の臨床場面の見学を通し、社会人・専門職としての基本的態度を養い、また、見学施設での理学療法士の役割、理学療法業務、リハビリテーションの中での位置づけを理解することを目的とする。</p> <p>3 年次での評価学実習、4 年次の総合臨床実習 I・II に向けての導入、準備のための実習と位置づける。</p>		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人・専門職としての基本的態度を身につける。</li> <li>2. 見学施設における理学療法士所属部署の位置づけ、他職種との関連を理解する。</li> <li>3. 見学施設における理学療法の対象を理解する。</li> <li>4. 見学施設における理学療法業務を理解する。</li> </ol>		
関 連 科 目	評価学実習、総合臨床実習 I、総合臨床実習 II		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習前準備、臨床実習での出席状況、実習後報告会での内容を総合して判断		
準 備 学 習 の 内 容	医療面接、理学療法評価 (バイタルチェック、形態計測、関節可動域計測) の復習		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	実習前準備	実習に関する情報収集、実技確認など
	オリエンテーション	見学実習の実習目的、目標、実習内容等の説明
	見学実習	病院等実習施設における見学実習 (臨床実習)
	実習後報告会	見学実習で学んできたことについての報告会

教 科 書	使用しない
参 考 書	<p>「標準理学療法学 臨床実習とケーススタディー」鶴見隆正編 (医学書院)</p> <p>「実習の達人 学生編」理学療法科学学会編 (アイベック)</p>

授 業 科 目 名	評 価 学 実 習	単 位 認 定 者	仲 保 徹
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	3 単 位 ( 3 週 間 )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、学外演習 (3 週間)	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	—————
科 目 の 目 的	病院・施設等の実習指導者の指導のもとに、既習の知識を総動員し患者の臨床的問題を解決するための情報収集、理学療法評価、理学療法診断、問題点抽出、目標設定ができるようになることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人・専門職としての基本的態度を身につける。</li> <li>2. 理学療法を実施するのに必要な患者の情報を収集することができる。</li> <li>3. 患者の疾患、障害に即した検査・測定を選択、実施することができる。</li> <li>4. 情報収集、検査・測定の結果から理学療法における問題点の抽出ができる。</li> <li>5. 理学療法における目標設定ができる。</li> </ol>		
関 連 科 目	理学療法評価学、理学療法評価学演習、表面解剖学と触診法、臨床動作分析学、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学、運動器系理学療法評価・治療学演習、神経系理学療法評価・治療学演習、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学演習、見学実習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席状況・レポート・実習後報告会での内容		
準 備 学 習 の 内 容	これまで学習してきた知識と技術を実習当日まで各自で整理、練習をすること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	オリエンテーション  評価学実習  実習後報告会	評価学実習の実習目的、目標、実習内容等の説明  病院等実習施設における評価学実習  評価学実習で学んできたことについての報告会

教 科 書	配布プリント
参 考 書	「標準理学療法学 臨床実習とケーススタディー」鶴見隆正編 (医学書院) 「実習の達人 学生編」理学療法科学学会編 (アイペック)

授 業 科 目 名	総 合 臨 床 実 習 I	単 位 認 定 者	蛭 間 基 夫
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	前 期
単 位 数	7 単 位 ( 8 週 間 )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨床実習施設に於いて、臨床実習指導者の指導・監督の下実習を行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	_____
科 目 の 目 的	学内で学んだ理学療法の知識、技術の全般について、病院、施設の臨床現場で実習する。特に、神経疾患を中心に、理学療法の流れに従って、理学療法評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、理学療法治療の実施、理学療法記録等を、臨床実習指導者の下、実地で習得する。		
学 習 到 達 目 標	総合臨床実習は、1～3年次で修得した知識と技術の総合的な修練の場である。臨床実習指導者の指導・監督の下、理学療法評価、理学療法診断、治療指針、目標の設定、治療計画・プログラムの設定、それに基づく一貫した治療（の一部）を実施し、さらには経過を観察し、適否・有効性について考察できるようになることを目標とする。また、この実習では、実際の医療チームの一員としてその役割や責務を体験し、理解することも目的の一つである。		
関 連 科 目	全科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出欠席，総合臨床実習指導報告書，レポート等課題および学内報告会などを総合して判断する。		
準 備 学 習 の 内 容	_____		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	コースオリエンテーション	本科目の目的，学習到達度，成績評価方法 実習スケジュール 実習方法などについて 臨床実習指導者の紹介・打ち合わせ
2	実習（8週間）	各実習地における実習
3	実習訪問	各実習地へ専任教員が訪問し，実習の経過・進捗の確認，その他臨床実習指導者との打ち合わせなど
4	臨床実習報告会 （症例発表会，ならびに審査会）	個々の学生が，臨床実習で経験した症例の中から，1例を選択して発表する。 発表内容，提出課題などを審査する。

教 科 書	_____
参 考 書	別途案内

授 業 科 目 名	総 合 臨 床 実 習 II	単 位 認 定 者	蛭 間 基 夫
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	前 期
単 位 数	7 単 位 ( 8 週 間 )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨床実習施設に於いて、臨床実習指導者の指導・監督の下実習を行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	—————
科 目 の 目 的	学内で学んだ理学療法の知識、技術の全般について、病院、施設の臨床現場で実習する。特に、整形外科疾患等を中心にして、理学療法の流れに従って、理学療法評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、理学療法治療の実施、理学療法記録等を、臨床指導者の下、実地で習得する。		
学 習 到 達 目 標	総合臨床実習は、1～3年次で修得した知識と技術の総合的な修練の場である。臨床実習指導者の指導・監督の下、理学療法評価、理学療法診断、治療指針、目標の設定、治療計画・プログラムの設定、それに基づく一貫した治療（の一部）を実施し、さらには経過を観察し、適否・有効性について考察できるようになることを目標とする。また、この実習では、実際の医療チームの一員としてその役割や責務を体験し、理解することも目的の一つである。		
関 連 科 目	すべての科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出欠席，総合臨床実習指導報告書，レポート等課題および学内報告会などを総合して判断する。		
準 備 学 習 の 内 容	—————		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	コースオリエンテーション	本科目の目的，学習到達度，成績評価方法 実習スケジュール 実習方法などについて 臨床実習指導者の紹介・打ち合わせ
2	実習（8週間）	各実習地における実習
3	実習訪問	各実習地へ専任教員が訪問し，実習の経過・進捗の確認，その他臨床実習指導者との打ち合わせなど
4	臨床実習報告会 （症例発表会，ならびに審査会）	個々の学生が，臨床実習で経験した症例の中から，1例を選択して発表する。 発表内容，提出課題などを審査する。

教 科 書	—————
参 考 書	別途案内